

2014～2019 年度調査研究事業  
「歯科医療による健康増進効果に関する調査研究」

報告書

2020 年 10 月

公益財団法人 8020 推進財団

## 目 次

I. 調査の背景	2
II. 調査の目的	3
III. 調査方法	4
IV. 調査結果	8
1. 追跡調査における追跡率（調査歯科医院数と患者数）	8
2. 対象歯科医院の特性（歯科医院調査の結果）	10
(1) ベースライン（2014年度調査）	
(2) 追跡5年目（2019年度調査）	
3. 歯科患者調査結果（歯科医療の健康増進効果）	13
(1) ベースライン調査の対象者の特性	
(2) 口腔健康保持の関連要因（追跡調査）	
(3) 口腔（歯数、歯周状態）と全身の健康（NCDs、主観的健康状態）の関係	
1) ベースライン調査	
2) 追跡調査	
(4) 定期歯科健診受診と口腔および全身の健康の関係	
1) 歯の喪失との関連（追跡調査）	
2) 全身の健康状態との関連（追跡調査）	
(5) 歯科患者の受診パターンの把握とそれに影響する要因の把握	
1) 歯科受診パターンの関連要因（ベースライン調査）	
2) 歯科受診パターンの変化の関連要因（追跡調査）	
4. 一般地域住民を対象とした調査結果	40
(1) 歯科医療の受療状況	
(2) 一般地域住民の歯科受診パターンの関連要因	
(3) 一般地域住民調査結果と歯科患者調査結果との比較	
V. まとめと提言	49
VI. 参考文献	52

添付資料

## I. 調査の背景

人口の高齢化による社会保障費の増加は、国や保険者の財政負担に直結する。そのため、国民皆保険制度を維持し、高齢社会における安定的な社会保障制度を構築するためにより効果的で効率的な医療提供体制が求められている。このような政策評価には、NDBをはじめとするビッグデータを用いて、その分析の結果得られるエビデンスに基づく立案・評価が行われるようになってきている。このような政策動向を踏まえて、歯科医療・口腔保健の分野からも全国規模のデータを基に社会保障制度の維持と安定に貢献できるという根拠を示し将来に向けた政策提言を行っていくことが必要である。

国民皆保険制度によって歯科医療の受療率が比較的高いわが国では、国民の歯科口腔保健に対する認識変化を背景に、定期歯科健診受診者の増加等の国民レベルで歯科受診行動が変化してきている<sup>1)</sup>。歯科受診行動は、国民皆保険制度下であっても社会経済的要因の影響を受ける<sup>2)</sup>。また、わが国の国民の口腔保健状態は、歯の保存状況および小児う蝕罹患状況等過去30年間で大きく改善してきている一方、高齢者のう蝕、歯周病等の口腔疾患および口腔機能の低下とそれに対応する歯科口腔保健サービスのアクセス向上という新たな課題が浮かび上がってきている<sup>3)</sup>。

歯・口腔の健康と全身の健康の保持増進との関連を示す研究報告が蓄積され、歯・口腔の健康が、主な死亡原因である非感染性疾患（Non-communicable diseases：以下NCDs）と要介護状態の原因となる脳卒中および認知症やそのリスク因子のいずれにも影響することが明らかになってきている。このような口腔と全身の健康との関連を踏まえて、健康寿命の延伸を図る健康施策にのなかに歯科口腔保健の位置づけが明示されるようになってきた<sup>4)</sup>。わが国の歯科医療は、その歯科治療のほとんどの内容が公的医療保険でカバーされ、しかも他の疾患に比べて受療率も高いという特性を有する。しかしこの特性を踏まえ、わが国の歯科医療が健康増進に果たす効果を検証した報告はほとんどみられない。

以上の観点から、本調査は国民皆保険制度における歯科医療による全身の健康の保持増進効果をより明らかにするために、全国の12,000名規模の歯科患者を対象に、2014～2019年度に「歯科医療による健康増進効果」に関する追跡調査研究事業（患者調査）を実施した。併せて対象となった歯科医院の規模、予防的歯科診療の実施状況等その特性について調査した。また、2015年度は全国の一般住民を対象として、患者調査と同様の質問紙調査（一般住民調査）を実施し、歯科患者と一般地域住民の口腔保健および歯科受診状況について比較検討を行った。

## II. 調査の目的

本調査の目的は下記の通りである。

### ・歯科医院調査

- 1) 歯科医院の特性、予防処置および定期健診実施状況等の把握

### ・患者調査

- 1) 歯科受診患者の口腔および全身の健康状態の把握とその関連性の検討
- 2) 歯科受診状況と口腔と全身の健康の関係の検討
- 3) 歯科受診患者の受診状況の把握とそれに影響する要因の把握

### ・一般住民調査

- 1) 一般住民の歯科受診状況、および口腔と全身の健康状態の把握
- 2) 歯科受診患者調査を対象とした 2014 年度調査結果との比較・検討

### III. 調査方法

#### III-1. 歯科医院調査および歯科受診患者調査

##### 【対象】

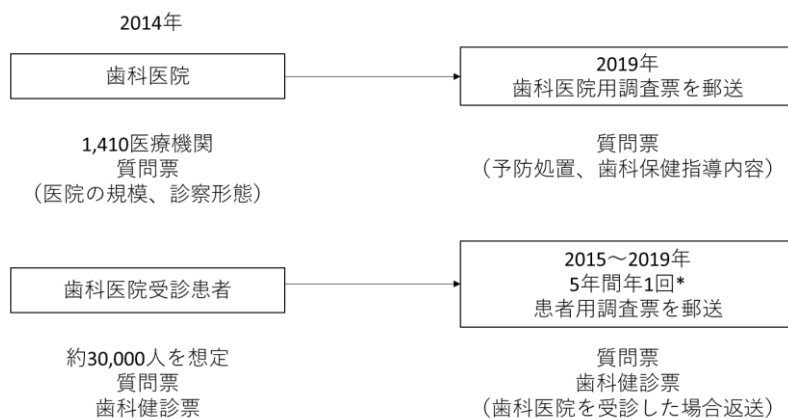
- ・各都道府県歯科医師会に所属する歯科医院からそれぞれ 30 施設ずつ抽出した計 1,410 施設
- ・抽出された歯科医院に、10 月の 1 週間に来院した 20 歳以上のすべての初診患者および再初診患者（訪問診療患者を除く）約 30,000 人を想定

##### 【調査期間】

- ・岡山県を除く 46 都道府県  
2014 年から 2019 年までの 6 年間  
2014 年度：10 月下旬の 1 週間  
2015～2019 年度 質問紙調査：毎年 10 月 30 日～翌年 1 月 31 日  
歯科健診：毎年 10 月 30 日～翌年 3 月 31 日
- ・岡山県  
2015 年から 2019 年までの 5 年間  
2015 年度：11 月下旬の 1 週間  
2016～2019 年度 質問紙調査：毎年 10 月 30 日～翌年 1 月 31 日  
歯科健診：毎年 10 月 30 日～翌年 3 月 31 日

##### 【調査の流れ】

- ・歯科医院とその受診患者を対象として調査を実施する。
- ・対象歯科医院に質問票調査を実施し、歯科医院の規模、診療形態等を調べる。
- ・受診患者を対象に、質問票調査と歯科健診による評価を各歯科医院が実施する。
- ・受診患者には、2015 年以降 5 年間追跡し、年 1 回質問票と歯科健診票を郵送し、対象歯科医院を受診した場合は歯科医院で健診票を記入してもらい、質問票と併せて 8020 推進財団に返送してもらう。追跡調査時に対象歯科医院以外の歯科医院に受診した場合も同様に、歯科健診票を持参し記入してもらった後、質問票と併せて返送してもらう。



【調査項目】

2014～2019 年度調査の受診患者の質問票、歯科健診および歯科医院の質問票の項目を表 1 に示す。

表 1. 2014～2019 年度調査項目

評価方法	2014年度(ベースライン) 評価項目	項目番号	2015～2019年度*(追跡調査) 評価項目	項目番号
患者質問票	歯や歯ぐきの健康状態	Q1-1	歯や歯ぐきの健康状態	Q1-1
	歯や口の状態で気になること	Q1-2	歯や口の状態で気になること	Q1-2
	全身の健康状態	Q2-1	全身の健康状態	Q2-1
	全身の健康に関する症状	Q2-2	全身の健康に関する症状	Q2-2
	病気の治療	Q2-3	病気の治療	Q2-3
	歯の本数	Q3-1	歯の本数	Q3-1
	義歯の使用	Q3-2	義歯の使用	Q3-2
	臼歯部の咬合	Q4	臼歯部の咬合	Q4
	歯みがき時の出血	Q5	歯みがき時の出血	Q5
	歯肉の腫脹	Q6	歯肉の腫脹	Q6
	歯にしみる	Q7	歯にしみる	Q7
	かかりつけの歯科医院	Q8	かかりつけの歯科医院	Q8
	忙しさで歯科医院に行けない	Q9	忙しさで歯科医院に行けない	Q9
	歯の健康への関心	Q10	歯の健康への関心	Q10
	歯に自信がある	Q11	歯に自信がある	Q11
	外出先での歯みがき	Q12	外出先での歯みがき	Q12
	間食	Q13	間食	Q13
	生活習慣(喫煙, 飲酒, 運動習慣, 野菜摂取)	Q14	生活習慣(喫煙, 飲酒, 運動習慣, 野菜摂取)	Q14
	歯みがき回数	Q15-1	歯みがき回数	Q15-1
	寝る前の歯みがき	Q15-2	寝る前の歯みがき	Q15-2
	歯みがき剤の使用	Q15-3	歯みがき剤の使用	Q15-3
	歯間ブラシ・フロスの使用	Q16	歯間ブラシ・フロスの使用	Q16
	ゆっくり噛んで食事	Q17	ゆっくり噛んで食事	Q17
	歯みがき指導	Q18	最後の歯科医院受診時期	Q18-1
	定期健診で歯科医院受診	Q19-1	受診歯科医院はベースライン時と同じ	Q18-2
過去の歯科医院受診	Q19-2	歯科医院受診理由	Q18-3	
介護認定	Q20	定期健診の頻度	Q18-4	
困った時に助けてくれる人	Q21	治療内容	Q18-5	
職業	Q22	歯みがき指導	Q19	
暮らしの状況	Q23-1	困った時に助けてくれる人	Q20	
経済状況	Q23-2	職業	Q21	
教育年数	Q24	経済状況	Q22	
身長, 体重	Q25	教育年数	Q23	
		身長, 体重	Q24	
口腔診査	現在歯・喪失歯の状況 歯周ポケット, 歯肉出血 アタッチメントロス		現在歯・喪失歯の状況 歯周ポケット, 歯肉出血 アタッチメントロス	
歯科医院質問票	所在地	Q1	過去1か月の定期健診の実施	Q1
	院長の性別	Q2	成人と高齢者における定期健診時の 処置と指導	Q1-1
	院長の年齢	Q3	高齢者における定期健診時の処置と 指導	Q1-2
	歯科医院の標榜科	Q4	過去1か月の歯科保健指導の実施	Q2
	診療台数	Q5	歯科保健指導の時間	Q2-1
	質問票記入日の患者数	Q6		
	スタッフ数	Q7		
	過去1か月の予防処置の実施	Q8		
	過去1か月の定期健診の実施	Q9		
	定期健診時の処置と指導	Q9-1		
	過去1か月の歯科保健指導の実施	Q10		
歯科保健指導の時間	Q10-1			

\*歯科医院質問票は 2019 年度のみ実施

## Ⅲ-2. 一般住民調査

### 【対象と調査の流れ】

調査対象は20歳～79歳の者（昭和11年1月1日生から平成6年12月31日生）とする。

調査対象者は、層化2段無作為抽出法で5,000人を抽出する。調査地の市区町村を選定した後、調査地の住民基本台帳閲覧の申請を行う。閲覧許可を得た後、住民基本台帳より抽出した調査対象者の情報（住所・氏名・性別・生年月日）を取得する。

### ※抽出方法

- 1) 全国を11地区（北海道、東北、関東、北陸、東山、東海、近畿、中国、四国、北九州、南九州）に分類。

各地区を都市規模によって、下記のように分類し、計31層に分ける。

- ① 政令指定都市（東山、四国地区はなし）
- ② 人口5万人以上の市
- ③ 人口5万人未満の市及び町村

平成22年国勢調査時の調査区に基づいて、政令指定都市では2地点、5万人以上の市または5万人未満の市町村では1地点の調査地を、乱数表を用いて各層で無作為に抽出する。計40地点を抽出する。

- 2) 地区・都市規模別各層における20歳以上人口の大きさにより、それぞれ5,000の標本数を比例配分する。
- 3) 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内で標本となる対象者が抽出できるように、抽出間隔（調査地点20歳以上人口／調査地点抽出標本数）を算出し、住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出する。

調査対象者に対して郵送で質問紙を発送、郵送にて質問紙を回収する。

なお、本調査は無記名にて実施する。

### 【調査期間】

2015年11月1日～2016年2月1日

【調査項目】

質問票の項目を表 2 に示す。

表 2. 調査項目

評価方法	評価項目	項目番号
質問票	歯や歯ぐきの健康状態	Q1-1
	歯や口の状態で気になること	Q1-2
	全身の健康状態	Q2-1
	全身の健康に関する症状	Q2-2
	病気の治療	Q2-3
	介護認定	Q2-4
	口腔が原因による仕事への支障	Q2-5
	口腔が原因による不眠	Q2-6
	歯の本数	Q3-1
	義歯の使用	Q3-2
	臼歯部の咬合	Q4
	歯みがき時の出血	Q5
	歯肉の腫脹	Q6
	歯にしみる	Q7
	かかりつけの歯科医院	Q8
	忙しさを歯科医院に行けない	Q9
	歯の健康への関心	Q10
	歯に自信がある	Q11
	外出先での歯みがき	Q12
	間食	Q13
	生活習慣（喫煙，飲酒，運動習慣，野菜摂取）	Q14
	歯みがき回数	Q15-1
	寝る前の歯みがき	Q15-2
	歯みがき剤の使用	Q15-3
歯間ブラシ・フロスの使用	Q16	
ゆっくり噛んで食事	Q17	
歯科受診の有無	Q18	
過去の歯科医院受診	Q18-1	
受診理由	Q18-2	
定期健診の頻度	Q18-3	
歯みがき指導	Q19	
困った時に助けてくれる人	Q20	
職業	Q21	
暮らしの状況	Q22	
教育年数	Q23	
身長，体重	Q24	



## IV. 調査結果

### IV-1. 追跡調査における追跡率(調査歯科医院数と患者数)

2014 年度ベースライン調査（岡山県は 2015 年に実施）の対象となった歯科医院は 1,384 施設で、このうち、質問票及び歯科健診票を回収できたのは 1,237 施設（89.4%）であった（表 3）。

調査を実施した歯科医院のうち、調査期間に来院した新患・再初診患者数について回答が得られた 1,106 施設の新患・再初診患者の総数は 49,909 人で、1 歯科医院あたり 45.1±70.7 人（平均値±標準偏差）であった（表 4）。調査を実施した歯科医院 1,237 施設において 12,496 人の患者から調査協力が得られ、1 歯科医院あたり 10.1±6.6 人であった（表 5）。

表 3. 調査協力歯科医院数

都道府県	都道府県歯科医師会が選定した歯科医院		協力歯科医院	
	施設数	%	施設数	%
北海道	30	26	86.7	
青森県	30	30	100.0	
岩手県	30	18	60.0	
宮城県	30	30	100.0	
秋田県	30	30	100.0	
山形県	30	30	100.0	
福島県	30	28	93.3	
茨城県	30	20	66.7	
栃木県	30	30	100.0	
群馬県	26	25	96.2	
埼玉県	30	29	96.7	
千葉県	30	30	100.0	
東京都	26	17	65.4	
神奈川県	30	30	100.0	
新潟県	30	30	100.0	
富山県	30	30	100.0	
石川県	30	27	90.0	
福井県	14	10	71.4	
山梨県	30	27	90.0	
長野県	30	30	100.0	
岐阜県	30	29	96.7	
静岡県	30	26	86.7	
愛知県	30	26	86.7	
三重県	30	27	90.0	
滋賀県	30	30	100.0	
京都府	30	28	93.3	
大阪府	30	23	76.7	
兵庫県	30	23	76.7	
奈良県	30	30	100.0	
和歌山県	30	30	100.0	
鳥取県	30	30	100.0	
島根県	30	25	83.3	
岡山県	30	21	70.0	
広島県	30	29	96.7	
山口県	30	30	100.0	
徳島県	30	30	100.0	
香川県	27	25	92.6	
愛媛県	30	24	80.0	
高知県	30	29	96.7	
福岡県	30	28	93.3	
佐賀県	30	28	93.3	
長崎県	31	19	61.3	
熊本県	30	18	60.0	
大分県	30	30	100.0	
宮崎県	30	24	80.0	
鹿児島県	30	28	93.3	
沖縄県	30	20	66.7	
合計	138	1237	89.4	

表 4 新患・再初診患者数

都道府県	回答数	調査期間に来院した	
		患者総数	1 歯科医院あたり平均患者数(標準偏差)
北海道	23	1533	66.7 (133.2)
青森県	27	1430	53.0 (68.1)
岩手県	16	1004	62.8 (95.2)
宮城県	27	1019	37.7 (44.0)
秋田県	29	1124	38.8 (38.1)
山形県	25	718	28.7 (30.0)
福島県	27	1375	50.9 (106.5)
茨城県	20	1491	74.6 (110.9)
栃木県	28	608	21.7 (18.1)
群馬県	24	1029	42.9 (54.2)
埼玉県	28	719	25.7 (18.8)
千葉県	28	914	32.6 (35.5)
東京都	14	430	30.7 (27.4)
神奈川県	27	1525	56.5 (64.2)
新潟県	28	3380	120.7 (185.0)
富山県	27	1477	54.7 (103.5)
石川県	22	1007	45.8 (43.3)
福井県	9	1167	129.7 (301.0)
山梨県	23	1095	47.6 (34.1)
長野県	28	1314	46.9 (46.5)
岐阜県	26	1058	40.7 (44.6)
静岡県	23	508	22.1 (9.5)
愛知県	22	1116	50.7 (105.2)
三重県	25	1613	64.5 (78.6)
滋賀県	27	1499	55.5 (51.8)
京都府	27	681	25.2 (18.7)
大阪府	20	819	41.0 (33.4)
兵庫県	21	770	36.7 (37.6)
奈良県	25	881	35.2 (32.3)
和歌山県	25	693	27.7 (17.4)
鳥取県	27	1060	39.3 (30.8)
島根県	20	1148	57.4 (59.6)
岡山県	21	851	40.5 (41.2)
広島県	29	1389	47.9 (51.7)
山口県	25	889	35.6 (44.0)
徳島県	27	1126	41.7 (41.0)
香川県	24	682	28.4 (28.1)
愛媛県	21	874	41.6 (36.5)
高知県	24	725	30.2 (24.2)
福岡県	25	688	27.5 (30.9)
佐賀県	23	1134	49.3 (60.1)
長崎県	12	295	24.6 (14.2)
熊本県	15	798	53.2 (45.6)
大分県	27	1196	44.3 (35.3)
宮崎県	22	1655	75.2 (126.5)
鹿児島県	27	869	32.2 (53.0)
沖縄県	16	533	33.3 (30.4)
合計	1106	49909	45.1 (70.7)

表 5. 調査協力患者数

都道府県	回答数	調査協力患者数	
		患者総数	1 歯科医院あたり平均患者数(標準偏差)
北海道	26	337	13.0 (5.8)
青森県	30	344	11.5 (5.7)
岩手県	18	243	13.5 (6.4)
宮城県	30	266	8.9 (5.4)
秋田県	30	291	9.7 (5.9)
山形県	30	321	10.7 (6.9)
福島県	28	170	6.1 (4.6)
茨城県	20	146	7.3 (6.8)
栃木県	30	281	9.4 (6.0)
群馬県	25	246	9.8 (6.4)
埼玉県	29	383	13.2 (8.2)
千葉県	30	222	7.4 (6.6)
東京都	17	176	10.4 (6.8)
神奈川県	30	347	11.6 (6.6)
新潟県	30	413	13.8 (6.4)
富山県	30	390	13.0 (6.0)
石川県	27	322	11.9 (4.8)
福井県	10	60	6.0 (2.9)
山梨県	27	369	13.7 (7.4)
長野県	30	287	9.6 (5.6)
岐阜県	29	355	12.2 (6.3)
静岡県	26	293	11.3 (9.5)
愛知県	26	253	9.7 (6.4)
三重県	27	280	10.4 (6.6)
滋賀県	30	268	8.9 (6.8)
京都府	28	251	9.0 (6.0)
大阪府	23	300	13.0 (5.8)
兵庫県	23	203	8.8 (7.0)
奈良県	30	375	12.5 (7.2)
和歌山県	30	184	6.1 (4.2)
鳥取県	30	311	10.4 (7.7)
島根県	25	204	8.2 (5.8)
岡山県	21	88	4.2 (1.2)
広島県	29	366	12.6 (6.3)
山口県	30	273	9.1 (6.0)
徳島県	30	361	12.0 (6.1)
香川県	25	160	6.4 (5.9)
愛媛県	24	290	12.1 (6.8)
高知県	29	186	6.4 (6.2)
福岡県	28	240	8.6 (5.5)
佐賀県	28	307	11.0 (7.1)
長崎県	19	159	8.4 (5.9)
熊本県	18	188	10.4 (5.8)
大分県	30	306	10.2 (6.6)
宮崎県	24	305	12.7 (7.5)
鹿児島県	28	209	7.5 (5.5)
沖縄県	20	167	8.4 (6.7)
合計	1237	12496	10.1 (6.6)

2016～2019 年度追跡調査の質問紙調査票および歯科健診票の回収率、調査参加率を表 6 に示す。5 年間の追跡期間中、参加率は年々減少したが、最終年度の 2019 年度調査では調査参加率は 58.5%で比較的高い追跡率であった。

表 6. 2016～2019 年度追跡調査参加者数

	2015年 追跡1年目	2016年 追跡2年目	2017年 追跡3年目	2018年 追跡4年目	2019年 追跡5年目
調査対象受診患者数	12,150				
回収数(回収率)					
質問紙調査票	7,805 (64.2%)	8,073 (66.4%)	7,601 (62.6%)	7,200 (59.3%)	6,919 (56.9%)
歯科健診票	3,942 (32.4%)	3,537 (29.1%)	3,038 (25.0%)	2,699 (22.2%)	2,452 (20.2%)
調査参加者総数(参加率)	8,230 (67.7%)	8,437 (69.4%)	7,877 (64.8%)	7,441 (61.2%)	7,105 (58.5%)
調査参加の内訳(参加率)					
質問紙調査票と 歯科健診票の両方回収	3,517 (28.9%)	3,173 (26.1%)	2,762 (22.7%)	2,458 (20.2%)	2,266 (18.7%)
質問紙調査票のみ回収	4,288 (35.3%)	4,900 (40.3%)	4,839 (39.8%)	4,742 (39.0%)	4,653 (38.3%)
歯科健診票のみ回収	425 (3.5%)	364 (3.0%)	276 (2.3%)	241 (2.0%)	186 (1.5%)

2014～2019 年度調査の質問紙調査票に回答した患者の性別・年齢別の分布を表 7 に示す。全ての調査年度で男性よりも女性の割合が高かった。また、年齢別では、2014 年度ベースライン調査では 20～39 歳の割合が 20.4%であったが、2019 年度追跡調査では 7.7%であった。調査年度ごとに中年・高齢者層の割合が高くなる傾向にあった。

表 7. 2014～2019 年度調査の質問紙調査票に回答した患者の性別・年齢

	2014年 ベースライン	2015年 追跡1年目	2016年 追跡2年目	2017年 追跡3年目	2018年 追跡4年目	2019年 追跡5年目
質問票に回答した 患者数	12,496	8,230	8,073	7,601	7,200	6,919
性別						
男性	4,482 (35.9%)	2,796 (34.0%)	2,792 (34.6%)	2,620 (34.5%)	2,642 (36.7%)	2,369 (34.2%)
女性	8,014 (64.1%)	5,434 (66.0%)	5,281 (65.4%)	4,981 (65.5%)	4,738 (65.8%)	4,550 (65.8%)
年齢						
20～29歳	1,012 (8.1%)	356 (4.3%)	274 (3.4%)	209 (2.7%)	161 (2.2%)	110 (1.6%)
30～39歳	1,543 (12.3%)	780 (9.5%)	667 (8.3%)	567 (7.5%)	484 (6.7%)	424 (6.1%)
40～49歳	1,931 (15.5%)	1,149 (14.0%)	1,155 (14.3%)	1,055 (13.9%)	978 (13.6%)	921 (13.3%)
50～59歳	2,126 (17.0%)	1,426 (17.3%)	1,398 (17.3%)	1,270 (16.7%)	1,187 (16.5%)	1,149 (16.6%)
60～69歳	2,967 (23.7%)	2,304 (28.0%)	2,295 (28.4%)	2,081 (27.4%)	1,910 (26.5%)	1,763 (25.5%)
70～79歳	2,319 (18.6%)	1,758 (21.4%)	1,777 (22.0%)	1,838 (24.2%)	1,861 (25.8%)	1,877 (27.1%)
80歳以上	598 (4.8%)	457 (5.6%)	507 (6.3%)	581 (7.6%)	619 (8.6%)	675 (9.8%)

## IV-2. 対象歯科医院の特性(歯科医院調査の結果)

### (1) ベースライン(2014 年度調査)

歯科医院調査として、歯科医院の状況に関する質問票を配布し、調査実施歯科医院 1,215 施設のうち 1,181 施設から回答が得られた。

院長の年齢と性別を表 8 に示す。院長の年齢は 51.9±8.2 歳で、男性 1,135 人、女性 46 人であった(表 8)。

表 8. 院長の年齢と性別

	男 (1,135人)		女 (46人)		計 (1,181人)	
平均値	51.9		52.5		51.9	
標準偏差	8.2		8.3		8.2	
	人数	%	人数	%	人数	%
30歳代	62	5.5	3	6.5	65	5.5
40歳代	384	33.8	14	30.4	398	33.7
50歳代	516	45.5	20	43.5	536	45.4
60歳代	140	12.3	8	17.4	148	12.5
70歳以上	33	2.9	1	2.2	34	2.9

質問票に回答した歯科医院の 72.0%は診療台数が 3~4 台であり、歯科衛生士専用の診療台が 1 台以上ある歯科医院は 21.8%であった(表 9)。

表 9. 診療台数と歯科衛生士専用診療台数

	診療台数		診療台のうち 歯科衛生士 専用台	
平均値	3.9		平均値 0.4	
標準偏差	1.5		標準偏差 0.8	
	人数	%	人数	%
1-2台	69	5.8	0台	784 66.4
3台	486	41.2	1台	165 14.0
4台	364	30.8	2台	57 4.8
5台	157	13.3	3台	35 3.0
6台以上	105	8.9	無回答	140 11.9

表 10. 従事者数

診療従事者数について、常勤の歯科医師が 1 人の施設は 73.7%で、非常勤の歯科医師が 1 人以上いる施設は 19.9%であった(表 10)。常勤の歯科衛生士が 1 人以上いる施設は 77.8%で、常勤歯科衛生士数の平均は 1.8±1.6 人であった。非常勤の歯科衛生士が 1 人以上いる施設は 45.9%であった。

		歯科医師		歯科衛生士	
常勤	平均値	1.3		1.8	
	標準偏差	0.8		1.6	
	0人	0	0	262	22.2
	1人	870	73.7	338	28.6
	2人	255	21.6	271	22.9
非常勤	3人以上	56	4.7	310	26.2
	平均値	0.4		0.9	
	標準偏差	0.9		1.3	
	0人	946	80.1	639	54.1
	1人	140	11.9	270	22.9
	2人	45	3.8	148	12.5
	3人以上	50	4.2	124	10.5

歯科予防処置の実施状況について、80%以上の施設がフッ化物歯面塗布や歯周病等の予防管理を実施しており、フッ化物洗口を実施している施設は15.2%、シーラントを行っている施設は57.5%であった(図2)。

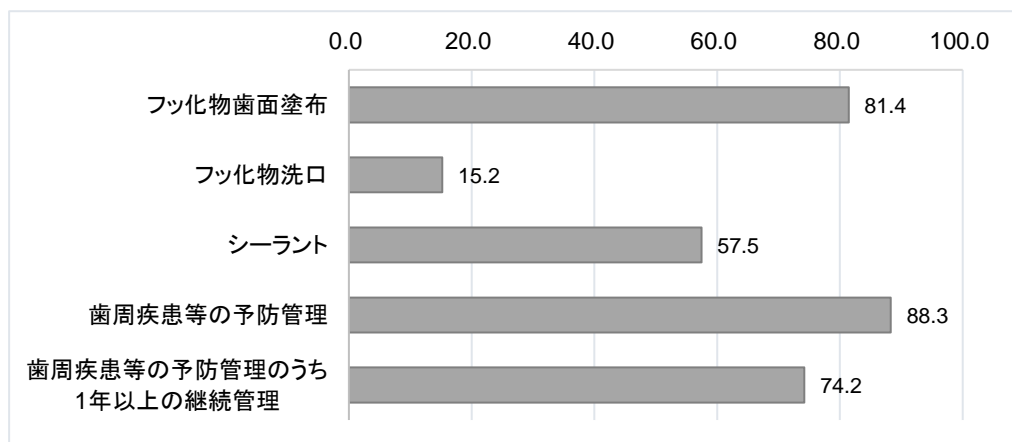


図2. 過去1か月に実施した歯科予防処置(%)

定期健診を実施している施設は85.5%であった。

成人に対して定期健診時に行っている内容として、歯肉縁上の歯石除去や歯面清掃を毎回必ず行う施設は70%以上であった。なかでも、13.2%の施設はフッ化物歯面塗布を毎回必ず行っていた(図3)。

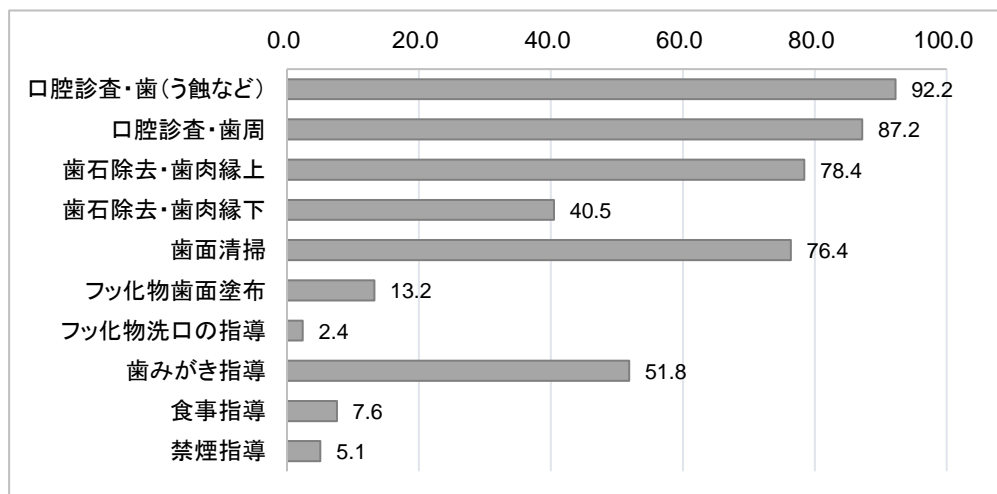


図3. 定期健診時に成人に対して毎回必ず行っている処置や指導(%)

## (2) 追跡 5 年目 (2019 年度調査)

2019 年度調査では 432 施設から回答が得られた。成人と高齢者に対して定期健診時に行っている内容として、歯肉縁上の歯石除去や歯面清掃を毎回必ず行う施設は 70%以上で、歯科保健指導を行う施設は 47%であった。また、フッ化物歯面塗布を毎回／ある程度行う施設は 46%であった(図 4)。

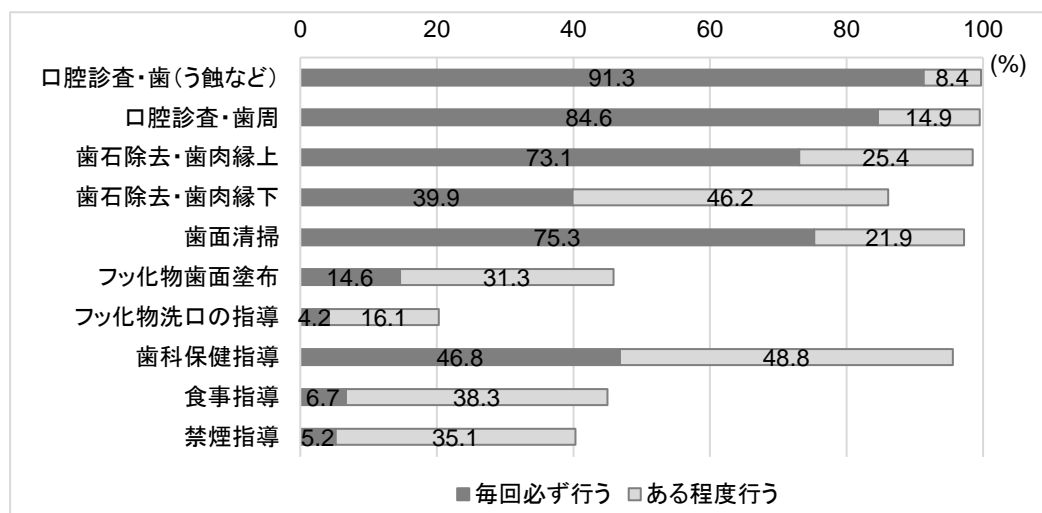


図 4. 成人と高齢者に対して、定期健診時に行っている処置や指導

定期健診時に高齢者に対して行っている処置や指導内容では、義歯の清掃指導を毎回必ず行う施設は 43%で、根面う蝕の予防処置や口腔乾燥に対する保健指導を毎回／ある程度行う施設は 60%以上であった(図 5)。

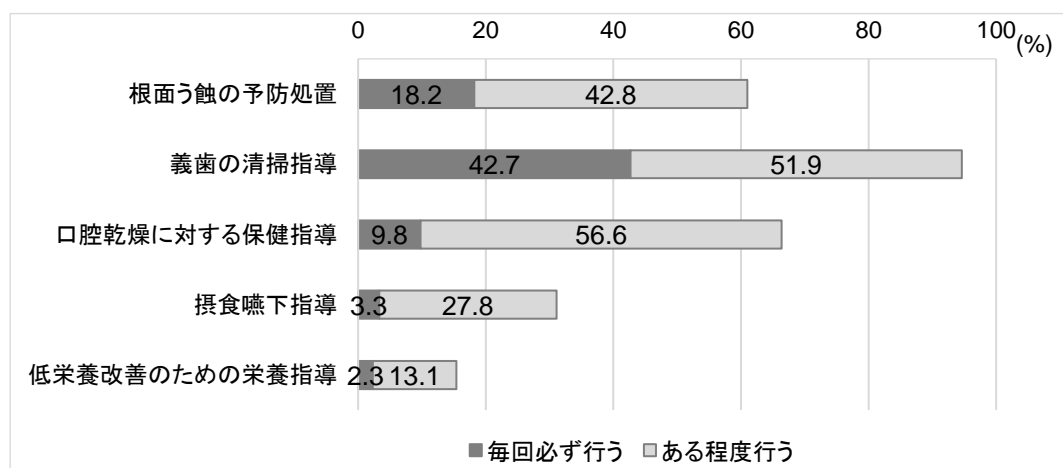


図 5. 高齢者に対して、定期健診時に行っている処置や指導

### IV-3. 歯科患者調査結果（歯科医療の健康増進効果）

#### (1) ベースライン調査(2014年、岡山県のみ 2015年)の対象者の特性

##### 1) 歯科医院の受診理由・状況

本調査では、新患・再初診患者を対象としたが、受診理由のうち、治療のためと回答した者は57.0%、定期健診のためと回答した者は30.8%、治療および定期健診のためと回答した者は12.3%であり、約40%の者は定期健診を目的として歯科医院を受診していた。最後の歯科医院受診が1年以内の者は全体の76.4%で、年齢が上がるにつれて1年以内の歯科医院受診者の割合は高かった。

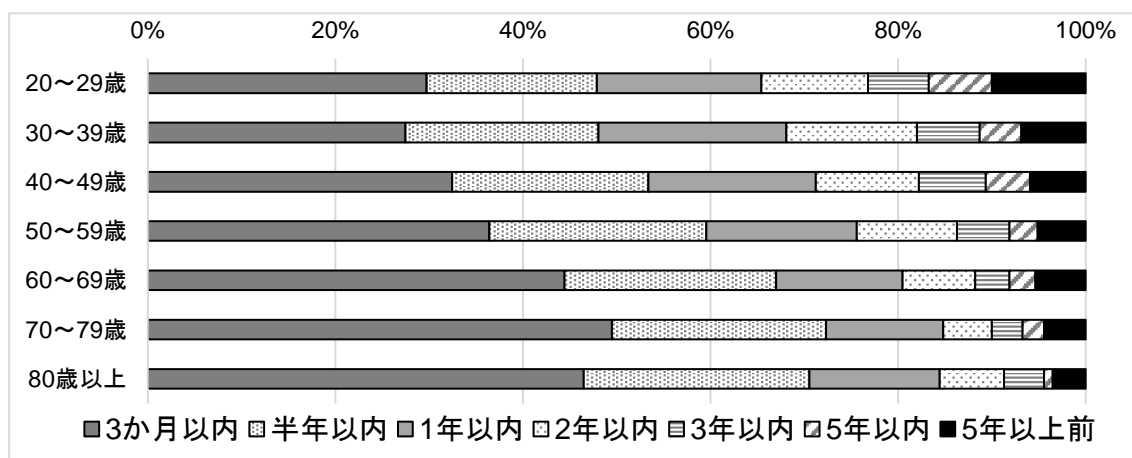


図6. 最後の歯科医院受診の状況

##### 2) 主観的健康状態

主観的な口腔の健康状態として、歯や歯肉の健康状態が良くない、あまり良くない(不良)と回答した者は全体の34.5%であった(図7)。口腔の健康状態が不良だと思う者は、20～40歳代では26～30%であったが、50～60歳代では40%前後となり、70歳代以上では低下して30%前後であった。

全身の健康状態が不良と回答した者は全体の12.0%であり、歯科医院の来院患者における主観的な全身健康状態は口腔健康状態に比べて良好であることが伺えた(図8)。全身健康状態が不良と回答した者は、20～40歳代で10%を下回り、50歳代から10%を超え、加齢とともに増加する傾向にあった。

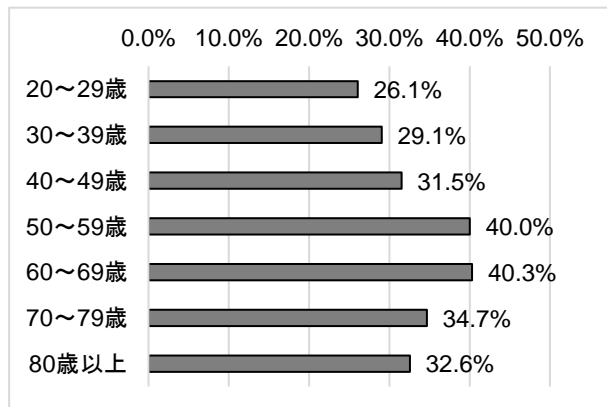


図7. 主観的口腔の健康状態が不良な者

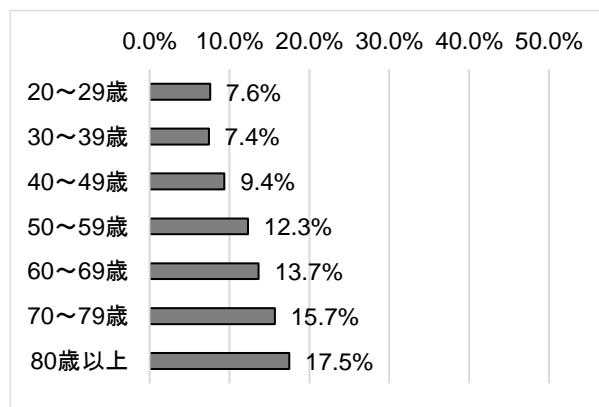


図8. 主観的全身の健康状態が不良な者

### 3) 患者の有病状況

歯科医院患者の全身疾患の有病状況では、高血圧症の者が全体の21.9%と最も多く、高脂血症8.1%、糖尿病5.8%、心臓疾患3.5%であった(図9)。高血圧症の患者は、70歳代の約4割、80歳代の約半数に認められ、高齢者の歯科患者に高血圧症の有病者が多い結果であった(図10)。

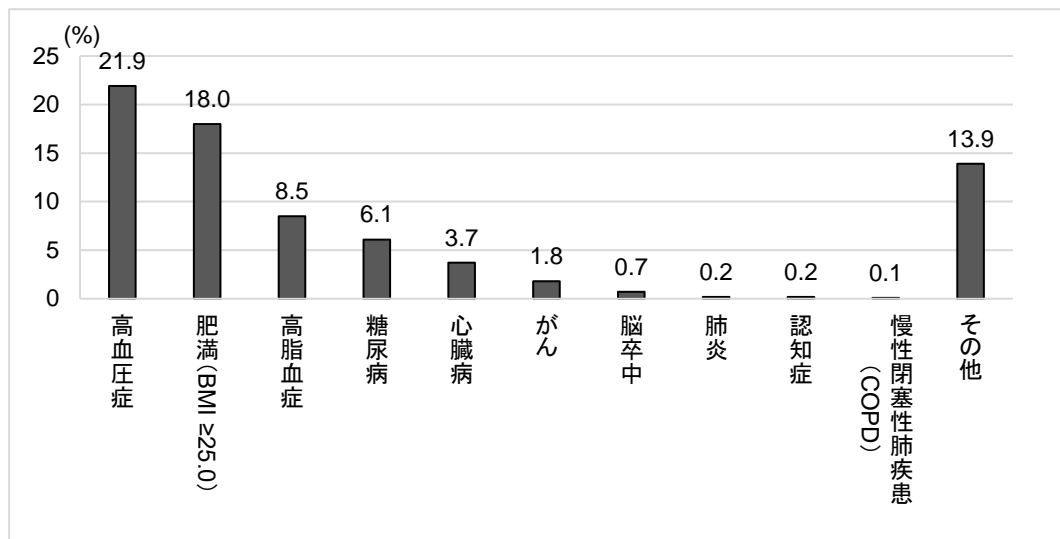


図9. 全身疾患の有病状況

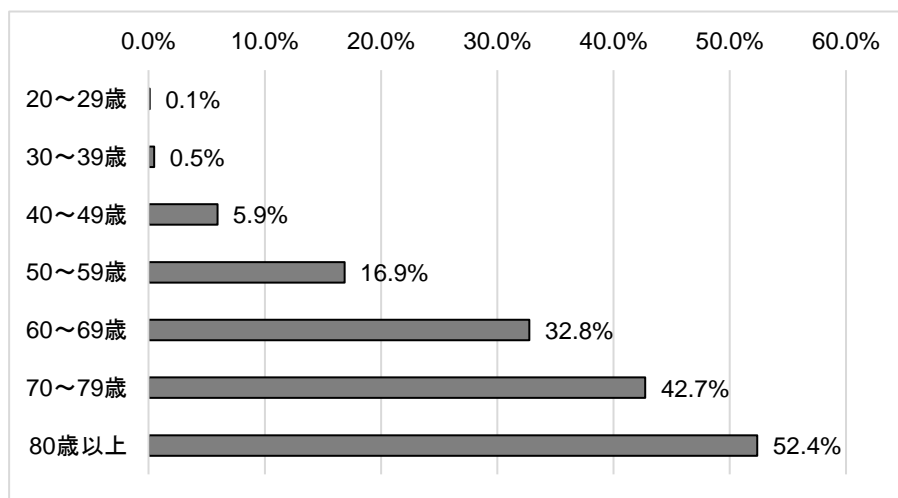


図10. 高血圧症の有病者率

#### 4) 口腔状態の自己評価・自覚症状

歯や口の状態で気になること(複数回答)のうち、口臭が 22.6%で最も多く、次に多かった内容は、痛み 21.2%、外観 21.0%、歯並び 20.5%であった。特に気になるところがないと回答した者は 26.5%であった(図 11)。

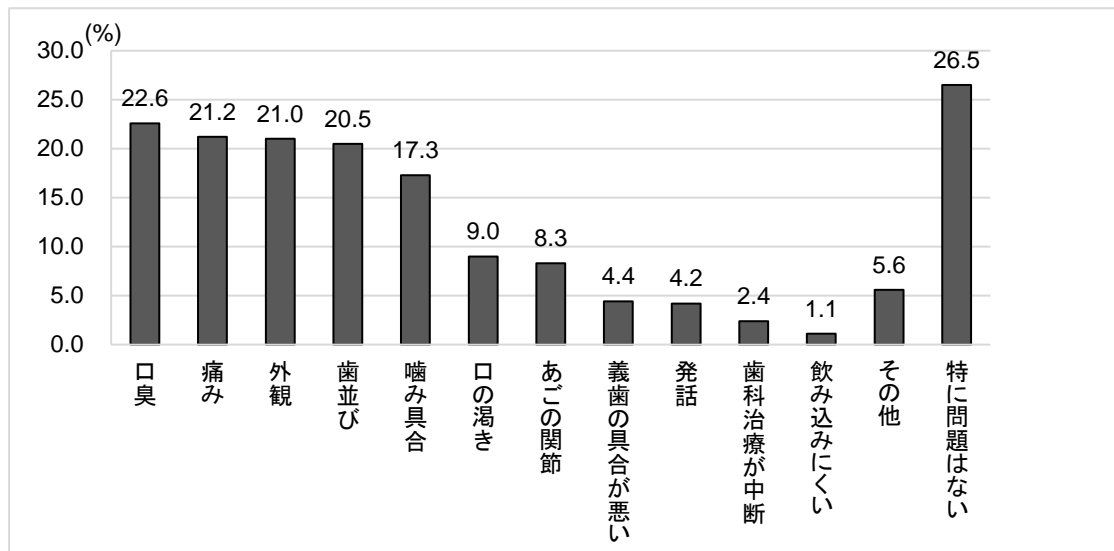


図 11. 歯や口の状態で気になること

自分の歯または義歯で左右両方の奥歯をかむことができないと回答した者は全体の 17.9%で、50~70 歳代で約 2 割であったが、80 歳以上で低下して 18.6%であった(図 12)。

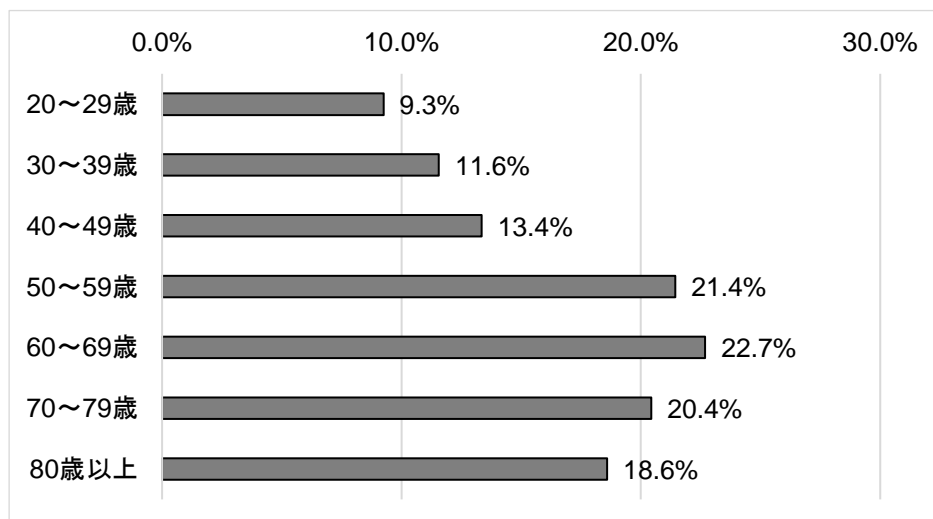


図 12. 自分の歯または義歯で奥歯がかめない



歯肉の症状では、歯みがき時に毎回または時々出血する者は全体の40.6%であり、年齢が上がるにつれて歯肉出血を自覚する者は減少傾向にあった(図13)。歯肉の腫脹を自覚する者は全体の25.8%であり、50~60歳代で自覚する者が多く、20~40歳代と70歳代、80歳以上は同程度であった(図14)。

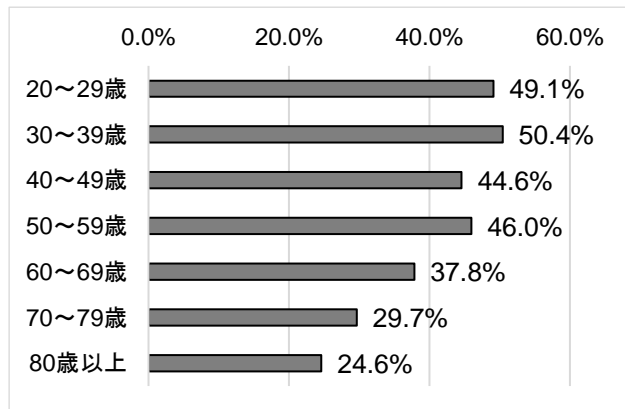


図13. 歯みがき時の出血

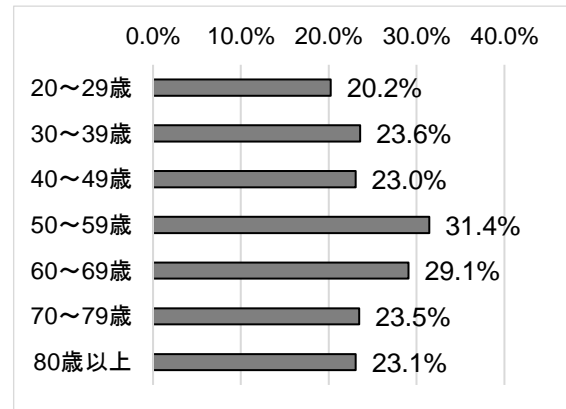


図14. 歯肉の腫脹の自覚

### 5) 生活習慣・口腔衛生習慣

喫煙状況では、現在喫煙している者は全体の13.5%、過去に喫煙していた者は24.5%、喫煙経験のない者は61.9%であった。現在喫煙している者は20~50歳代の男性の30%を超えていることから、歯科医院受診男性患者に対する禁煙指導実施の必要性が認められた(図15)。

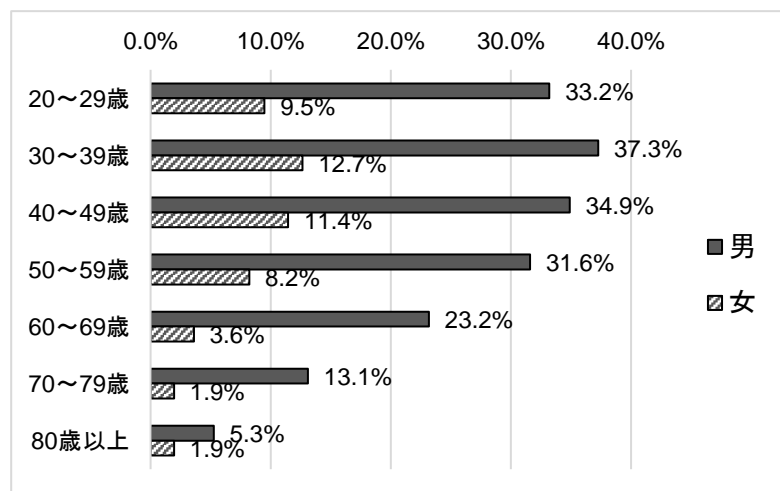
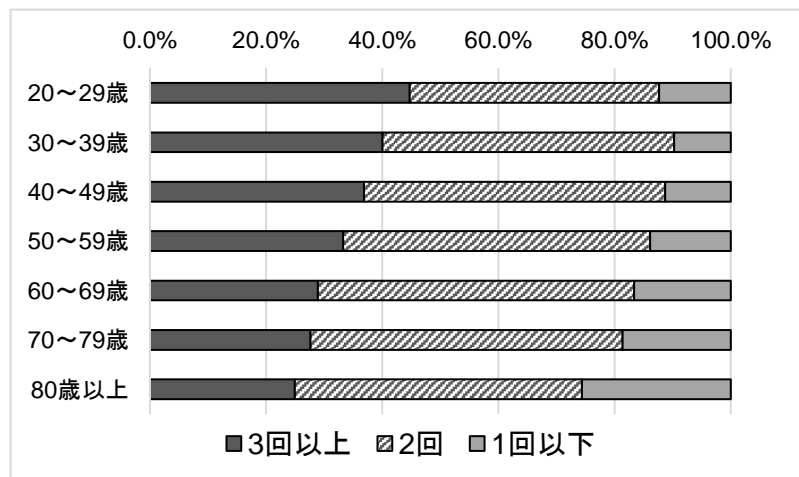


図15. 現在喫煙している者

1日の歯みがき回数について、3回以上の者は33.1%、2回の者は51.9%、1回以下の者は14.9%であった。20~30歳代では1日3回以上磨く者が約4割であり、歯科医院患者の若年層では歯みがき回数が多い結果であった(図16)。



16 図16. 1日の歯みがき回数

歯間清掃道具の使用状況は、毎日使用する者は全体の 28.5%、時々使用する者は 35.5%、使用しない者は 35.2%であった。20 歳代では毎日使用する者が 10%前後と他の年代に比べて使用者の割合は低かった(図 17)。

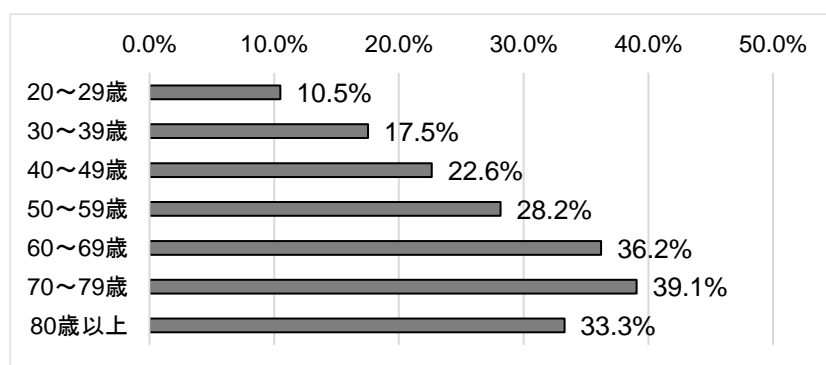


図 17. 歯間清掃道具を毎日使用する者

## 6) 追跡調査の参加状況によるベースライン時の対象者の特性の比較

2014～2019 年調査(岡山県除く)の質問紙調査票の回答状況別にベースライン時の対象者の特性を表 11 に示す。ベースライン調査のみ回答した者は 2,347 人、追跡調査 1～4 回参加した者は 5,056 人、全ての調査で回答した者は 4,884 人であった。全ての調査に参加した者は、ベースライン調査時に歯科医院を定期健診で受診し、主観的口腔および全身の健康状態が不良の者が少なく、喫煙者が少なく、また歯みがき回数が 3 回以上の者が多かった。これは、ベースライン調査で健康状態や口腔保健行動が良好な者が追跡調査に参加していることが伺える。

表 11. 追跡調査の参加状況によるベースライン時の対象者の特性

	ベースライン調査のみ参加	追跡調査 1～4 回参加	全ての調査参加	p 値
n	2,347	5,056	4,884	
年齢	49.4±19.0	55.1±17.1	58.8±13.5	<0.001
女性	1,448 (61.7)	3,149 (62.3)	3,296 (67.5)	<0.001
最後の歯科受診 1 年以上前	740 (33.7)	1,190 (24.9)	839 (17.7)	<0.001
歯科医院受診理由				<0.001
治療のため	1,528 (70.1)	2,886 (59.9)	2,285 (48.0)	
定期健診のため	453 (20.8)	1,342 (27.8)	1,820 (38.2)	
治療および定期健診のため	198 (9.1)	592 (12.3)	659 (13.8)	
主観的口腔の健康状態が不良	922 (39.8)	1,838 (36.9)	1,477 (30.6)	<0.001
主観的全身の健康状態が不良	350 (15.1)	658 (13.1)	462 (9.5)	<0.001
自分の歯または義歯で奥歯がかめない	463 (21.5)	874 (18.4)	731 (15.7)	<0.001
歯みがき時の出血あり	1,050 (45.4)	2,072 (41.4)	1,816 (37.4)	<0.001
歯肉の腫脹の自覚あり	592 (25.8)	1,342 (26.9)	1,200 (24.8)	0.062
現在喫煙している	543 (23.3)	725 (14.4)	384 (7.9)	<0.001
1 日の歯みがき回数				<0.001
3 回以上	676 (29.0)	1,620 (32.2)	1,760 (36.2)	
2 回	1,219 (52.4)	2,609 (51.9)	2,513 (51.7)	
1 回以下	433 (18.6)	798 (15.9)	591 (12.2)	
歯間清掃道具を使用しない	1,103 (47.8)	1,848 (36.8)	1,367 (28.1)	<0.001

## 7) 歯・歯肉の状況

口腔診査を実施した患者 12,241 人の 1 人平均現在歯数は 24.3 本であった。現在歯数が 0～9 本のは全体の 5.1%、10～19 本は 11.6%、20 本以上は 83.3%であった(図 18)。全体のうち、80 歳以上の者は 588 人で、80 歳以上で 20 本以上の歯を有する者は 41.3%であった。

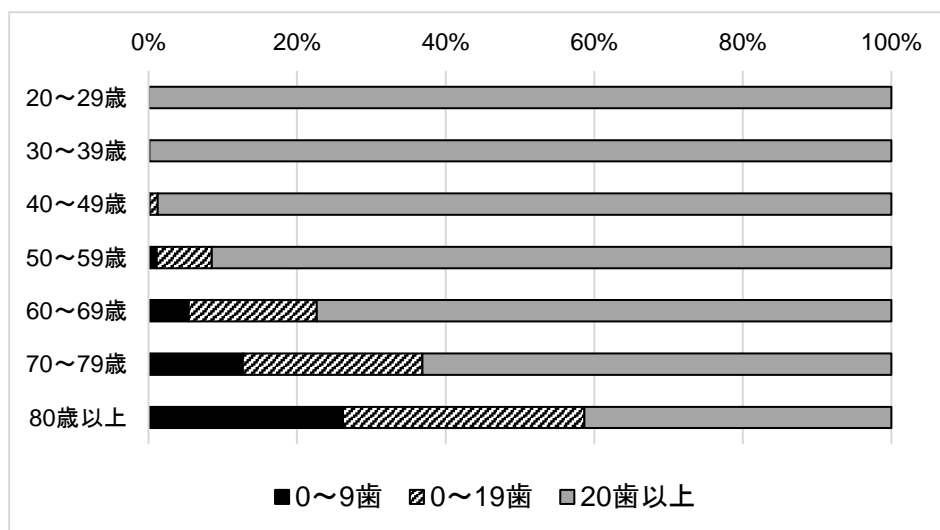


図 18. 現在歯数の状況

現在歯のうち、1 人平均健全歯数は 10.7 本、未処置歯数は 0.9 本、処置歯数は 12.4 本(レジン・アマルガム充填歯 4.0 本、インレー修復歯 3.2 本、クラウン補綴歯 5.2 本)であった(図 19)。健全歯数、未処置歯数やレジン・アマルガム充填歯数は若年者で多かったが、クラウン補綴歯数は中高年において高い値を示した。

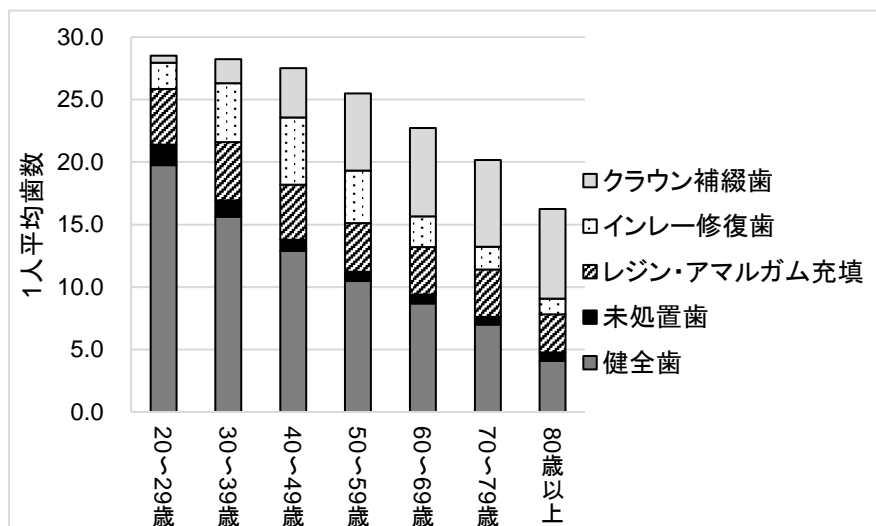


図 19. 現在歯の状況

歯肉の状況について、歯周組織検査を実施できた者は12,182人であった。4mm～5mmの歯周ポケットを保有している者は40.3%、6mm以上の歯周ポケットを保有している者は24.7%であった。4mm以上の歯周ポケットを保有している者は、20歳代37.0%、30歳代49.0%、40歳代57.1%、50歳代69.8%、60歳代74.6%、70歳代76.1%、80歳以上72.4%であった(図20)。

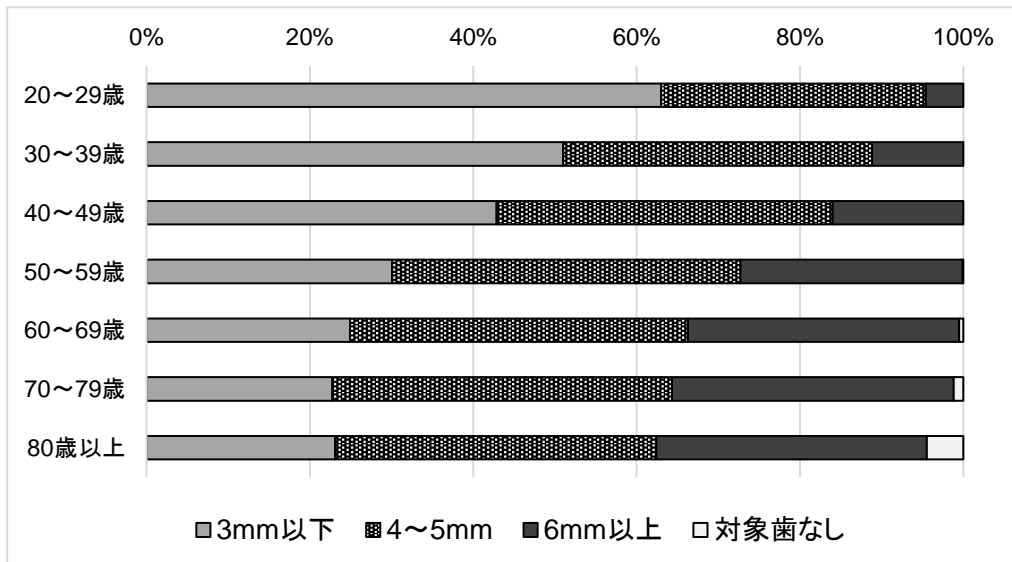


図 20. 歯肉の状況

## (2) 口腔健康保持の関連要因（追跡調査）

2年および3年間追跡調査結果

### 1) 喫煙、定期健診受診と歯の喪失<sup>5)</sup>

#### a. 分析内容

2014年度のベースライン調査において追跡調査の対象とした12,150人に対して、2年後の2016年度に行った追跡調査では、8,073人(66.4%)の者がアンケートに回答し、3,537人(29.1%)が歯科医院で口腔内診査を受けた。ベースライン時の無歯顎者およびデータ欠損者を除外した2,743人を対象として、2年間の歯の喪失に関連する要因について検討した。

#### b. 分析方法

2年の追跡期間中の各歯の喪失の有無を、歯単位の歯の喪失状況として従属変数として用い、各歯の喪失に関わる要因として、人レベルの要因および歯レベルの要因を同時に独立変数として用いたマルチレベル分析(一般化推定方程式)を行った。

#### c. 分析結果

2年間の追跡期間中に1歯以上の歯を喪失した者は614人(22.4%)であった。また、ベースライン時に存在した66,293歯のうち、968歯(1.5%)が喪失していた。歯単位の歯の喪失を従属変数としたマルチレベル分析の結果、人レベルの要因のうち、ベースライン時の喫煙習慣および歯科受診理由が歯単位の歯の喪失と有意に関連していた(図21)。すなわち、非喫煙者に比べて喫煙者の歯の喪失リスクはオッズ比1.42倍で有意に高く、また、治療を目的として歯科を受診する者に比べて定期健診を目的として歯科を受診する者の歯の喪失のオッズ比は0.61倍で有意に低かった。その他にも、主観的経済状況および現在歯数が人レベルの要因として歯単位の歯の喪失と有意に関連していた。また、歯レベルの要因では、歯種、歯の状態、歯周状態が歯単位の歯の喪失と有意に関連していた。

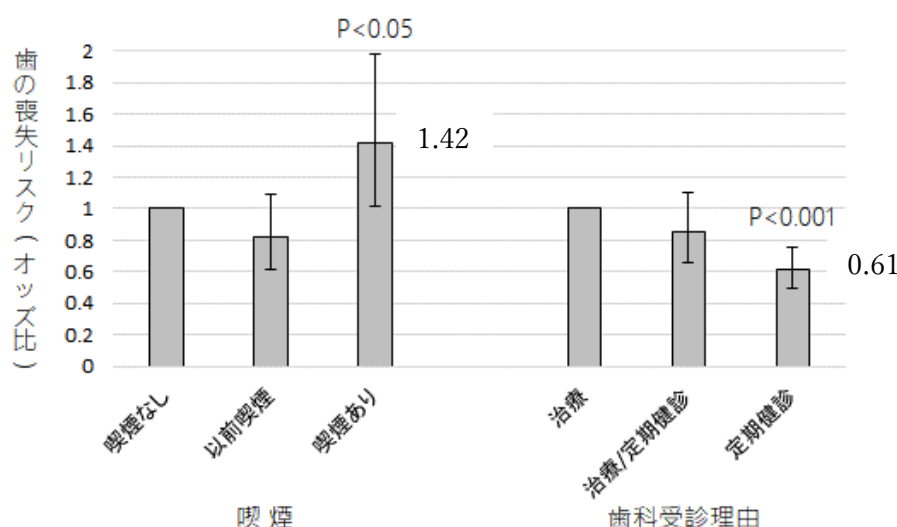


図 21. 歯科受診患者の各歯の喪失に関わる個人レベルの要因(マルチレベル分析)

#### d. 考察

喫煙は歯周病の代表的なリスクファクターとして知られている。喫煙者は歯周治療に対する反応が悪く、歯周基本治療や歯周外科治療の効果が低いことが報告されており、喫煙による歯周状態の悪化が歯の喪失リスクを高めると考えられる。一方、過去に喫煙していた者でも、禁煙することで歯の喪失リスクが低下することが示されているが、本調査でも、過去の喫煙は歯の喪失と有意な関連はみられなかった。喫煙者は非喫煙者と比較して歯科受診の頻度が低いことが報告されているが、歯科受診習慣のない喫煙者に歯科受診勧奨することで、口腔保健指導や禁煙指導を行うことができれば、歯の喪失予防に繋がると思われる。

歯科医院を定期的を受診する者は、受診しない者よりも歯の喪失リスクが低いことが報告されている。本調査でも、定期健診で歯科を受診していた者は、治療のために受診した者よりも歯の喪失のリスクが有意に低かった。定期健診により、う蝕の予防や早期発見が可能となる。また定期健診時の歯周管理によって、歯周病による歯の喪失が抑えられると考えられる。定期健診を目的とした歯科受診は、口腔の健康に関する有益な情報を提供することで患者の口腔保健に対する意識を高めることができるため、歯の喪失抑制に効果的に働くと考えられる。

## 2) 歯科医院の口腔保健指導時間、歯科衛生士数と歯の喪失<sup>6)</sup>

### a. 分析内容

2014年度のベースライン調査において追跡調査の対象とした12,150人に対して、3年後の2017年度に行った追跡調査では、7,601人(62.6%)の者がアンケートに回答し、3,038人(25.0%)が歯科医院で口腔内診査を受けた。ベースライン時の無歯顎者およびデータ欠損者を除外した2,488人を対象として、3年間の歯の喪失に関連する要因について検討した。

### b. 分析方法

3年の追跡期間中の歯の喪失の有無を従属変数として用い、歯の喪失に関わる要因として歯科医院レベルの要因および患者個人レベルの要因を同時に独立変数として用いたマルチレベル分析(一般化推定方程式)を行った。

### c. 分析結果

3年間の追跡期間中に1歯以上の歯を喪失した者は691人(27.8%)であった。歯の喪失の有無を従属変数としたマルチレベル分析の結果、歯科医院レベルの要因のうち、口腔保健指導の実施時間および歯科医院の歯科衛生士数が歯の喪失と有意に関連していた(図22)。すなわち口腔保健指導時間をとらない歯科医院に比べて20分以上の口腔保健指導を行う歯科医院の患者の歯の喪失リスクは、オッズ比0.69倍で有意に低く、歯科衛生士がいない歯科医院に比べて歯科衛生士数が4名以上の歯科医院の患者の歯の喪失リスクは、オッズ比0.67倍で有意に低かった。その他にも、患者の個人レベルの要因として、年齢、現在歯数、平均歯周ポケット深さ、喫煙習慣、ブラッシング時の出血の自覚、歯科受診理由が歯の喪失と有意に関連していた。

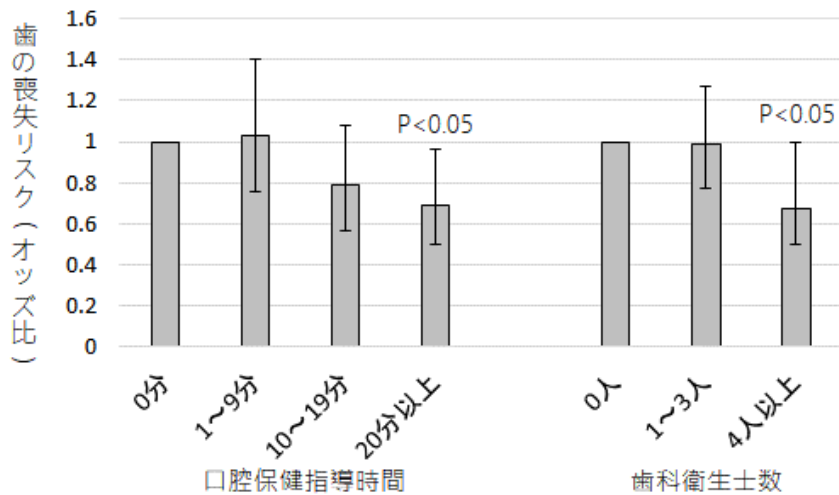


図 22. 歯科受診患者の歯の喪失に関わる歯科医院レベルの要因(マルチレベル分析)

#### d. 考察

歯科医院レベルの要因のうち、受診患者に対して20分以上の口腔保健指導を行う歯科医院の患者は、口腔保健指導を行わない歯科医院の患者に比べて、歯を失うリスクが有意に低かった。口腔保健指導の実施により、患者の口腔保健習慣や口腔内の健康状態が改善され、歯の喪失の抑制につながったと考えられる。

4人以上の歯科衛生士がいる歯科医院の患者は、歯の喪失リスクが有意に低かった。歯科衛生士は、歯磨き指導などの口腔保健指導の他にも、フッ化物歯面塗布や歯石除去などの予防処置を行っている。歯科衛生士が多い歯科医院では口腔保健指導の時間を確保しやすいと考えられるが、歯科衛生士による口腔保健指導や予防処置の実施は、歯科疾患を予防し、歯の喪失の抑制に貢献できると考えられる。

### (3) 口腔（歯数、歯周状態）と全身の健康（NCDs、主観的健康状態）との関係

#### 1) ベースライン調査:全身疾患と歯周病の関係<sup>7)</sup>

歯周組織状態は全身の健康状態に関与することが分かっており、歯科医院の定期受診患者では歯周組織状態の管理をする上で全身の健康状態にも配慮する必要があると考えられる。定期受診患者での全身の健康状態はあまり注目されていなかったため、定期受診患者における歯周組織状態と疾患の有病状況、肥満との関連性について検討した。

分析対象者は、1) 歯科受診の理由が定期健診、2) 40歳以上、3) 未処置歯がない者、4) 過去に歯周病を経験している者として clinical attachment loss (CAL) ≥6 mm が2歯以上ある者、5) 現在歯数が10歯以上で、全てに該当する者 1,029 人とした。歯周組織の状態は、probing pocket depth (PPD) ≥5 mm の歯数で評価した。全身の健康状態は、糖尿病や高血圧などの疾患の有病状況、肥満 (BMI ≥25.0 kg/m<sup>2</sup>) で評価した。PPD ≥5 mm の歯数と全身の健康状態の関係を表 12 に示す。

表 12. PPD ≥5 mm の歯数と全身の健康状態

	PPD ≥5 mm の歯数				Total
	0 (Quartile 1) (n = 204)	1-2 (Quartile 2) (n = 310)	3-4 (Quartile 3) (n = 201)	≥5 (Quartile 4) (n = 284)	
糖尿病					
なし	190 (93.1)	294 (94.8)	182 (90.5)	253 (89.1)	919 (92.0)
あり	14 (6.9)	16 (5.2)	19 (9.5)	31 (10.9)	80 (8.0)
脳卒中あるいは心臓病					
なし	190 (93.1)	296 (95.5)	189 (94.0)	267 (94.0)	942 (94.3)
あり	14 (6.9)	14 (4.5)	12 (6.0)	17 (6.0)	57 (5.7)
がん					
なし	197 (96.6)	300 (96.8)	198 (98.5)	275 (96.8)	970 (97.1)
あり	7 (3.4)	10 (3.2)	3 (1.5)	9 (3.2)	29 (2.9)
高血圧症					
なし	149 (73.0)	225 (72.6)	138 (68.7)	187 (65.8)	699 (70.0)
あり	55 (27.0)	85 (27.4)	63 (31.3)	97 (34.2)	300 (30.0)
脂質異常症					
なし	174 (85.3)	271 (87.4)	172 (85.6)	255 (89.8)	872 (87.3)
あり	30 (14.7)	39 (12.6)	29 (14.4)	29 (10.2)	127 (12.7)
肥満					
なし	178 (87.3)	256 (82.6)	155 (77.1)	224 (78.9)	813 (81.7)
あり	26 (12.7)	54 (17.4)	46 (22.9)	60 (21.1)	186 (18.3)
最後の歯科医院受診					
<3 か月	111 (54.4)	185 (59.7)	107 (53.2)	152 (53.5)	555 (55.6)
>3 か月	93 (45.6)	125 (40.3)	94 (46.8)	132 (46.5)	444 (44.4)
喫煙					
非喫煙	136 (66.7)	204 (65.8)	117 (58.2)	153 (53.9)	610 (61.1)
過去喫煙	52 (25.5)	82 (26.5)	62 (30.8)	92 (32.4)	288 (28.8)
現在喫煙	16 (7.8)	24 (7.7)	22 (10.9)	39 (13.7)	101 (10.1)
歯みがき回数					
≥3 回	76 (37.3)	108 (34.8)	72 (35.8)	89 (31.3)	345 (34.5)
2 回	107 (52.5)	169 (54.5)	106 (52.7)	149 (52.5)	531 (53.2)
≤1 回	21 (10.3)	33 (10.6)	23 (11.4)	46 (16.2)	123 (12.3)
歯間清掃器具の使用					
あり	49 (24.0)	66 (21.3)	33 (16.4)	54 (19.0)	202 (20.2)
なし	155 (76.0)	244 (78.7)	168 (83.6)	230 (81.0)	797 (79.8)
年齢	64.3 ± 10.1	65.6 ± 9.6	64.8 ± 10.2	63.5 ± 10.2	64.6 ± 10.0
性別					
男性	78 (38.2)	119 (38.4)	100 (49.8)	137 (48.2)	434 (43.4)
女性	126 (61.8)	191 (61.6)	101 (50.2)	147 (51.8)	565 (56.6)

平均±標準偏差、人数 (%)



PPD  $\geq 5$  mm の歯数が 5 本以上を従属変数、疾患の有病状況や肥満を独立変数として用いてポアソン回帰分析を行った結果、糖尿病や高血圧であると PPD  $\geq 5$  mm の歯数が多かった(表 13)。よって、過去に歯周病を経験している定期受診患者において、糖尿病や高血圧の者は深い歯周ポケットを保有していることが示唆された。歯周病の予防管理をする際には糖尿病や高血圧に注意する必要があると考えられる。

表 13. 多変量解析の結果

	PPD $\geq 5$ mm の歯数が 5 本以上あり	Crude PRR (95% CI)	Adjusted PRR (95% CI)	
			Model 1*	Model 2*
糖尿病				
なし	27.5%	1	1	1
あり	38.8%	1.41 (1.05-1.89)	1.36 (1.00-1.84)	1.36 (1.00-1.85)
高血圧症				
なし	26.8%	1	1	1
あり	32.3%	1.21 (0.99-1.48)	1.27 (1.02-1.57)	1.27 (1.02-1.58)
脂質異常症				
なし	29.2%	1		
あり	22.8%	0.78 (0.56-1.09)		
脳卒中あるいは心臓病				
なし	28.3%	1		
あり	29.8%	1.05 (0.70-1.59)		
がん				
なし	28.4%	1		
あり	31.0%	1.10 (0.63-1.90)		
肥満				
なし	27.6%	1		1
あり	32.3%	1.17 (0.92-1.48)		0.99 (0.77-1.26)
最後の歯科医院受診				
<3 か月	27.4%	1	1	1
>3 か月	29.7%	1.09 (0.89-1.32)	1.09 (0.89-1.32)	1.09 (0.89-1.32)
喫煙				
非喫煙	25.1%	1	1	1
過去喫煙	31.9%	1.27 (1.03-1.58)	1.20 (0.92-1.52)	1.21 (0.92-1.58)
現在喫煙	38.6%	1.54 (1.16-2.04)	1.40 (1.03-1.90)	1.47 (1.05-2.04)
歯みがき回数				
$\geq 3$ 回	25.8%	1	1	1
2 回	28.1%	1.09 (0.87-1.36)	1.08 (0.87-1.36)	1.09 (0.87-1.36)
$\leq 1$ 回	37.4%	1.45 (1.08-1.94)	1.40 (1.03-1.90)	1.40 (1.03-1.90)
歯間清掃器具の使用				
あり	26.7%	1	1	1
なし	28.9%	1.08 (0.84-1.39)	1.18 (0.92-1.52)	1.18 (0.92-1.52)

ポアソン回帰分析, PRR, prevalence rate ratio

The crude model included one independent variable and dependent variable. Model 1 included diabetes and hypertension status, and Model 2 additionally included overweight. \*Adjusted for age, sex, number of present teeth, and education level.

PPD: probing pocket depth; PRR: prevalence rate ratio; CI: confidence interval; BMI: body mass index.

## 2) 追跡調査

### ① 歯数と全身の健康(NCDs、主観的健康状態)の関係

#### a. 分析内容

ベースライン時データ(2014年)と第5回追跡調査データ(2019年)を用い、ベースライン時の口腔の健康状態(歯数の保持状況)が、その後の全身の健康にどのように影響しているのかを検討した。分析対象者は、6,852名(男性2,342名、女性4,510名)とした(表14)。

表 14. 5年追跡調査分析対象者

年齢	男性	女性	合計
20-39	216	690	906
40-59	728	1,703	2,431
60-79	1,306	1,996	3,302
80+	92	121	213
合計	2,342	4,510	6,852

#### b. 全身の健康状態の変化

表15に、主な非感染性疾患(Non-communicable disease:以下NCDs)の疾患別の現病歴が「ある」と回答した者の5年間の変化を示した。ベースライン時と第5回追跡調査時では、糖尿病で5.7%および7.4%、脳卒中では0.6%および0.8%、心臓病は3.6%および5.1%、がんは1.7%および3.0%、高血圧症は23.0%および26.8%、脂質異常症は10.5%および13.8%で、5年間でほとんどの疾患で有病者率は増加していた。

表 15. 性・年齢階級別現病歴保有者の変化

性別	年齢	糖尿病				脳卒中				心臓病			
		ベースライン時		第5回追跡		ベースライン時		第5回追跡		ベースライン時		第5回追跡	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
男性	20-39	1	0.5	3	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	40-59	40	5.7	55	7.7	1	0.1	4	0.6	14	2.0	18	2.5
	60-79	168	13.4	216	17.2	21	1.7	21	1.7	100	8.0	143	11.4
	80+	6	6.8	10	11.5	2	2.3	2	2.3	15	17.0	14	16.1
	合計	215	9.6	284	12.5	24	1.1	27	1.2	129	5.7	175	7.7
女性	20-39	3	0.5	4	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.1
	40-59	21	1.3	40	2.4	2	0.1	7	0.4	5	0.3	14	0.8
	60-79	120	6.4	153	8.0	15	0.8	17	0.9	80	4.3	128	6.7
	80+	11	9.9	9	8.1	0	0.0	2	1.8	18	16.2	21	18.9
	合計	155	3.6	206	4.8	17	0.4	26	0.6	103	2.4	164	3.8
合計	20-39	4	0.5	7	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.1
	40-59	61	2.6	95	4.0	3	0.1	11	0.5	19	0.8	32	1.4
	60-79	288	9.2	369	11.7	36	1.2	38	1.2	180	5.8	271	8.6
	80+	17	8.5	19	9.6	2	1.0	4	2.0	33	16.6	35	17.7
	合計	370	5.7	490	7.4	41	0.6	53	0.8	232	3.6	339	5.1

備注) ベースライン時と第5回追跡調査時で現病歴の回答があった者6,516名、6,600名をそれぞれ分析した。

表 15(続き). 性・年齢階級別現病歴保有者の変化

性別	年齢	がん				高血圧症				脂質異常症			
		ベースライン時		第5回追跡		ベースライン時		第5回追跡		ベースライン時		第5回追跡	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
男性	20-39	0	0.0	0	0.0	1	0.5	6	2.9	2	1.0	5	2.4
	40-59	2	0.3	8	1.1	121	17.4	179	25.2	54	7.7	85	12.0
	60-79	40	3.2	78	6.2	505	40.3	551	43.8	171	13.6	198	15.7
	80+	6	6.8	8	9.2	41	46.6	37	42.5	6	6.8	3	3.4
	合計	48	2.1	94	4.1	668	29.7	773	34.1	233	10.4	291	12.8
女性	20-39	0	0.0	2	0.3	1	0.2	6	0.9	2	0.3	4	0.6
	40-59	20	1.2	37	2.2	141	8.7	218	13.2	79	4.9	147	8.9
	60-79	37	2.0	64	3.4	624	33.3	716	37.5	346	18.5	448	23.5
	80+	3	2.7	3	2.7	63	56.8	57	51.4	23	20.7	23	20.7
	合計	60	1.4	106	2.4	829	19.4	997	23.0	450	10.5	622	14.4
合計	20-39	0	0.0	2	0.2	2	0.2	12	1.4	4	0.5	9	1.0
	40-59	22	1.0	45	1.9	262	11.3	397	16.8	133	5.7	232	9.8
	60-79	77	2.5	142	4.5	1129	36.1	1267	40.0	517	16.5	646	20.4
	80+	9	4.5	11	5.6	104	52.3	94	47.5	29	14.6	26	13.1
	合計	108	1.7	200	3.0	1497	23.0	1770	26.8	683	10.5	913	13.8

備注) ベースライン時と第5回追跡調査時で現病歴の回答があった者 6,516名、6,600名をそれぞれ分析した。

表 16 に、ベースラインから5年間の NCDs 発症者数を示した。ここでいう発症者数とは、ベースライン時に疾患別に現病歴「なし」と回答した者が、第5回追跡調査時に「あり」に変化した者を指す。疾患別の発症率は、高血圧症 8.9%、脂質異常症 6.4%、心臓病 2.7%、がん 2.6%、糖尿病 2.3%、脳卒中 0.5%の順であった。

表 16. 性・年齢階級別発症者数(5年間)

性別	年齢	糖尿病			脳卒中			心臓病		
		ベースライン時現病歴なし	5年目発症		ベースライン時現病歴なし	5年目発症		ベースライン時現病歴なし	5年目発症	
		n	n	%	n	n	%	n	n	%
男性	20-39	200	3	1.5	201	0	0.0	201	0	0.0
	40-59	640	16	2.5	679	3	0.4	666	8	1.2
	60-79	1045	56	5.4	1193	12	1.0	1115	65	5.8
	80+	78	4	5.1	82	0	0.0	69	5	7.2
	合計	1963	79	4.0	2155	15	0.7	2051	78	3.8
女性	20-39	641	1	0.2	644	0	0.0	644	1	0.2
	40-59	1552	18	1.2	1571	5	0.3	1568	10	0.6
	60-79	1678	36	2.1	1783	8	0.4	1721	64	3.7
	80+	93	2	2.2	103	2	1.9	85	8	9.4
	合計	3964	57	1.4	4101	15	0.4	4018	83	2.1
合計	20-39	841	4	0.5	845	0	0.0	845	1	0.1
	40-59	2192	34	1.6	2250	8	0.4	2234	18	0.8
	60-79	2723	92	3.4	2976	20	0.7	2836	129	4.5
	80+	171	6	3.5	185	2	1.1	154	13	8.4
	合計	5927	136	2.3	6256	30	0.5	6069	161	2.7

表 16(続き). 性・年齢階級別発症者数(5年間)

性別	年齢	がん			高血圧症			脂質異常症		
		ベースライン 時現病歴なし n	5年目発症 n %		ベースライン 時現病歴なし n	5年目発症 n %		ベースライン 時現病歴なし n	5年目発症 n %	
男性	20-39	201	0	0.0	200	5	2.5	199	4	2.0
	40-59	678	8	1.2	560	66	11.8	626	38	6.1
	60-79	1174	64	5.5	717	103	14.4	1044	67	6.4
	80+	78	4	5.1	44	5	11.4	78	2	2.6
	合計	2131	76	3.6	1521	179	11.8	1947	111	5.7
女性	20-39	644	2	0.3	643	6	0.9	642	2	0.3
	40-59	1555	28	1.8	1432	83	5.8	1496	81	5.4
	60-79	1763	52	2.9	1188	154	13.0	1457	158	10.8
	80+	101	2	2.0	46	10	21.7	84	9	10.7
	合計	4063	84	2.1	3309	253	7.6	3679	250	6.8
合計	20-39	845	2	0.2	843	11	1.3	841	6	0.7
	40-59	2233	36	1.6	1992	149	7.5	2122	119	5.6
	60-79	2937	116	3.9	1905	257	13.5	2501	225	9.0
	80+	179	6	3.4	90	15	16.7	162	11	6.8
	合計	6194	160	2.6	4830	432	8.9	5626	361	6.4

表 17 に、肥満(BMI $\geq$ 25.0)の者の5年間の変化を示した。全体で、ベースライン時は17.2%であったのに対して第5回追跡調査時は18.6%でやや増加がみられた。

表 18 に、5年間で肥満を発症した者の数を示した。この発症した者とは、ベースライン時に肥満でなかった者が、第5回追跡調査時に肥満に変化した者である。その割合は全体で5.9%であった。

表 17. 性・年齢階級別肥満 (BMI  $\geq$  25.0) の変化

性別	年齢	ベースライン時		第5回追跡	
		n	%	n	%
男性	20-39	42	19.6	47	22.1
	40-59	235	32.4	255	35.3
	60-79	309	23.9	304	23.4
	80+	11	12.5	8	9.2
	合計	597	25.7	614	26.5
女性	20-39	52	7.8	67	9.9
	40-59	196	11.7	249	14.7
	60-79	298	15.1	312	15.8
	80+	19	16.1	21	18.4
	合計	565	12.7	649	14.6
合計	20-39	94	10.7	114	12.8
	40-59	431	17.9	504	20.9
	60-79	607	18.6	616	18.8
	80+	30	14.6	29	14.4
	合計	1162	17.2	1263	18.6

備注) ベースライン時と第5回追跡調査時で回答があった者6,758名、6,773名をそれぞれ分析した。

表 18. 性・年齢階級別肥満発症者数(5年間)

性別	年齢	ベースライン時 現病歴なし		5年目発症	
		n	%	n	%
男性	20-39	171		17	9.9
	40-59	484		54	11.2
	60-79	976		61	6.3
	80 +	74		2	2.7
	合計	1705		134	7.9
女性	20-39	607		24	4.0
	40-59	1478		80	5.4
	60-79	1662		79	4.8
	80 +	94		8	8.5
	合計	3841		191	5.0
合計	20-39	778		41	5.3
	40-59	1962		134	6.8
	60-79	2638		140	5.3
	80 +	168		10	6.0
	合計	5546		325	5.9

表 19 に、主観的全身健康状態が「よくない、あまりよくない(不良)」と回答した者の 5 年間の変化を示した。全体で、ベースライン時は 10.3%であったのに対して第 5 回追跡調査時は 12.8%でやや増加がみられた。

表 20 に、主観的全身健康状態が 5 年間で悪化した者の数を示した。この悪化した者とは、ベースライン時に主観的健康観が「良い、まあ良い、ふつう」と回答したが、第 5 回追跡調査時に「あまりよくない、よくない」という回答に変化した者である。その割合は全体で 9.2%であった。

表 19. 性・年齢階級別主観的全身健康状態(不良)の変化

性別	年齢	ベースライン時		第 5 回追跡	
		n	%	n	%
男性	20-39	14	6.5	21	9.8
	40-59	79	11.0	101	13.9
	60-79	147	11.4	188	14.5
	80 +	8	9.1	19	20.9
	合計	248	10.7	329	14.1
女性	20-39	48	7.0	58	8.4
	40-59	144	8.5	172	10.1
	60-79	241	12.2	274	13.8
	80 +	17	14.4	37	30.6
	合計	450	10.0	541	12.0
合計	20-39	62	6.9	79	8.7
	40-59	223	9.2	273	11.2
	60-79	388	11.9	462	14.1
	80 +	25	12.1	56	26.4
	合計	698	10.3	870	12.8

備注) ベースライン時と第 5 回追跡調査時で回答があった者 6,799 名、6,819 名をそれぞれ分析した。

表 20. 性・年齢階級別主観的全身健康状態悪化者数(5年間)

性別	年齢	ベースライン時 現病歴なし	5年目悪化	
		n	n	%
男性	20-39	201	18	9.0
	40-59	640	57	8.9
	60-79	1135	112	9.9
	80+	79	13	16.5
	合計	2055	200	9.7
女性	20-39	638	41	6.4
	40-59	1551	113	7.3
	60-79	1727	177	10.2
	80+	101	27	26.7
	合計	4017	358	8.9
合計	20-39	839	59	7.0
	40-59	2191	170	7.8
	60-79	2862	289	10.1
	80+	180	40	22.2
	合計	6072	558	9.2

表 21 に、ベースライン時の現在歯数と NCDs の有病状況との関連を示した。現在歯数が多いほど、糖尿病、脳卒中、心臓病、がん、高血圧症、脂質異常症の有病率は低い傾向であった。

図 23 には、ベースライン時の現在歯数と 5 年間の主な NCDs 発症および主観的健康状態との関連を示した。いずれの疾患においても現在歯数 20 歯以上の者は 19 歯以下の者に比べて発症率が統計的に有意に低いという結果であった。糖尿病が発症した者は、20 歯以上の者で 2.1%であったのに対して 19 歯以下の者では 3.6%であり、高血圧症が発症した者は、20 歯以上の者で 8.2%であったのに対して 19 歯以下の者では 14.8%であった。現在歯数が多いと、NCDs の発症が抑えられ全身の健康状態は維持されることを示している。

表 21. ベースライン時の現在歯数と NCDs との関連

	現在歯数								p 値 <sup>1)</sup>	p 値 <sup>2)</sup>
	0-9 歯 n=244		10-19 歯 n=660		20 歯以上 n=5607		合計 n=6511			
	n	%	n	%	n	%	n	%		
糖尿病	28	11.5	64	9.7	278	5.0	370	5.7	<0.001	<0.001
脳卒中	8	3.3	9	1.4	24	0.4	41	0.6	<0.001	<0.001
心臓病	19	7.8	44	6.7	169	3.0	232	3.6	<0.001	<0.001
がん	10	4.1	27	4.1	71	1.3	108	1.7	<0.001	<0.001
高血圧症	102	41.8	260	39.4	1134	20.2	1496	23.0	<0.001	<0.001
脂質異常症	27	11.1	90	13.6	566	10.1	683	10.5	0.042	0.019

備注) 1) トレンド検定 (コ克蘭・アーミテージ検定, 2)  $\chi^2$  検定

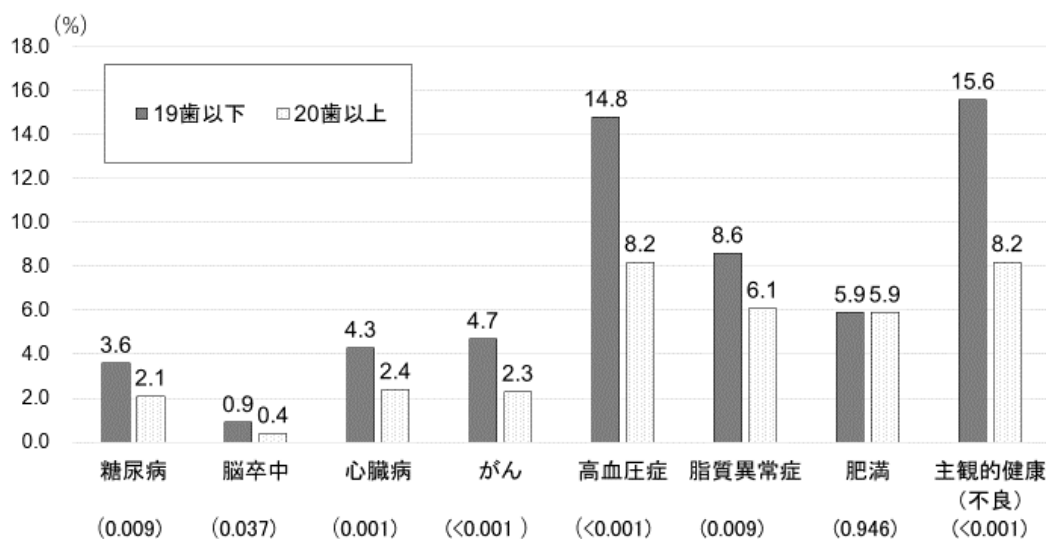


図 23. 現在歯数別疾患別発症率および主観的健康状態悪化者の割合 (項目下の値は  $\chi^2$  検定 p 値)

## ② 歯肉の状態が主観的健康観に与える影響

### a. 分析内容

口腔と全身の健康の関係が報告されているが、未測定の変因によるバイアスの問題を有する研究も多い。固定効果分析は個人の未測定の変因によるバイアスの可能性を抑えることができる手法であるが、繰り返し測定データが必要でありこの分野での適用は少ない。そこで本研究は繰り返し調査された歯肉出血と主観的健康感の関連を固定効果分析で検討を行うことを目的とした。

### b. 分析方法

各都道府県の歯科医院における 2014 年から 2016 年までの 3 回の調査データを分析に用いた。調査対象の 1,384 歯科医院の内、協力の得られた 1,237 施設 (89.4%) の 20 歳以上の患者 12,496 人から調査協力が得られた。この内、第 2 回調査でも歯科健診に参加した者は 3,942 人、第 3 回調査では 3,537 人であった。全身の健康状態の変数として、1 問の主観的健康感の変数を用いた。歯科医師の診査による歯肉出血のある歯数を説明変数に用いた。年齢、現在歯数、治療中の疾病の有無、経済状況、喫煙、飲酒、運動習慣、野菜摂取を共変量として調整をした。主観的健康感および歯肉出血のある歯数を連続変数とした線形モデルの固定効果分析で解析を行った。

### c. 結果

延べ 1,8612 人の参加者の平均年齢は 57.5 歳 (SD=16.0) であった。主観的健康感が最も良かった者は 12.9% で歯肉出血のある歯数の平均値は 4.8 本 (SD=6.0)、最も悪かった者は 1.2% で 6.9 本 (SD=7.4) であった (図 24)。経時的な歯肉出血のある歯数の減少傾向が見られた。共変量を調整した固定効果分析の結果、歯肉出血のある歯数が多いほど、主観的健康感が有意に悪かった (B=0.006、

p=0.002)。感度分析として3回のすべての調査に参加した者に限定した固定効果分析の(N=2,003)の係数はB=0.007(p=0.007)であり、また繰り返し横断研究デザインによる重回帰分析による係数はB=0.009(p<0.001)であり、それぞれの結果は似ていた。

#### d. 考察

歯科医院に通院している患者においても、歯肉出血のある歯数が多いほど、主観的健康感が有意に悪かった。主観的健康感将来の健康状態の予測力も高いシンプルだが包括的な健康指標として知られている。口腔の健康の改善でこの指標の改善が図れる可能性があることが示唆された。

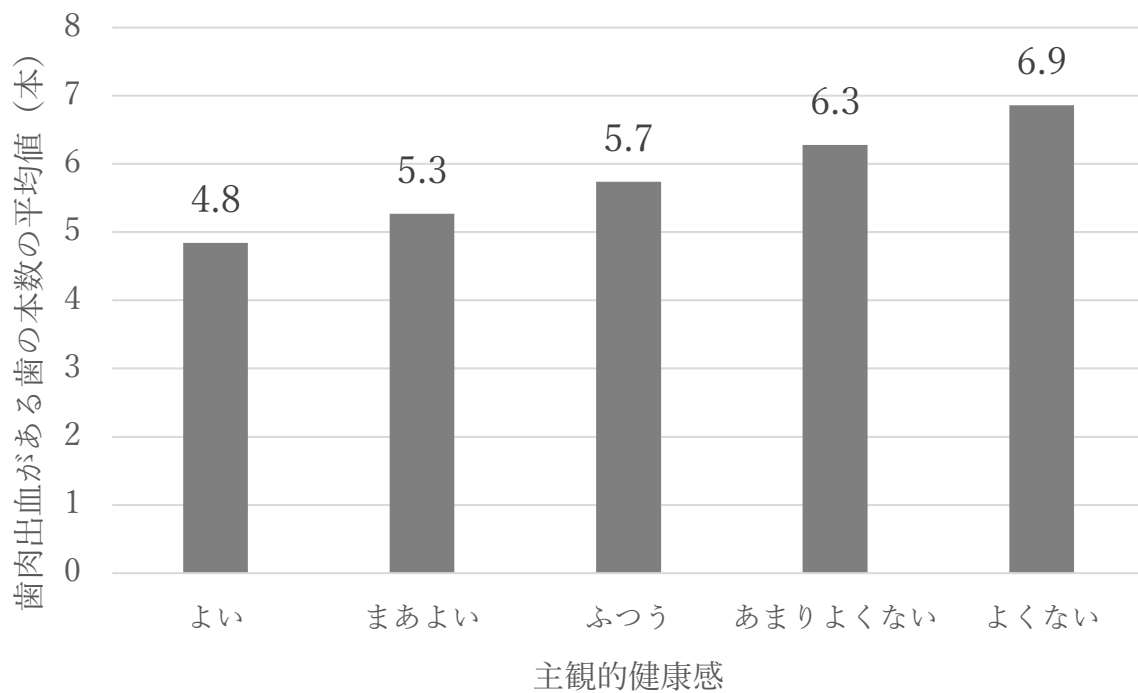


図 24. 主観的健康感の回答ごとの歯肉出血がある歯の本数の平均値



#### (4) 定期歯科健診受診と口腔および全身の健康の関係

##### 1) 歯の喪失との関連(追跡調査)

図 25 は、ベースライン時、第 1～5 回追跡調査で「定期健診のみ」で歯科受診を行っている群とそれ以外の群で 5 年間の歯の喪失状況を比較した。5 年間継続して定期健診で受診していた者では、81.0%の者に歯の喪失はなかったのに対して、それ以外の者では 54.9%であった。すなわち、定期健診が口腔の健康が維持と歯の喪失予防につながることを示すものである。

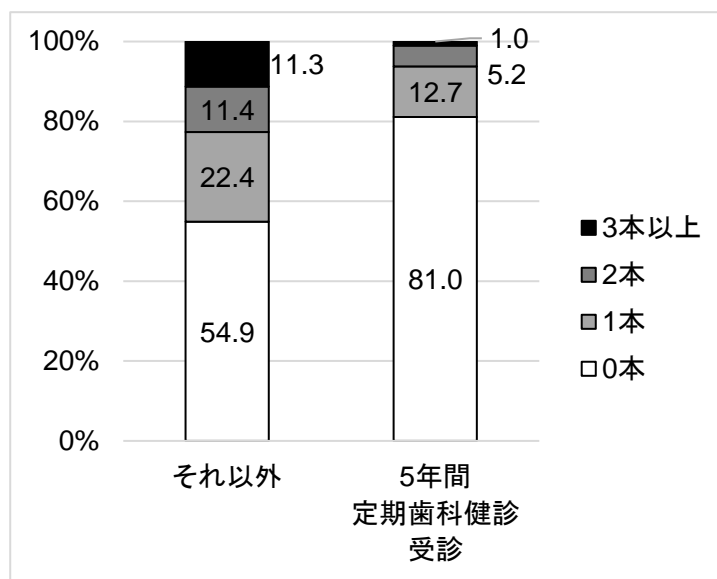


図 25. 定期健診受診の有無別歯の喪失状況(5年間)

##### 2) 全身の健康状態との関連(追跡調査)

ベースライン時データ(2014年)と第 5 回追跡調査データ(2019年)を用い、歯科受診行動(定期歯科受診)が、その後の全身の健康にどのように影響しているのかを検討した。歯科受診行動で、5年間継続して定期受診した影響を評価した際には、ベースライン時データと第 1～5 回追跡調査データを用いた。

表 22 に、ベースライン時、第 5 回追跡調査時の歯科受診理由を示した。ベースライン時では、歯科健診および質問紙調査は、歯科受診時に同時に行ったので、「今回の受診理由」を尋ねたのに対して、第 5 回追跡調査時は、質問紙調査回答時の「最後に歯科医院を受診した理由」に対する回答を受診理由として集計した。

表 22. 歯科受診理由

性別	年齢	総数	歯科受診理由											
			治療のため				定期健診のため				治療および定期健診のため			
			ベースライン		第 5 回追跡		ベースライン		第 5 回追跡		ベースライン	第 5 回追跡		
n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%			
男性	20-39	215	99	46.0	88	40.9	97	45.1	105	48.8	19	8.8	22	10.2
	40-59	722	358	49.6	332	46.0	273	37.8	322	44.6	91	12.6	68	9.4
	60-79	1286	589	45.8	511	39.7	455	35.4	548	42.6	242	18.8	227	17.7
	80 +	85	42	49.4	43	50.6	23	27.1	26	30.6	20	23.5	16	18.8
	合計	2308	1088	47.1	974	42.2	848	36.7	1001	43.4	372	16.1	333	14.4
女性	20-39	684	261	38.2	263	38.5	318	46.5	333	48.7	105	15.4	88	12.9
	40-59	1694	705	41.6	626	37.0	732	43.2	843	49.8	257	15.2	225	13.3
	60-79	1962	760	38.7	627	32.0	852	43.4	972	49.5	350	17.8	363	18.5
	80 +	117	46	39.3	50	42.7	39	33.3	45	38.5	32	27.4	22	18.8
	合計	4457	1772	39.8	1566	35.1	1941	43.5	2193	49.2	744	16.7	698	15.7
合計	20-39	899	360	40.0	351	39.0	415	46.2	438	48.7	124	13.8	110	12.2
	40-59	2416	1063	44.0	958	39.7	1005	41.6	1165	48.2	348	14.4	293	12.1
	60-79	3248	1349	41.5	1138	35.0	1307	40.2	1520	46.8	592	18.2	590	18.2
	80 +	202	88	43.6	93	46.0	62	30.7	71	35.1	52	25.7	38	18.8
	合計	6765	2860	42.3	2540	37.5	2789	41.2	3194	47.2	1116	16.5	1031	15.2

「治療のため」と回答した者は、ベースライン時には 42.3%、第 5 回追跡調査時は 37.5%であった。「定期健診のため」と回答した者は、ベースライン時には 41.2%、第 5 回追跡調査時は 47.2%で、「治療および定期健診のため」と回答した者は、それぞれ 16.5%、15.2%であった。受診理由に関する性・年齢階級に関して顕著な違いは認められなかった。

歯科受診頻度については、ベースライン時および第 5 回追跡調査時に「定期健診のみ」、「治療および定期健診」を受診理由とした者における第 5 回追跡調査時の定期健診の頻度は、3 ヶ月以内が 42.7%、4～6 ヶ月以内が 37.4%、7 ヶ月～1 年以内が 11.6%であった。

図 26 は、ベースライン時、第 1～5 回追跡調査で「定期健診のみ」で歯科受診している群とそれ以外の群との NCDs 発症率を比較した結果を示した。心臓病では、5 年間継続して定期受診していた者はそれ以外に比べて発症率が低かった ( $p < 0.05$ )。高血圧では統計的に有意ではなかったが、5 年間継続して定期受診していた者はそれ以外に比べて発症率が低い傾向にあった ( $p = 0.057$ )。定期的に歯科健診を受診し口腔健康管理を受けることが、全身の健康維持に効果を発揮することを示す結果である。

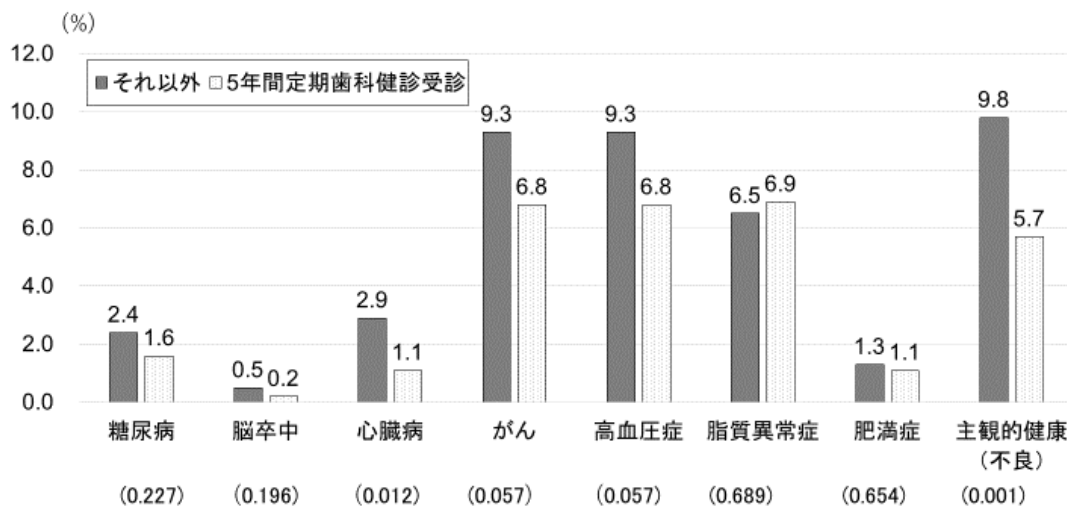


図 26. 定期健診受診の有無別疾患発症率および主観的健康状態悪化者の割合(項目下の値は  $\chi^2$  検定 p 値)

備注)5 年間定期健診受診者:ベースライン, 第 1～5 回追跡調査時いずれも歯科受診理由を「定期健診のみ」と回答した者

## (5) 歯科患者の受診パターンの把握とそれに影響する要因の把握

### 1) 歯科受診パターンの関連要因(ベースライン調査)

歯科医院における歯科衛生士の就業状況と患者の定期健診受診の関連の分析

#### a. 分析内容

従来、歯科衛生士は、歯科医師の補助的な業務を担ってきたが、予防歯科が重要視され、今後はより主体的に長期的な口腔管理を担うことが期待されている。近年、担当歯科衛生士制や専用ユニットが注目されているが、歯科医院において歯科衛生士専用ユニットの設置や、歯科衛生指導の時間数などの歯科衛生士の職務環境と患者の通院理由を全国的に調査されたものはない。本研究では、歯科衛生士の職務環境が、歯科医院の定期健診に与える影響を把握することを目的として分析を行った。

#### b. 分析方法

平成26年度に岡山県を除く46都道府県において、8020財団「歯科医療による健康増進効果に関する調査研究」で各都道府県歯科医師会に所属する歯科医院およびその受診患者(20歳以上の初診、再診患者)を対象として質問紙調査法により行った調査結果を使用した。

歯科衛生士の職務環境と定期健診の有無との関連の検討には、都道府県間の差異を考慮したマルチレベルロジスティック回帰分析を用い、目的変数は来院理由(0:治療のみ、1:定期健診(治療と定期健診両方の者も含む))、説明変数として歯科衛生士の専用ユニットの有無(0台、1台以上)を投入し、調整因子として、歯科衛生士数(常勤換算)、歯科医師数(常勤換算)、患者の性別、年齢層、主観的経済状況(中の上以上、中、中の下以下)を加え解析を行った。

#### c. 分析結果

調査対象となった歯科医院は1,354施設で、質問票の回収率は89.7%であり、患者の歯科健診票は12,604名分得られた。歯科医院調査と患者調査のデータを突合し、解析には歯科医院1181施設、来院理由の欠損値(N=465)を除外した患者12,139名(男性4,444人、女性7,964人、平均年齢55.4±16.5歳)のデータを分析に使用した。

来院理由が定期健診のためと回答した患者は52.8%であった。歯科衛生士が充実している歯科医院に通院している患者の方が、定期受診の割合が高い傾向にあった(表23)。DHユニットが一台以上ある歯科医院は全国で25.7%であった。マルチレベルロジスティック回帰分析の結果、性別、年齢、経済状況を調整した上でも、歯科衛生士専用ユニットが0台の群と比べて1台以上の群では受診理由が定期健診であるオッズ比は1.32(95%CI:1.11-1.57と、有意に高かった(表24)。歯科衛生士数も多い歯科医院に通院している方が、定期健診であるオッズが有意に高かった。

#### d. 考察

定期健診が推奨されているが、歯科衛生士の多い歯科医院では患者が定期健診を受けている可能性が有意に高かった。歯科医院における歯科衛生士の就業の増加が、定期健診受診を増やすことにつながることを示唆された。

表 23. 定期健診受診か治療受診による、患者の基本属性

	治療 N=5, 734		定期健診 N=6, 405	
	N	%	N	%
歯科衛生士専用ユニット				
なし	4, 477	49. 7	4, 539	50. 3
一台以上あり	1, 257	40. 2	1, 866	59. 8
常勤換算 DH 数				
0 人	883	64. 4	489	35. 6
1 人以下	1, 451	57. 4	1, 078	42. 6
2 人以下	1, 304	48. 3	1, 396	51. 7
3 人以下	1, 009	41. 9	1, 400	58. 1
3 人より多い	1, 086	34. 7	2, 042	65. 3
常勤換算 Dr 数				
1 人	3, 649	50. 9	3, 520	49. 1
2 人以下	1, 447	42. 7	1, 939	57. 3
2 人より多い	639	40. 3	947	59. 7
性別				
男性	2, 288	52. 1	2, 106	47. 9
女性	3, 446	43. 7	4, 447	56. 3
年齢				
20 代	453	46. 4	523	53. 6
30 代	689	46. 0	809	54. 0
40 代	895	47. 5	988	52. 5
50 代	1, 016	48. 9	1, 062	51. 1
60 代	1, 317	45. 5	1, 575	54. 5
70 代	1, 069	47. 7	1, 173	52. 3
80 代	279	51. 1	267	48. 9
90 代	16	66. 7	8	33. 3
主観的経済状況				
上、中の上	662	41. 3	940	58. 7
中	3, 800	46. 7	4, 334	53. 3
中の下、下	1, 272	52. 9	1, 131	47. 1

表 24. 定期健診に関連する要因のマルチレベルロジスティック回帰分析の結果

	Odds Ratio	95%CI		
歯科衛生士専用ユニット				
なし	1.00			
一台以上あり	<b>1.32</b>	<b>1.11</b>	-	<b>1.57</b>
常勤換算歯科衛生士数				
0人	1.00			
1人以下	<b>1.31</b>	<b>1.06</b>	-	<b>1.61</b>
2人以下	<b>1.83</b>	<b>1.42</b>	-	<b>2.35</b>
3人以下	<b>2.42</b>	<b>1.88</b>	-	<b>3.11</b>
3人より多い	<b>3.58</b>	<b>2.66</b>	-	<b>4.82</b>
常勤換算歯科医師数				
1人	1.00			
2人以下	1.13	0.95	-	1.33
2人より多い	0.92	0.74	-	1.16
性別				
男性	1.00			
女性	<b>1.42</b>	<b>1.30</b>	-	<b>1.55</b>
年齢				
20代	1.00			
30代	1.01	0.83	-	1.25
40代	0.97	0.82	-	1.15
50代	0.95	0.77	-	1.16
60代	1.10	0.88	-	1.37
70代	1.04	0.83	-	1.30
80代	0.96	0.76	-	1.20
90代	0.57	0.23	-	1.41
主観的経済状況				
上、中の上	<b>1.23</b>	1.08	-	1.4
中	1.00			
中の下、下	<b>0.82</b>	0.74	-	0.91
都道府県				
var (_cons)	0.12	0.08	-	0.18

## 2) 歯科受診パターンの変化の関連要因(追跡調査)

### a. 分析内容

歯科医院への受診状況は、自覚症状の有無だけでなく、多くの社会的決定要因と有意に関連すると報告されている。しかしながら、経時的な患者の受診パターンの変化に着目し、それに影響する要因の報告は少ない。本分析では、これまでの歯科医院への受診理由が治療のためのみだった者が、定期健診(治療を併用する者も含む)に変化した者について、その要因の検討を行った。

### b. 分析方法

2014年～19年の毎年の患者調査の対象者12,150名のうち、ベースライン時点で歯科医院を受診した理由に「定期健診」と回答した者を除外した6,699名を分析対象とした。このデータに、歯科医院調査に回答した1,216施設のデータも結合し、分析を行った。

各年度の追跡調査において、一度でも最後の歯科医院受診理由を「定期健診」「治療及び定期健診」とした者を「受診理由変化有り」とした。受診理由変化の有無を従属変数、性別、年齢、主観的経済状況(High、Middle、Low)、口腔内の自覚症状の有無、学歴(中学・高校卒業、高専・短大卒業、大学卒業以上)、就労の有無、ソーシャルサポートの有無、受診歯科医院の歯科衛生士数(常勤+非常勤の常勤換算数:0人、0～1人、1～2人、2人～)を独立変数とし、マルチレベルロジスティック回帰分析を行った。本研究は、Repeated cross-sectional design であるため、患者本人を Level1、調査回数を Level2、調査都道府県を Level3 とした。

### c. 結果

表25にベースライン調査および追跡調査ごとの基本情報を示す。本調査では女性の割合が多く、経済状況の自己評価では中程度と回答するものが多かった。歯科衛生士数が多い程、定期健診受診に変化した割合が高い傾向にあった。

表26にマルチレベルロジスティック回帰分析の結果を示す。女性が男性に比べ1.30倍、主観的経済状況がHighおよびMiddleの者がLowの者に比べそれぞれ1.18倍、1.08倍、自覚症状のない者がある物に比べ1.50倍、学歴が大学卒業以上および高専・短大卒業の者が中学・高校卒業の者に比べそれぞれ1.27倍、1.11倍、就労していない者が就労している者に比べ1.11倍、受診歯科医院の常勤換算衛生士数が2人より多い者、1人から2人以下の者、0人から1人以下の者は、0人の者と比べ、それぞれ2.26倍、1.82倍、1.47倍、受診理由が定期健診に変化したオッズが有意に多かった。

### d. 考察

就労については働いていない者のほうが時間的拘束は少なく、希望日・時間帯に受診が可能であるため、就労していない方が定期健診を受診する方向に変化していたと考えられる。経済状態が悪いほど、歯科医院を受診しても定期健診に移行するものが少ないことが明らかとなった。また、受診歯科医院の歯科衛生士数が定期健診への移行に大きく関連することが示唆された。

表 25. 各調査年で、受診理由が定期健診受診に変化した者の分布(ベースライン時点で治療受診の者のみの解析。無回答者を含む)

	2014(ベースライン)		2015(追跡調査1回目)		2016(追跡調査2回目)		2017(追跡調査3回目)		2018(追跡調査4回目)		2019(追跡調査5回目)	
	治療のみ	定期に変化	治療のみ	定期に変化	治療のみ	定期に変化	治療のみ	定期に変化	治療のみ	定期に変化	治療のみ	定期に変化
総人数	6699	0	5442	1257	4734	1965	4729	2420	4014	2685	3804	2895
該当年度に回答した人数	6699		2616	1257	2289	1804	1769	2048	1495	2134	1287	2195
性別												
男	39.1		38.1	34.6	40.9	34.2	42.1	34.8	40.8	34.9	41.3	35.6
女	60.9		61.9	65.4	59.1	65.8	57.9	65.2	59.2	65.1	58.7	64.4
年齢(base時)												
20-29	8.6		5.0	4.5	4.9	4.7	4.3	5.1	3.5	5.0	3.6	4.2
39-39	12.8		9.3	9.6	9.2	9.9	8.9	9.0	8.9	8.6	9.2	9.4
40-49	15.9		15.1	13.5	15.9	14.6	15.9	14.7	15.8	15.2	17.2	15.5
50-59	17.7		19.5	18.4	19.8	19.5	20.2	19.7	21.5	20.0	21.9	20.0
60-69	22.3		27.4	26.4	26.1	27.7	26.6	27.8	26.9	28.1	26.0	28.7
70-79	17.9		18.3	24.3	19.3	20.3	18.8	20.5	18.8	20.4	18.4	19.4
80-	4.8		5.5	3.3	4.8	3.2	5.4	3.1	4.7	2.7	3.7	2.8
経済状態												
High	11.9		13.5	15.4	12.8	15.5	12.4	15.6	12.6	15.3	13.1	14.9
Middle	66.8		60.7	60.7	60.9	60.6	61.3	61.4	60.9	61.1	59.1	61.7
Low	21.4		24.0	22.5	24.4	22.0	24.3	21.6	24.3	22.4	26.9	22.6
口腔内で気になること												
ある	77.1		74.2	66.5	74.7	67.7	75.2	67.8	76.4	66.7	75.4	68.1
なし	20.1		23.9	31.7	23.3	29.9	22.3	30.5	21.3	31.6	22.3	29.4
無回答	2.9		1.9	1.8	2.0	2.4	2.4	1.7	2.3	1.6	2.3	2.5
学歴												
中学・高校卒業	51.2		52.4	51.2	53.9	51.2	53.8	51.1	55.5	51.5	55.8	49.2
高専・短大卒業	28.6		28.2	28.2	26.1	28.2	26.7	28.2	25.9	27.1	25.5	29.4
大学卒業以上	18.5		18.6	20.0	18.7	19.6	18.7	19.6	17.9	20.5	17.7	20.4
就労												
働いている	63.2		58.6	55.9	59.8	56.2	59.5	55.7	58.7	55.4	59.9	54.8
働いていない	36.5		40.7	43.6	39.1	43.1	39.9	43.7	40.0	43.7	39.2	44.6
ソーシャルサポート												
ある	97.1		96.1	96.2	94.4	95.9	95.4	95.4	94.8	95.5	93.8	95.8
なし	2.9		2.9	3.3	3.9	3.3	4.0	3.7	3.9	3.5	4.9	3.3
歯科衛生士数(常勤換算)												
0人	14.0		16.2	9.5	16.9	9.9	18.1	10.7	17.7	11.2	18.6	11.1
0~1人	21.5		23.1	20.1	23.3	20.0	23.5	20.9	23.8	20.9	23.5	21.4
1~2人	19.8		20.6	20.6	19.4	20.6	20.7	20.7	19.9	21.6	18.6	21.6
2人~	39.5		32.4	41.3	32.3	41.4	29.8	39.4	29.8	38.2	30.0	38.1

表 26. マルチレベルロジスティックス回帰分析による、受診理由が定期健診受診に変化したオッズ比

		多変量調整モデル	
		オッズ (95%CI)	p
性別	男 (ref)	1	
	女	1.30 (1.21-1.39)	<0.001
年齢		1.00 (0.99-1.00)	0.147
経済状態	Low (ref)	1	
	Middle	1.08 (1.00-1.17)	0.041
	High	1.18 (1.06-1.32)	0.003
自覚症状の有無	ある (ref)	1	
	なし	1.50 (1.39-1.62)	<0.001
学歴	中学・高校卒業 (ref)	1	
	高専・短大卒業	1.11 (1.03-1.20)	0.008
	大学卒業以上	1.27 (1.16-1.40)	<0.001
就労	働いている (ref)	1	
	働いていない	1.11 (1.02-1.20)	0.009
ソーシャルサポート	ある (ref)	1	
	なし	0.97 (0.81-1.16)	0.760
歯科衛生士数 (常勤+非常勤常勤換算)	0人 (ref)	1	
	0人~1人	1.47 (1.32-1.65)	<0.001
	1人~2人	1.82 (1.62-2.04)	<0.001
	2人~	2.26 (2.03-2.51)	<0.001



## 4. 一般地域住民を対象とした調査結果

### (1) 歯科医療の受療状況

最後の歯科医院受診が1年以内の者は全体の63.6%で、年齢が上がるにつれて1年以内の歯科医院受診者の割合は高くなった。歯科医院を受診したことがない者は全体の2.3%であった。歯科医院を受診したことがある者で、その受診理由として、治療のためと回答した者は全体の64.4%、定期健診のためと回答した者は24.8%、治療および定期健診のためと回答した者は10.7%であった。約半数以上の者は治療を目的として歯科医院を受診していた一方、定期健診のための受診者は35.5%を示した。

かかりつけの歯科医院を持っている地域住民は74.0%であり、20～24歳で55.1%であるのに対して、年齢と共にその割合は増加し75～79歳では88.9%であった。

### (2) 一般地域住民の歯科受診パターンの関連要因

#### a. 分析内容

日本においても、幼少期から高齢期のすべてのライフステージにおいて口腔の健康の健康格差が存在することが報告されている。こうした健康格差を生じさせるひとつの要因として、医療受診の格差が挙げられる。また、社会経済的要因や歯科医院側の要因とは別に、歯科受診に影響を及ぼす要因として現在歯数が挙げられる。現在歯数が極端に少なければ歯科受診が減少することが指摘されている。歯科受診は歯の喪失を予防すると考えられ、また歯が残っていることが歯科受診を増加させるという双方向的な関係が存在すると考えられる。そのため、歯科受診の健康格差を検討する際に、現在歯数を考慮する必要があると考えられるが、先行研究においてこれまで考慮されていなかった。そこで本分析では、歯科医院への定期受診をどのような人が受けているのか、社会経済的要因と現在歯数の点から検討を行った。

#### b. 分析方法

2015年の一般住民を対象とした調査データによる横断研究で検討を行った。調査は郵送法の質問紙調査で、層化2段無作為抽出により全国の市町村から抽出された20歳～79歳の5,000人の内、2,465人(有効回収率49.3%)から回答が得られている。歯科医院への定期健診については、2つの質問から定義した。具体的には、①過去に歯科医院を受診したかの質問に対して「はい/いいえ」の選択肢で「はい」を選択しており、②最後に歯科医院を受診した理由の質問に対して「治療のため/定期健診のため/治療および定期健診」の選択肢で「定期健診のため/治療および定期健診」を選択した者を、歯科医院への定期健診をしている者とした。2つの質問を組み合わせた理由は、②の質問だけでは無回答か受診が無いか判別できないためである。年齢により推奨される定期健診の間隔は異なりうるため、また幅広く定期健診受診者を拾うために、本解析では定期健診を受けた時期による制限を設けなかった。

主観的な経済状態(平均的な家庭を中とした場合の経済状態を質問し「上/中の上/中/中の下/下」の選択肢で回答。変数名は「主観的経済状態」を社会経済的要因の変数とした。回答者の分布を考慮し、「上

/中の上」と回答した者を「中の上以上」、「中」と回答した者を「中程度」、「中の下/下」と回答した者を「中の下以下」とカテゴリー化して解析に用いた。現在歯数は自由記載で回答を得て、「0～9本」、「10～19本」、「20～23本」、「24～27本」、「28本以上」のカテゴリーで解析に用いた。年齢は20～39歳、40～59歳、60～79歳の3つのカテゴリーで用いた。

用いる変数に欠損値の存在しない2,161人のデータを用いた。性別、年齢、主観的経済状態、現在歯数と、定期健診受診の有無との関連をポアソン回帰分析で検討し prevalence ratio (PR)を算出した。

### c. 分析結果

回答者の平均年齢は52.4±15.5歳で性別は男性1,008人、女性1,153人であった。表1に歯科医院への定期健診受診の有無の記述統計を示す。34.9%の者が過去に定期健診のために歯科医院を受診した経験を有していた。女性、高齢者、経済状況が良い者、現在歯数が多い者で、定期受診が多い傾向にあった。

表 27. 歯科医院への定期健診受診の有無の記述統計

		人数	定期健診の受診の有無 (%)			
			無し		有り	
性別	男性	1,008	714	(70.8)	294	(29.2)
	女性	1,153	693	(60.1)	460	(39.9)
年齢	20～39歳	508	337	(66.3)	171	(33.7)
	40～59歳	817	563	(68.9)	254	(31.1)
	60～79歳	836	507	(60.6)	329	(39.4)
主観的経済状況	中の上以上	406	245	(60.3)	161	(39.7)
	中	1,173	746	(63.6)	427	(36.4)
	中の下以下	582	416	(71.5)	166	(28.5)
現在歯数 (5カテゴリー)	28本以上	1,268	817	(64.4)	451	(35.6)
	24～27本	482	299	(62.0)	183	(38.0)
	20～23本	181	117	(64.6)	64	(35.4)
	10～19本	135	102	(75.6)	33	(24.4)
	0～9本	95	72	(75.8)	23	(24.2)
合計		2,161	1,407	(65.1)	754	(34.9)

表 28. ポアソン回帰分析による歯科医院への定期健診受診への各要因の関連

		単変量解析		多変量解析	
		Prevalence ratio (95%信頼区間)	傾向性の p 値	Prevalence ratio (95%信頼区間)	傾向性の p 値
性別	男性	1.00	p<0.001	1.00	p<0.001
	女性	1.37 (1.21; 1.54)		1.35 (1.20; 1.52)	
年齢	20-39	1.00	0.013	1.00	p<0.001
	40-59	0.92 (0.79; 1.08)		0.95 (0.81; 1.11)	
	60-79	1.17 (1.01; 1.36)		1.34 (1.14; 1.57)	
主観的経済 状況	中の上以上	1.00	p<0.001	1.00	0.001
	中	0.92 (0.80; 1.06)		0.91 (0.79; 1.05)	
	中の下以下	0.72 (0.60; 0.86)		0.74 (0.62; 0.88)	
現在歯数 (5 カテゴリ)	28 本以上	1.00	0.008	1.00	p<0.001
	24-27 本	1.07 (0.93; 1.22)		0.99 (0.86; 1.14)	
	20-23 本	0.99 (0.81; 1.23)		0.88 (0.71; 1.10)	
	10-19 本	0.69 (0.51; 0.93)		0.61 (0.45; 0.83)	
	0-9 本	0.68 (0.47; 0.98)		0.61 (0.42; 0.87)	

全参加者によるポアソン回帰分析の結果を表2に示す。女性、高齢者(60~79歳)で受診が有意に多かった。経済状態が悪いほど、また現在歯数が少ない者で受診が有意に少なかった。経済状態が中の上以上の者と比較した中の下以下の者の定期受診のPRは0.74(95%信頼区間=0.62;0.88)であった。

年齢層別のポアソン回帰分析の解析結果を表3に示す。経済状態が悪いほど受診をしていない傾向はどの年齢層でも見られ、特に40~59歳では統計学的に有意であった。現在歯数に関しては、20~39歳の者では歯が少ないほど受診が多い傾向がある一方、それ以上の年齢層では歯が少ないほど受診が少ない傾向にあった。

#### d. 考察

本研究は、歯科の定期受診の健康格差を調べた研究であり、これまで検討されていなかった幅広い年齢において、歯科の定期健診受診に影響する可能性が高い現在歯数を考慮した点で新しい研究である。

現在歯数を考慮した上でも、経済状態が悪いほど歯科医院への定期受診が少ない傾向が明らかになった。また現在歯数に関しては、若年層(20~39歳)でやや違いがあるものの、全体的には歯が少ないほど受診が少ないことが明らかになった。

歯が喪失して現在歯数が少なくなれば、定期健診にも行かなくなる可能性が示唆された。そして国民皆保険で多くの歯科治療がカバーされている日本においても、経済状態が悪いことが、歯科医院への定期健診受診の障害になっていることが示唆された。

### (3) 一般地域住民調査結果と歯科患者調査結果との比較

歯科患者（ベースライン調査参加者）と一般住民の最後の歯科医院受診時期を比較したところ、ともに年齢層が高いほど最後の歯科受診からの間隔が短い傾向を示した。歯科患者と一般住民の間に最後の歯科受診時期には有意な差が認められ、どの年齢層においても歯科患者のほうが最後の歯科受診時期に近い傾向にあり、3 か月以内に歯科を受診した者の割合が最も高かった（図 27）。両群ともに過去に歯科を受診した経験がない者が数%認められたが、最後の歯科受診時期が遠い傾向にある一般住民においても、1 年以内に歯科を受診した者は 20～39 歳の半数以上、60～79 歳では約 7 割と多くの者が歯科を受診していた。

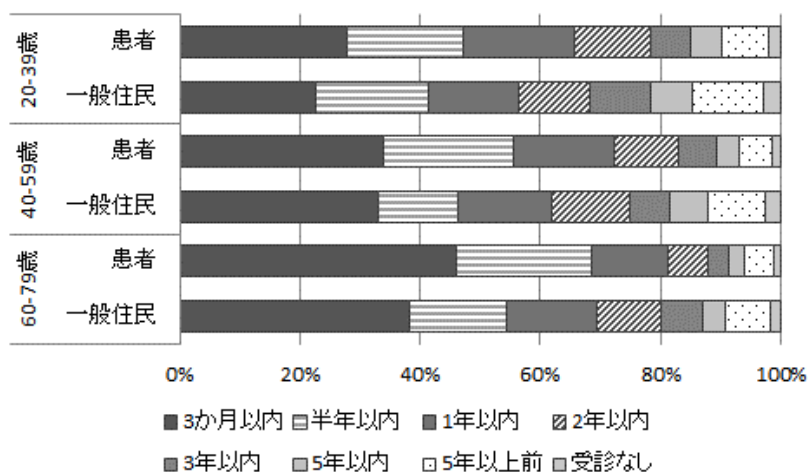


図 27. 歯科患者と一般住民の最後の歯科受診時期

歯科患者と一般住民における最後の歯科受診時の受診理由では、両群ともに治療のために歯科を受診した者が最も多く 5～6 割を占めていた。両群の受診理由には有意な差がみられ、いずれの年齢層においても歯科患者は一般住民に比べて定期健診を目的として歯科を受診する者の割合が高かった（図 28）。

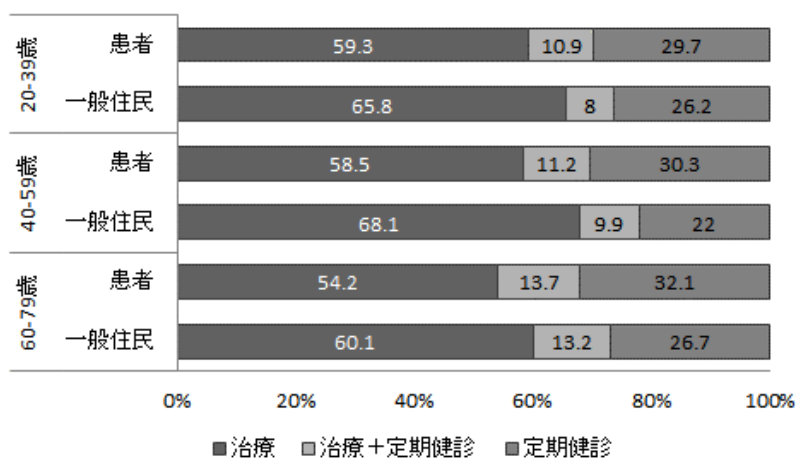


図 28. 歯科患者と一般住民の最後の歯科受診時の受診理由

歯科患者と一般住民における口腔の健康および全身の健康状態の自己評価を比較した結果を図 29 に示す。いずれの年齢層においても、一般住民は歯科患者に比べて口腔の健康状態が良いと感じている者が多く、口腔の状態が悪いと感じている者は少なかった。一方、全身の健康状態の自己評価については、一般住民が歯科患者に比べて状態が良いと感じている者や悪いと感じている者がやや多い傾向にあったが、いずれの年齢層においても群間に有意な差は認められなかった。歯科患者および一般住民ともにいずれの年齢層においても、全身の健康状態よりも口腔の健康状態が悪いと感じている者の割合が高かった。

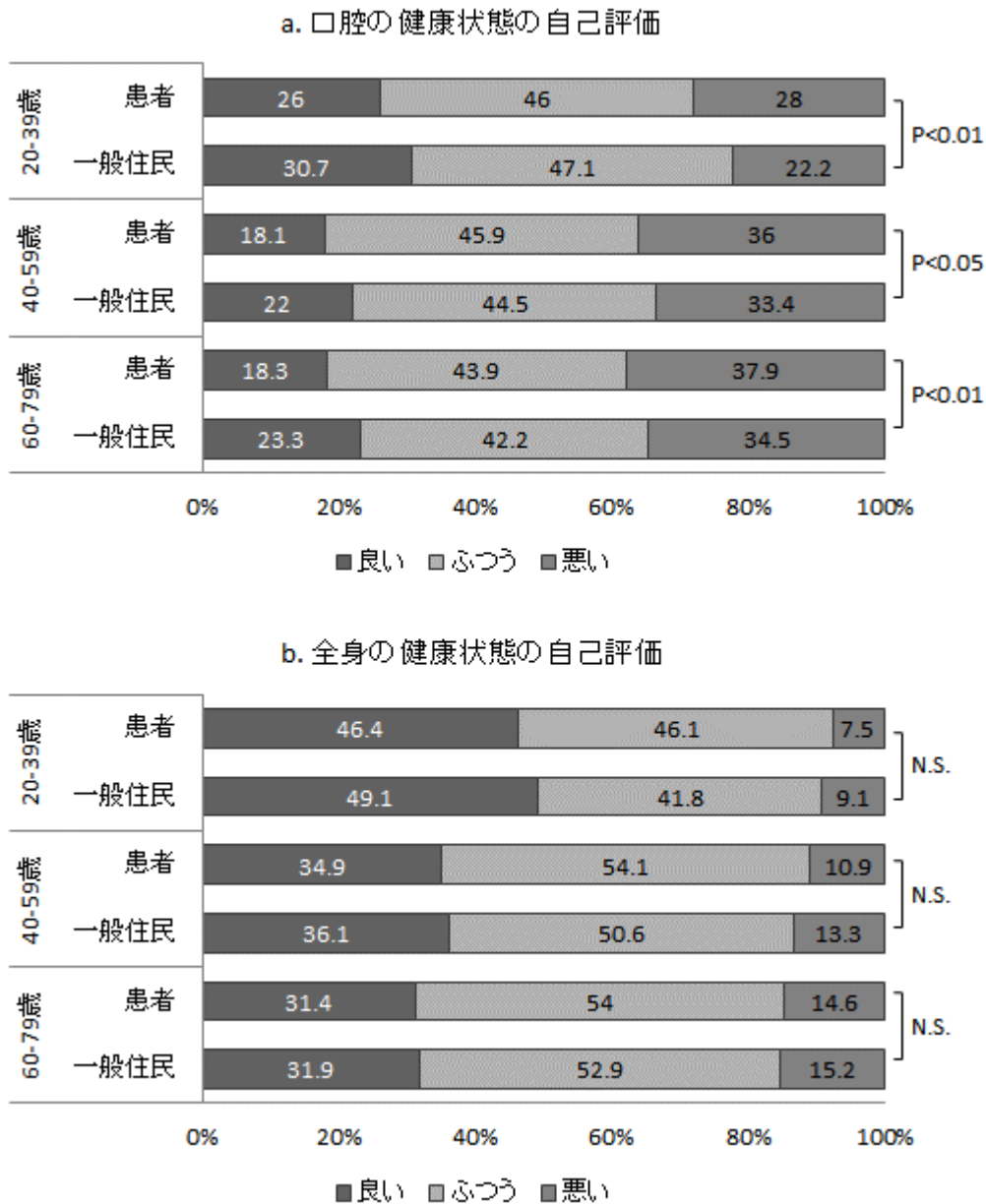


図 29. 歯科患者と一般住民の口腔と全身の健康状態の自己評価

歯科患者と一般住民それぞれにおける、最後の歯科受診時の受診理由と口腔および全身の健康状態の自己評価との関係を図30に示す。歯科患者および一般住民ともに、治療を目的として歯科受診した者では口腔の状態が悪いと感じている者が多く、一方で定期健診の目的で歯科を受診していた者では口腔の状態を良いと感じている者が多かった。口腔の健康状態の自己評価と同様に全身の健康状態の自己評価についても、歯科患者および一般住民ともに、治療を目的として歯科を受診していた者において健康状態が悪いと感じている者が多く、定期健診を目的として歯科を受診していた者では健康状態が良いと感じている者の割合が高かった。このことは、定期的な歯科受診が口腔の健康だけでなく全身の健康維持にも貢献できる可能性を示している。

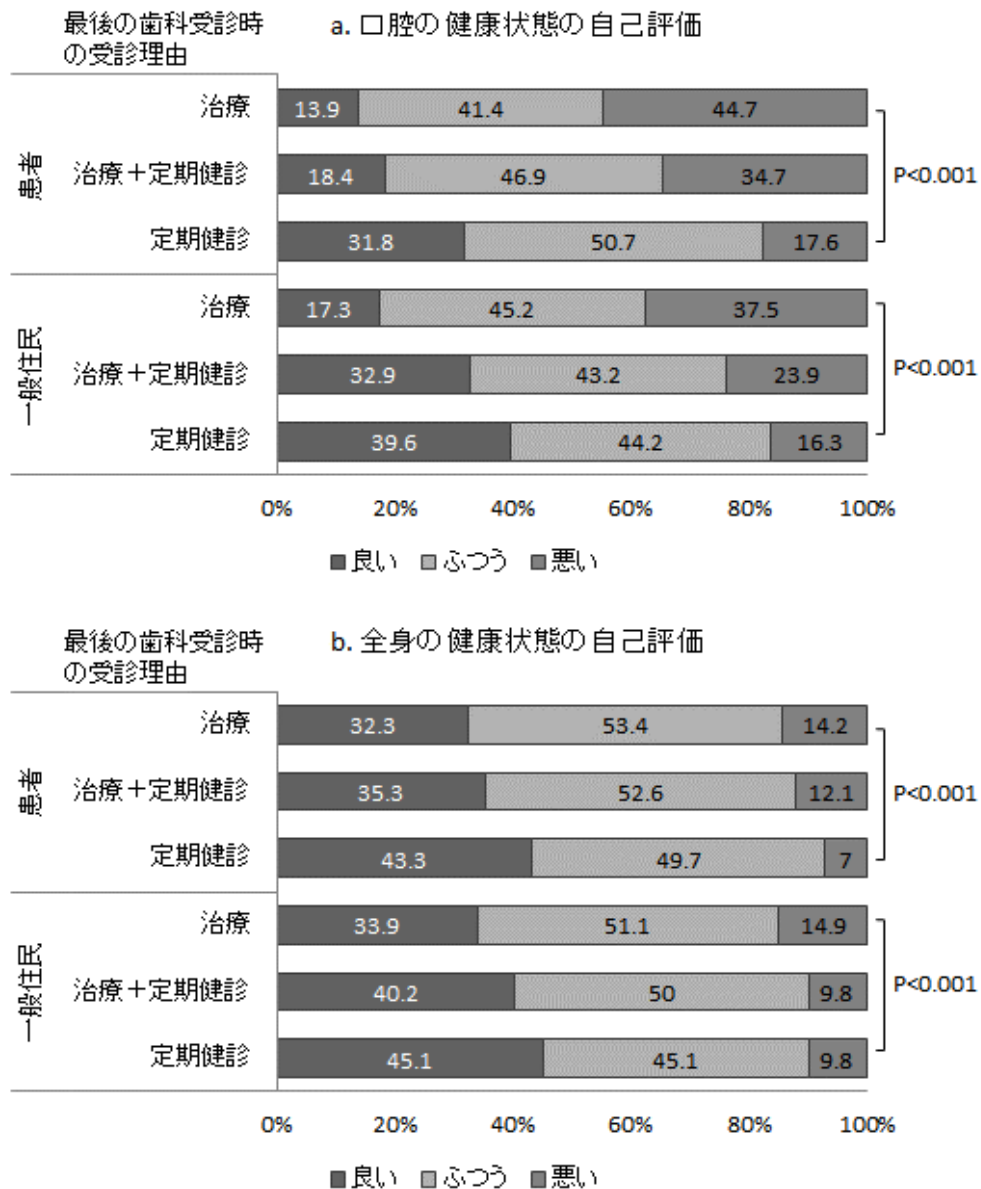


図30. 歯科患者と一般住民の最後の歯科受診時の受診理由と口腔および全身の健康状態の自己評価

歯科患者と一般住民の口腔清掃習慣を、最後の歯科受診時の受診理由によって比較を行った(図 31)。その結果、1日の歯磨き回数や歯間清掃用具の使用頻度は、治療の目的で歯科を受診した者よりも定期健診の目的で歯科を受診した者の方が有意に高かった。また、歯科患者は一般住民に比べて、歯科受診の目的に関係なく歯磨き回数や歯間清掃用具の使用頻度が高かった。定期的に歯科を受診している者は、自身の口腔の健康に対する関心が高く、また歯科医院を受診した際に口腔保健指導を受ける機会が多いことが影響していると考えられる。定期健診の目的で歯科を受診していた者は自身の口腔健康状態が良いと感じていた者が多かったが、歯科受診による口腔保健指導が、口腔の健康に対する意識を高めることで、口腔の健康維持に繋がっていると思われる。

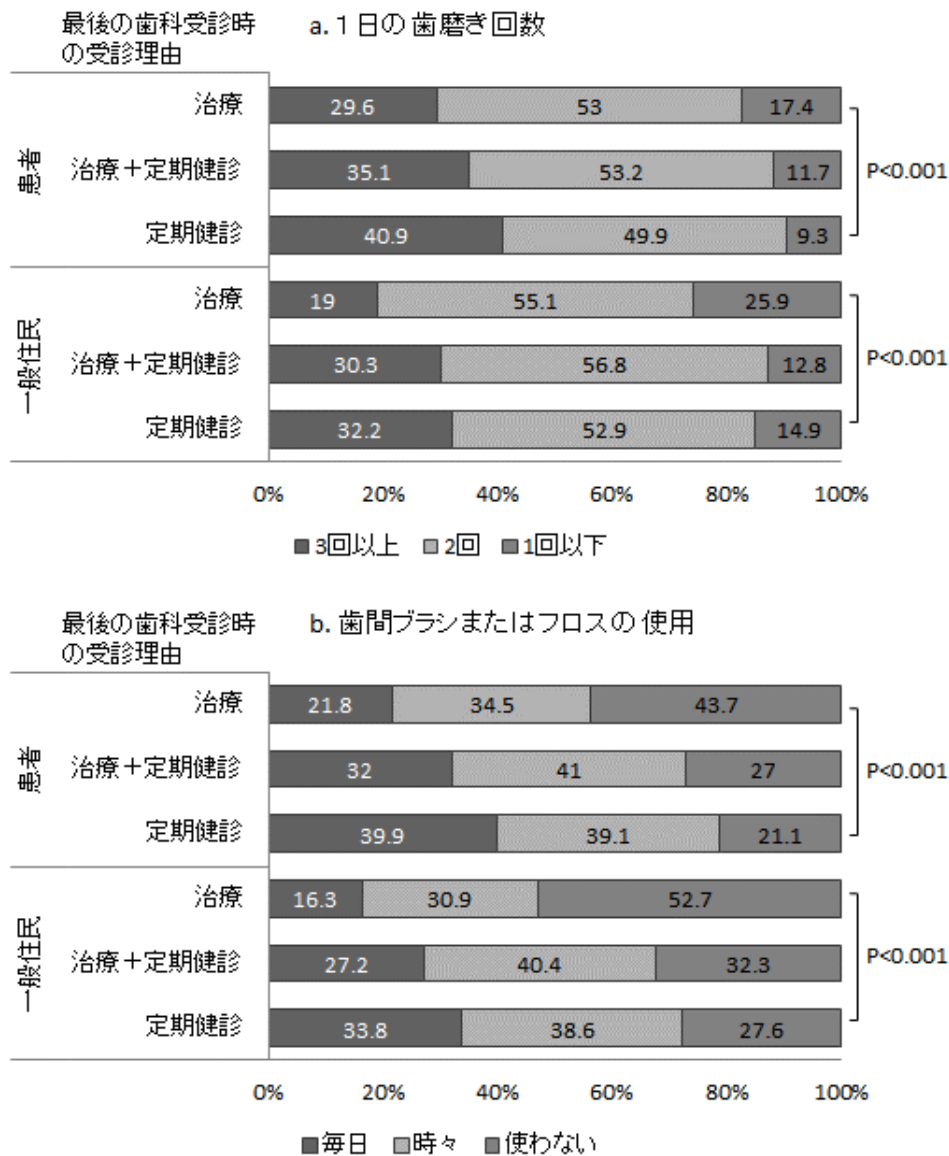


図 31. 歯科患者と一般住民の口腔清掃習慣

歯科患者と一般住民の口腔の健康状態をはかる尺度として歯の本数の自己評価結果を用い、最後の歯科受診時の受診理由ごとの 20 本以上の歯の保有者の割合を比較した(図 32)。歯科患者および一般住民ともに、歯科受診理由により 20 本以上の歯を持つ者の割合に有意な差が認められ、その割合は治療を目的に歯科を受診していた者で最も低く、定期受診を目的として歯科を受診していた者で最も高かった。健康管理を目的として歯科を利用することは、歯の残存にとって重要であることが明らかになった。

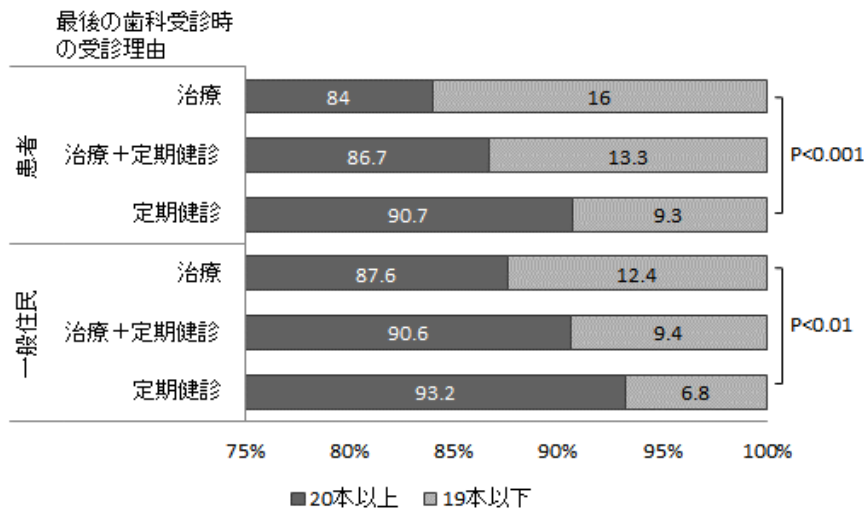


図 32. 歯科患者と一般住民の最後の歯科受診時の受診理由と歯の本数の自己評価

歯科患者と一般住民の全身健康状態を比較するために、両群の主な現病歴の有病率を男女別に比較した結果を図 33 と図 34 に示す。男性ではどの年齢階級においても、糖尿病、心臓病、高血圧症、脂質異常症の有病率に有意な差は認められなかった。女性では、20～39 歳において一般住民が歯科患者に比べて高血圧症の有病率が高く、脂質異常症の有病率は、40～59 歳および 60～79 歳において、歯科患者が一般住民に比べて有意に有病率が高かった。

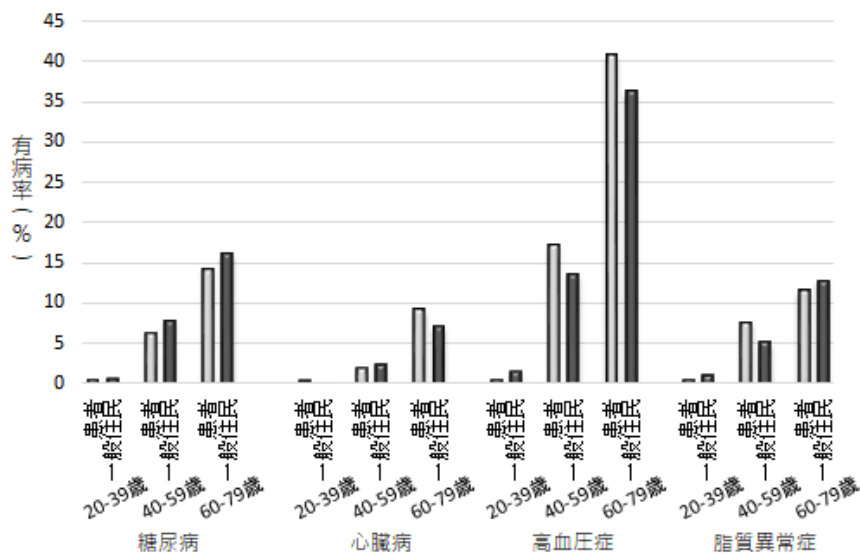


図 33. 歯科患者と一般住民の主な疾患の現病歴 (男性、年齢階級別)



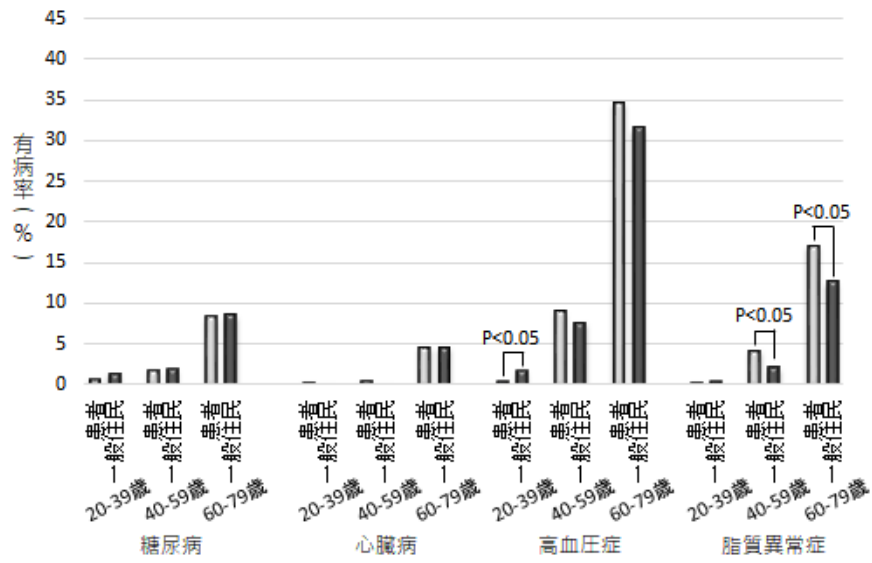


図 34. 歯科患者と一般住民の主な疾患の現病歴(女性、年齢階級別)

## V. まとめと提言

本研究は、超高齢社会を迎えているわが国の国民皆保険制度における歯科医療による全身の健康の保持増進効果を明らかにすることを目的に全国の歯科患者および歯科医院の協力を得て2014年～2019年度に実施された。

全国歯科患者を対象の大規模追跡調査としてわが国で初めて行われた研究事業であり、公的医療保険下の歯科患者に対する歯科医療の効果を検証した例は世界でもほとんどみられない。

分析方法および内容は、ベースライン時(2014年)の全国の1,237歯科医院を受診した12,496名の歯科患者を対象とし、2015年～2019年度の5年間にわたる追跡調査である。併せて受診した歯科医院の医療提供内容、および比較のための一般地域住民の調査を行った。

今回の分析では、以下の主な結果を得た。

1. **歯科医療の受療状況:** 歯科医療の受療状況については、歯科患者調査の結果、過去1年以内に歯科を受診している者は調査では、全体の76.4%、一般地域住民を対象とした調査では、全体の63.6%であった。

受診理由では、治療のためと回答した者は57.0%、定期健診のためと回答した者は30.8%、治療および定期健診のためと回答した者は12.3%であり、43.1%の者は定期健診を目的として歯科医院を受診していた。一般地域住民を対象とした調査では、定期健診のための受診者は35.5%を示し、歯科患者調査の対象者に比べて7.6ポイント低かった。国民レベルで60%以上が過去1年間に歯科を受診し、3人に1人以上は定期歯科健診を目的に受診していると考えられた。

かかりつけの歯科医院を持っている地域住民は74.0%であり、20～24歳で55.1%であるのに対して、年齢と共にその割合は増加し75～79歳では88.9%であった。

これらの結果は、国民レベルの歯科健康管理の現状を示すものである。

2. **歯数と全身の健康状態との関連 (ベースライン調査):** 歯数と全身の健康状態の関連をベースライン時の横断調査で分析した結果、現在歯数(0-9歯群、10-19歯群、20歯以上群の3群)と主なNCDsの有病状況との関連では、現在歯数が多いほど、糖尿病、脳卒中、心臓病、がん、高血圧症、脂質異常症のいずれにおいてもその有病率ではいずれも有意に低く(トレンド検定  $p < 0.05$ 、 $\chi^2$ 検定  $p < 0.05$ )、歯数と全身の健康状態との関連が認められた。
3. **歯数と全身の健康状態との関連 (追跡調査):** ベースライン時の現在歯数と5年間の主なNCDs発症率および主観的健康状態の悪化との関連を分析した結果、糖尿病が発症した者は、20歯以上の者で2.1%であったのに対して19歯以下の者では3.6%であった( $p = 0.009$ )。同様にそれぞれ、がんでは2.3%および4.7% ( $p < 0.001$ )、高血圧症では、8.2%および8% ( $p < 0.001$ )、脳卒中0.4%および0.9% ( $p = 0.037$ )、心臓病2.4%および4.3% ( $p = 0.001$ )、脂質異常症6.1%および8.6% ( $p = 0.009$ )、主観的健康状態10.8%および25.0% ( $p < 0.001$ )であった。ベースライン時の現在歯数が多いとその後5年間のNCDsおよび主観的健康状態の悪化が抑えられ全身の健康状態は維持されることを示した。

4. **歯周病と全身の健康状態との関連(追跡調査・ベースライン調査)**: 歯周組織の健康状態が主観的全身健康観に与える影響について、3年間の追跡データを用いて歯肉出血と主観的健康感の関連を固定効果分析で検討を行った結果、歯肉出血のある歯数が多いほど、主観的健康感が有意に悪かった(B=0.006、p=0.002)。また、ベースラインデータでPPD $\geq$ 5 mmの歯数が5本以上を従属変数、疾患の有病状況や肥満を独立変数として用いてポアソン回帰分析を行った結果、糖尿病や高血圧であるとPPD $\geq$ 5 mmの歯数が多かった。すなわち過去に歯周病を経験している定期受診患者において、糖尿病や高血圧の者は深い歯周ポケットを保有していることが示された。歯周病の予防管理をする際には糖尿病や高血圧に注意する必要がある。
5. **歯の喪失の関連要因(追跡調査)**: 歯数の保持(歯の喪失予防)の関連要因について2年間の追跡データを用いてマルチレベル分析を行った結果、ベースライン時の喫煙習慣および歯科受診理由は歯単位の歯の喪失と有意に関連していた。すなわち、非喫煙者に比べて喫煙者の歯の喪失リスクはオッズ比1.42倍で有意に高く、治療を目的として歯科受診する者に比べて定期健診のみを目的として歯科受診する者の歯の喪失のオッズ比は0.61倍で有意に低かった。その他にも、主観的経済状況および現在歯数が入レベルの要因として歯単位の歯の喪失と有意に関連していた。また、歯レベルの要因では、歯種、歯の状態、歯周状態が歯単位の歯の喪失と有意に関連していた。歯の喪失に関わる要因として、3年間の追跡データを用いて分析したところ、歯科医院レベルの要因のうち、口腔保健指導の実施時間および歯科医院の歯科衛生士数が歯の喪失と有意に関連していた。すなわち口腔保健指導時間をとらない歯科医院に比べて20分以上の口腔保健指導を行う歯科医院の患者の歯の喪失リスクは、オッズ比0.69倍で有意に低く、歯科衛生士がいない歯科医院に比べて歯科衛生士数が4名以上の歯科医院の患者の歯の喪失リスクは、オッズ比0.67倍で有意に低かった。その他にも、患者の個人レベルの要因として、年齢、現在歯数、平均歯周ポケット深さ、喫煙習慣、ブラッシング時の出血の自覚、歯科受診理由が歯の喪失と有意に関連していた。
6. **定期歯科健診受診(口腔健康管理)と全身の健康状態との関連(追跡調査)**: 定期歯科健診受診と全身の健康状態との関連について、NCDs発症率を比較した結果、心臓病では、5年間継続して定期受診していた者は1.1%であったのに対して、それ以外の者は2.9%と定期歯科健診の受診者の発症率は有意に低かった(p<0.05)。高血圧およびがんでは5年間継続して定期受診していた者はそれ以外に比べて発症率が低い傾向にあった(p=0.057)。定期的に歯科健診を受診し口腔健康管理を受けることが、全身の健康維持に効果を発揮することを示す結果であった。
7. **定期歯科健診受診(口腔健康管理)の歯の喪失予防効果(追跡調査)**: 定期歯科健診受診と歯の喪失との関連について、「定期健診のみ」で歯科受診を行っている群とそれ以外の群で5年間の歯の喪失状況を比較した結果、5年間継続して定期健診で受診していた者では、81.0%の者に歯の喪失はなかったのに対して、それ以外の者では54.9%であった。すなわち、定期健診が口腔の健康が維持と歯の喪失予防につながることを示していた。
8. **定期歯科健診受診(口腔健康管理)の関連要因(追跡調査)**: 歯科受診パターンの関連要因について、ベースライン調査および追跡調査ごとの基本情報では定期健診受診者は女性の割合が多く、経済状況の自己評価では中程度以上と回答するものが多かった。歯科衛生士数が多い程、定期健診受診に変化した割合が高い傾向にあった。

歯科医院における歯科衛生士の就業状況と患者の定期健診受診の関連を都道府県間の差異を考慮したマルチレベルロジスティック回帰分析を用いて分析した結果、性別、年齢、経済状況を調整した上でも、歯科衛生士数が多い歯科医院に通院している方が、定期健診を受診しているオッズが有意に高かった。歯科医院における歯科衛生士の就業の増加が、定期健診受診を増やすことにつながることを示唆された。

また、歯科受診パターンが「治療のため」から「定期歯科健診のため」に変化した歯科患者の関連要因について5年間の追跡調査データを用いたマルチレベルロジスティック回帰分析の結果、女性が男性に比べ1.30倍、主観的経済状況がHighおよびMiddleの者がLowの者に比べそれぞれ1.18倍、1.08倍、自覚症状のない者がある物に比べ1.50倍、学歴が大学卒業以上および高専・短大卒業の者が中学・高校卒業の者に比べそれぞれ1.27倍、1.11倍、就労していない者が就労している者に比べ1.11倍、受診歯科医院の常勤換算衛生士数が2人より多い者、1人から2人以下の者、0人から1人以下の者は、0人の者と比べ、それぞれ2.26倍、1.82倍、1.47倍、受診理由が定期健診に変化したオッズが有意に多かった。経済状態が悪いほど、歯科医院を受診しても定期健診に移行するものが少ないことが明らかとなった。

9. **一般地域住民と歯科患者の比較（ベースライン調査）**：一般地域住民調査結果と歯科患者調査結果との比較では、歯科患者は一般住民に比べて受診頻度が高い傾向にあったが、一般住民においても、1年以内に歯科を受診した者は20～39歳の半数以上、60～79歳では約7割と多くの者が歯科を受診していた。全身の健康状態の自己評価については、一般住民が歯科患者に比べて状態が良いと感じている者や悪いと感じている者がやや多い傾向にあったが、いずれの年齢層においても群間に有意な差は認められなかった。歯科患者と一般住民の全身健康状態を比較するために、両群の主な現病歴の有病率を男女別に比較した結果、男性ではどの年齢階級においても、糖尿病、心臓病、高血圧症、脂質異常症の有病率に有意な差は認められなかった。その一方女性では、20～39歳において一般住民が歯科患者に比べて高血圧症の有病率が高く、脂質異常症の有病率は、40～59歳および60～79歳において、歯科患者が一般住民に比べて有意に有病率が高かった。

以上の結果から、下記の提言を行う。

1. 国民の3人に1人以上が定期歯科健診(口腔健康管理)を理由に歯科医院を受診し、しかもその割合は高齢者ほど高まっている。また歯科医院で提供されている歯科医療および保健指導の内容からみて、わが国の歯科医療の提供は、超高齢社会のニーズに対応した予防的歯科医療に転換しつつある。これをさらに進めるためにはエビデンスの基づいてその阻害要因の低減と促進要因の推進を図ることが必要である。
2. 現状における歯科医療の健康増進効果は、初診時の歯数が多く、歯周組織の健康状態がよく、また定期歯科受診者ほど、がん、糖尿病、心臓病をはじめとするNCDsの発症と主観的健康状態の悪化が予防できることが示された。すなわち、歯科医療が健康寿命の延伸に向けた全身疾患の疾病予防・重症化予防に貢献できることが確認できた。また、定期歯科健診受診による歯の喪失予防効果

についても明らかとなった。今後も継続して歯科医療の社会保障制度の安定のための健康増進効果について精緻な分析を行うと共に、医療経済効果について検討する必要がある。

3. 今回の分析結果では、歯科疾患の予防による歯数の保持および定期歯科健診受診要因に、保健指導と歯科衛生士の配置等歯科医療提供体制および主観的経済状態をはじめとする社会経済的要因が関連していることから、国民皆保険制度下における歯・口腔の健康格差および受診行動の格差への対応が必要である。

また、社会経済的要因に基因する健康格差への対応には、歯科公衆衛生アプローチとして地域と歯科医療が連携した歯科疾患・歯の喪失予防および口腔機能の維持向上と、歯科医療提供体制構築の推進を通じた個人の予防・健康づくりを支援する健康増進・健康創造型の歯科医療提供の転換が求められる。それに合わせて、エビデンスに基づき歯科疾患のリスク因子の中に全身疾患を位置づける等、歯科医療機関における保健指導の充実を図るための体制整備と医科歯科連携を双方向で推進でき、社会経済的要因による歯科医療へのアクセスの阻害要因を低減できる保険医療制度が必要である。

4. 質が高く効率的な歯科医療提供は、国民の QOL 向上と健康の保持増進に必須であると共に、社会保障制度の強化と安定に寄与する。このような歯科医療提供体制を促進するためには、ビッグデータ等リアルワールドデータと大規模追跡調査によるエビデンスに基づく政策提言が求められる。そのための体制整備として歯科医療提供のモニタリングおよびサーベイランスのためのデータベースの構築と歯科疾患の予防および重症化予防のためのコントロールセンターの設立(仮称 DCDC: Dental Center for disease prevention and control)を目指す必要がある。今回の分析では、歯科患者と一般地域住民の調査では、全身の健康状態に大きな差異が認められなかったことから、歯科患者調査による歯科医療の効果を歯科公衆衛生の観点から地域レベルで検討することも可能である。
5. 本研究事業で得られた 12,000 名規模のベースラインデータとその後 5 年間にわたる追跡調査で得られたデータベースは今後も国民の健康増進を図る上でその利用価値は高く、継続した本データベースの活用と分析が必要である。また、健康寿命の延伸と社会保障制度の安定のための歯科医療の効果を示す上で、今般のコロナ禍などの健康危機をはじめとする環境変化に応じた追加の追跡調査を必要に応じて実施する必要がある。

## VI. 参考文献

1. 厚生労働省. 平成 28 年国民健康・栄養調査報告書.
2. 相田潤, 深井稜博, 古田美智子, 佐藤遊洋, 嶋崎義浩, ほか: 歯科医院への定期健診はどのような人が受けているのか: 受診の健康格差: 8020 推進財団「一般地域住民を対象とした歯・口腔の健康に関する調査研究」口腔衛生学会雑誌 67:270-5, 2017.
3. 厚生労働省. 平成 28 年歯科疾患実態調査.
4. Fukai K: Oral Health for Achieving Healthy Longevity in an Aging Society: evidence and policy. *Int J Oral Health*. 13:52-7, 2017.
5. Saito M, Shimazaki Y, Fukai K, Furuta M, Aida J, Ando Y, Miyazaki H, Kambara M. Risk factors for tooth loss in adult Japanese dental patients: The 8020 Promotion Foundation Study. *J Investig Clin Dent*. 10: e12392, 2019.
6. Saito M, Shimazaki Y, Fukai K, Furuta M, Aida J, Ando Y, Miyazaki H, Kambara M. A multilevel analysis of the importance of oral health instructions for preventing tooth loss: The 8020 Promotion Foundation Study of Japanese Dental Patients. *BMC Oral Health*, in press.
7. Furuta M, Fukai K, Aida J, Shimazaki Y, Ando Y, Miyazaki H, Kambara M, Yamashita Y. Periodontal condition and systemic health in periodontal patients regularly visiting dental clinics: The 8020 Promotion Foundation Study of Japanese Dental Patients. *J Oral Sci*, 61: 238-245, 2019.

## 研究成果報告一覧

### 【総説・論文】

1. Saito M, Shimazaki Y, Fukai K, Furuta M, Aida J, Ando Y, Miyazaki H, Kambara M. A multilevel analysis of the importance of oral health instructions for preventing tooth loss: The 8020 Promotion Foundation Study of Japanese Dental Patients. BMC Oral Health, in press.
2. Saito M, Shimazaki Y, Fukai K, Furuta M, Aida J, Ando Y, Miyazaki H, Kanbara M. Risk Factors for Tooth Loss in Adult Japanese Dental Patients: The 8020 Promotion Foundation Study. Journal of Investigate and Clinical Dentistry, 10: e12392, 2019.
3. Furuta M, Fukai K, Aida J, Shimazaki Y, Ando Y, Miyazaki H, Kambara M, Yamashita Y. Periodontal condition and systemic health in periodontal patients regularly visiting dental clinics: The 8020 Promotion Foundation Study of Japanese Dental Patients. Journal of Oral Science, 61: 238-245, 2019.
4. 深井稜博, 古田美智子, 相田 潤, 嶋崎義浩, 安藤雄一, 宮崎秀夫, 神原正樹, 小林隆太郎, 住友雅人, 山科 透, 大久保満男, 佐藤 徹, 高野直久, 佐藤 保: 歯科患者の口腔保健状態と全身の健康状態との関連 -8020 推進財団 歯科医療による健康増進効果に関する研究 (3年間追跡調査) -. 日本歯科医学会誌,38: 84-93, 2019.
5. 皆川久美子, 葭原明弘, 佐藤美寿々, 深井稜博, 安藤雄一, 嶋崎義浩, 古田美智子, 相田 潤, 神原正樹, 宮崎秀夫: 一般地域住民における主観的な歯や歯肉の健康状態と全身健康状態の関連 : 8020推進財団「一般地域住民を対象とした歯・口腔の健康に関する調査研究」より. 口腔衛生学会雑誌, 68: 198-206, 2018.
6. 深井稜博, 嶋崎義浩, 古田美智子, 相田 潤, 安藤雄一, 宮崎秀夫, 神原正樹, 住友雅人, 山科透, 大久保満男, 佐藤 徹, 高野直久, 佐藤 保: 歯科患者の口腔保健状態と全身の健康状態との関連 -8020 推進財団 歯科医療による健康増進効果に関する研究 (2年間追跡調査) -. 日本歯科医学会誌,37: 63-72, 2018.
7. 深井稜博, 古田美智子, 嶋崎義浩, 相田 潤, 安藤雄一, 宮崎秀夫, 神原正樹, 住友雅人, 山科透, 佐藤 徹, 佐藤 保, 堀 憲郎: 一般地域住民を対象とした歯・口腔の健康に関する調査研究 一般地域住民の口腔および全身の健康 8020 推進財団 歯科医療による健康増進効果に関する研究. 日本歯科医学会誌, 36: 62-73,2017.
8. 嶋崎義浩: 歯科医療による健康増進効果に関する調査研究. 8020: はち・まる・にい・まる, 16, 111-115, 2017.
9. 相田 潤, 深井稜博, 古田美智子, 佐藤遊洋, 嶋崎義浩, 安藤雄一, 宮崎秀夫, 神原正樹: 歯科医院への定期健診はどのような人が受けているのか 受診の健康格差 8020 推進財団「一般地域住民を対象とした歯・口腔の健康に関する調査研究」. 口腔衛生学会雑誌, 67: 270-275, 2017.3
10. 深井稜博, 古田美智子, 相田 潤, 嶋崎義浩, 安藤雄一, 宮崎秀夫, 神原正樹, 住友雅人, 佐藤徹, 山科 透, 大久保満男 : 歯科患者の口腔内状態および全身の健康状態 8020 推進財団 歯科医療による健康増進効果に関する研究. 日本歯科医学会誌, 35: 39-50, 2016.

11. 古田美智子: 歯科医療による健康増進効果に関する調査研究事業. 8020: はち・まる・にい・まる, 15: 106-110, 2016.
12. 深井穫博: 8020 推進財団がいま進めていること 歯科医療の健康増進効果に関する調査研究事業. 8020: はち・まる・にい・まる, 14: 98-101, 2015.

#### 【学会発表】

1. Fukai K, Shimazaki Y, Furuta M, Aida J, Ando Y, Miyazaki H, Kambara M. Oral Health and General Health in Japanese Patients: 2-year Cohort 96<sup>TH</sup> General Session & Exhibition of the IADR (London), 2018. 7. 25.
2. 星野剛志, 皆川久美子, 葭原明弘, 深井穫博, 安藤雄一, 嶋崎義浩, 神原正樹, 宮崎秀夫: 主観的評価による現在歯数調査の妥当性について. 第 29 回甲信越北陸口腔保健研究会総会・学術大会 (福井), 2018.7.21
3. 市川 優, 皆川久美子, 葭原明弘, 深井穫博, 安藤雄一, 嶋崎義浩, 神原正樹, 宮崎秀夫: 歯科受診者における受診理由と主観的全身健康観の関連. 第 29 回甲信越北陸口腔保健研究会総会・学術大会 (福井), 2018.7.21
4. 相田 潤, 古田美智子, 嶋崎義浩, 安藤雄一, 宮崎秀夫, 神原正樹, 深井穫博: 歯肉出血と主観的健康感の固定効果分析. 第 67 回日本口腔衛生学会・総会 (札幌), 2018.5.20
5. 齋藤瑞季, 嶋崎義浩, 深井穫博, 古田美智子, 相田 潤, 安藤雄一, 宮崎秀夫, 神原正樹: 歯科受診患者における歯の喪失に関わる要因についての検討. 第 67 回日本口腔衛生学会・総会 (札幌), 2018.5.20
6. 皆川久美子, 葭原明弘, 佐藤美寿々, 深井穫博, 安藤雄一, 嶋崎義浩, 古田美智子, 相田 潤, 神原正樹, 宮崎秀夫: セルフレポートによる歯周病有病者の検出についての検討. 第 67 回日本口腔衛生学会・総会 (札幌), 2018.5.19
7. 皆川久美子, 葭原明弘, 佐藤美寿々, 深井穫博, 安藤雄一, 嶋崎義浩, 古田美智子, 相田 潤, 神原正樹, 宮崎秀夫: 一般地域住民における主観的口腔健康状態と全身健康状態の関連. 第 28 回甲信越北陸口腔保健研究会 (新潟), 2017.7.29
8. 深井穫博, 安藤雄一, 嶋崎義浩, 古田美智子, 相田 潤, 宮崎秀夫, 神原正樹: 歯科患者の咀嚼習慣と歯・口腔の健康状態との関連. 第 66 回日本口腔衛生学会・総会 (山形), 2017.6.2
9. 嶋崎義浩, 深井穫博, 古田美智子, 相田 潤, 安藤雄一, 宮崎秀夫, 神原正樹: 歯科医院受診患者における就業形態と歯数との関連. 第 66 回日本口腔衛生学会・総会 (山形), 2017.6.2
10. 古田美智子, 深井穫博, 相田 潤, 嶋崎義浩, 安藤雄一, 宮崎秀夫, 神原正樹, 山下喜久: 歯科医院の定期受診患者における歯周組織状態に関与する全身の健康状態の検討. 第 66 回日本口腔衛生学会・総会 (山形), 2017.6.2
11. 安藤雄一, 古田美智子, 深井穫博, 相田 潤, 嶋崎義浩, 宮崎秀夫, 神原正樹: 歯科患者集団の口腔を含めた健康状態と保健行動 地域住民集団との比較. 第 66 回日本口腔衛生学会・総会 (山形), 2017.6.2



【年次報告書：8020 推進財団健康増進効果に関する報告書】

1. 公益財団法人 8020 推進財団. 平成 26 年度調査研究事業 「歯科医療による健康増進効果に関する調査研究」報告書, 2015 年 6 月  
[https://www.8020zaidan.or.jp/images/about/pdf\\_list/zoushinkouka.pdf](https://www.8020zaidan.or.jp/images/about/pdf_list/zoushinkouka.pdf)
2. 公益財団法人 8020 推進財団. 平成 27 年度調査研究事業 「一般地域住民を対象とした歯・口腔の健康 に関する調査研究」報告書, 2016 年 6 月  
[https://www.8020zaidan.or.jp/images/about/pdf\\_list/h27\\_Residents\\_Survey\\_Report.pdf](https://www.8020zaidan.or.jp/images/about/pdf_list/h27_Residents_Survey_Report.pdf)
3. 公益財団法人 8020 推進財団. 平成 27 年度調査研究事業 「歯科医療による健康増進効果に関する調査研究」平成 26 年・27 年ベースラインデータ集計結果 報告書, 2016 年 6 月  
[https://www.8020zaidan.or.jp/images/about/pdf\\_list/h27\\_Dentistry\\_Enhancement\\_Effect\\_baceline\\_data.pdf](https://www.8020zaidan.or.jp/images/about/pdf_list/h27_Dentistry_Enhancement_Effect_baceline_data.pdf)
4. 公益財団法人 8020 推進財団. 平成 27 年度調査研究事業 「歯科医療による健康増進効果に関する調査研究」第 1 回追跡調査 報告書, 2016 年 6 月  
[https://www.8020zaidan.or.jp/images/about/pdf\\_list/h27\\_Dentistry\\_Enhancement\\_Effect\\_vol1.pdf](https://www.8020zaidan.or.jp/images/about/pdf_list/h27_Dentistry_Enhancement_Effect_vol1.pdf)
5. 公益財団法人 8020 推進財団. 平成 28 年度調査研究事業 「歯科医療による健康増進効果に関する調査研究」第 2 回追跡調査 報告書, 2017 年 6 月  
[https://www.8020zaidan.or.jp/images/about/pdf\\_list/pdf/h28\\_Dentistry\\_Enhancement\\_Effect\\_vol2.pdf](https://www.8020zaidan.or.jp/images/about/pdf_list/pdf/h28_Dentistry_Enhancement_Effect_vol2.pdf)
6. 公益財団法人 8020 推進財団. 平成 29 年度調査研究事業 「歯科医療による健康増進効果に関する調査研究」第 3 回追跡調査 報告書, 2018 年 6 月  
[https://www.8020zaidan.or.jp/images/about/pdf\\_list/h29\\_Dentistry\\_Enhancement\\_Effect\\_vol3.pdf](https://www.8020zaidan.or.jp/images/about/pdf_list/h29_Dentistry_Enhancement_Effect_vol3.pdf)
7. 公益財団法人 8020 推進財団. 平成 30 年度調査研究事業 「歯科医療による健康増進効果に関する調査研究」第 4 回追跡調査 報告書, 2019 年 6 月  
[https://www.8020zaidan.or.jp/pdf/h30\\_Dentistry\\_Enhancement\\_Effect\\_vol4.pdf](https://www.8020zaidan.or.jp/pdf/h30_Dentistry_Enhancement_Effect_vol4.pdf)
8. 公益財団法人 8020 推進財団. 令和元年度調査研究事業 「歯科医療による健康増進効果に関する調査研究」第 5 回追跡調査 報告書, 2020 年 6 月

## 委員一覽

### 役員

#### 2014 年度

大久保満男 8020 推進財団 理事長 (研究代表者)  
山科 透 8020 推進財団 副理事長  
深井 稜博 8020 推進財団 専務理事 (研究責任者)  
佐藤 徹 8020 推進財団 常務理事

#### 2015～2016 年度

堀 憲郎 8020 推進財団理事長  
佐藤 保 8020 推進財団副理事長  
深井 稜博 8020 推進財団専務理事 (研究責任者)  
佐藤 徹 8020 推進財団理事  
山科 透 8020 推進財団前理事長

#### 2017 年～2018 年度

高野 直久 8020 推進財団専務理事  
深井 稜博 8020 推進財団理事 (研究責任者)  
恒石美登里 8020 推進財団理事

#### 2019 年度

蓮池 芳浩 8020 推進財団専務理事  
高野 直久 8020 推進財団前専務理事  
恒石美登里 8020 推進財団理事

#### 調査研究事業検討会 委員 (2014～2019 年度)

深井 稜博 深井保健科学研究所所長 (研究責任者)  
神原 正樹 大阪歯科大学名誉教授  
宮崎 秀夫 明倫短期大学学長  
安藤 雄一 国立保健医療科学院統括研究官  
嶋崎 義浩 愛知学院大学歯学部口腔衛生学講座教授  
相田 潤 東京医科歯科大学健康推進歯学分野教授・東北大学大学院歯学研究科教授  
古田美智子 九州大学大学院歯学研究院口腔予防医学分野講師  
住友 雅人 日本歯科医学会会長 (2014～2016 年)  
小林隆太郎 日本歯科大学附属病院口腔外科教授 (2017～2019 年)

## 協力歯科医療機関一覧

調査協力歯科医療機関(市区町村名 歯科医療機関名 協力者名、敬称略)

### 【北海道】

札幌市中央区 育生歯科 金井義明；札幌市厚別区 こどもクリニック 松崎弘明；札幌市北区 ピープル歯科 田西亨；札幌市白石区 おおもり歯科 大森幹朗；旭川市 ヨシダ歯科 吉田裕一；雨竜郡妹背牛町 定岡歯科医院 定岡雅則；小樽市 上浦歯科クリニック 上浦庸司；常呂郡佐呂間町 やつ歯科医院 谷津匡規；河東郡音更町 なめき歯科医院 行木隼人；室蘭市 御前水歯科クリニック 岩川直義；釧路市 阿寒歯科診療所 大澤正幸；寿都郡黒松内町 ぶなの森レインボー歯科クリニック 茂尾公晴；苫前郡苫前町 古丹別歯科診療所 伊藤修；稚内市 パパスデンタルオフィス 竹田吉寿；美唄市 たかはし歯科医院 高橋典弘；新冠郡新冠町 新冠ファミリー歯科医院 岡昌司；江別市 そのまち歯科 佐藤明理；茅部郡鹿部町 岩井歯科医院 岩井宏之；登別市 なかがわ歯科医院 仲川弘誓；帯広市 長瀬歯科クリニック 長瀬隆之；夕張郡由仁町 しみず歯科医院 清水学；小樽市錦町 かとう歯科医院 加藤友一；釧路市 富本歯科クリニック 富本幹弘；苫小牧市 あがた歯科 縣潔；赤平市 赤平ファミリー歯科 阿部浩保；古宇郡神恵内村 神恵内村歯科診療所 萩野司

### 【青森県】

青森市 山口歯科医院 山口勝弘；三戸郡南部町 宮沢歯科医院 宮澤誠；弘前市 駅前歯科クリニック 佐藤孝雄；青森市 佐藤歯科医院 佐藤蔵人；青森市 奥野ミナトヤ歯科医院 湊谷浩；弘前市 波多野歯科医院 波多野潤一；青森市 長内歯科医院 長内幸一；八戸市 柏崎歯科医院 柏崎秀一；つがる市 福士歯科医院 福士賢治；むつ市 高瀬歯科医院 高瀬厚太郎；弘前市 大手門歯科 波多野厚緑；十和田市 村上歯科クリニック 村上淳一；八戸市 岩崎歯科クリニック 岩崎浩二郎；五所川原市 小林歯科クリニック 小林克徳；五所川原市 アップル歯科医院 木村匡孝；平川市 清藤歯科平賀医院 清藤浩也；三戸郡五戸町 山口歯科医院 山口登；青森市 やまうち歯科医院 山内博；上北郡野辺地町 かくたま歯科医院 伊藤真；青森市 石江ミナトヤ歯科医院 湊谷勤；弘前市 明本歯科医院 明本康伸；八戸市 滝沢・北村歯科医院 北村靖；黒石市 アップル歯科医院 野呂剛；五所川原市 高満歯科医院 高満幸宜；つがる市 柏ミナトヤ歯科医院 大戸勲；下北郡東通村 あらまき歯科医院 荒蒔正邦；三沢市 なみおか歯科医院 濤岡一司；三戸郡三戸町 ひまわり歯科医院 橋本泰乃；青森市 つくだ歯科 田村文人；八戸市 あこう歯科医院 赤穂和広

### 【岩手県】

奥州市 奥州市国保衣川歯科診療所 佐々木勝忠；宮古市 久保歯科医院 久保宮幸；岩手郡岩手町 村木歯科クリニック 村木崇；盛岡市 駅西通り おばら歯科医院 小原賢一；盛岡市 小守林歯科医院 中谷寛之；釜石市 ささき歯科クリニック 佐々木直光；遠野市 遠野市国保宮守歯科診療所 深澤範子；花巻市 宮川歯科クリニック 宮川和亮；北上市 さくらデンタルクリニック 昆隆一；奥州市 なかじま歯科クリニック 中島浩；一関市 村上歯科クリニック 村上哲；大船渡市 大船渡市国保歯科診療所 熊谷優志；久慈市 おおさわ歯科クリニック 大澤輝見子；盛岡市 よしき歯科クリニック 遠藤義樹；盛岡市 くどう歯科クリニック 工藤淳一；八幡平市 一戸歯科クリニック 一戸晃；盛岡市 岩淵歯科医院 豊田康夫；宮古市 橋本デンタルオフィス 橋本佳樹

## 【宮城県】

仙台市宮城野区 佐々木歯科医院 佐々木英夫；仙台市青葉区 子平町歯科医院 田中善実；仙台市宮城野区 郷家第一歯科医院 郷家智春；仙台市青葉区 旭ヶ丘歯科クリニック 渡辺正宣；仙台市青葉区 ヨシノデンタルクリニック 吉野英司；仙台市泉区 虹の丘デンタルクリニック 高橋直樹；仙台市太白区 斎藤歯科医院 齋藤義廣；仙台市太白区 日本平歯科医院 鈴木宏明；仙台市若林区 郷家第二歯科 郷家道彦；仙台市若林区 薬師堂歯科 笠原紳；黒川郡 大和町 佐藤歯科医院 佐藤真奈美；仙台市太白区 八木山歯科 駒井伸也；仙台市青葉区 山田歯科医院 山田真；仙台市青葉区 駒形歯科医院 駒形守俊；仙台市若林区 ひらた歯科クリニック 平田政嗣；仙台市太白区 新沼歯科医院 新沼康弘；多賀城市 歯科・アイザワデンタル 相澤俊彦；宮城郡七ヶ浜町 かわぐち歯科医院 川口剛；名取市 清水歯科医院 清水俊克；岩沼市 小島歯科医院 小島一夫；柴田郡大河原町 スエヒロデンタルクリニック 武者昌洋；白石市 亙理歯科医院 亙理滋；伊具郡丸森町 目黒歯科クリニック 目黒一美；石巻市 三宅歯科医院 三宅宏之；石巻市 阿部歯科医院 阿部清一郎；遠田郡涌谷町 戸田歯科医院 戸田慎治；大崎市 千葉歯科医院 千葉昌一；登米市 おおさか歯科医院 大坂博伸；栗原市 くりこまデンタルクリニック 下西充；気仙沼市 大谷仮設歯科診療所 芳沢隆

## 【秋田県】

秋田市 TAKU歯科クリニック 佐藤拓；秋田市 杉山歯科クリニック 杉山洋行；秋田市 玉木歯科医院 玉木克弥；能代市 みどり歯科医院 佐藤勤一；能代市 わかオーラルヘルスケアクリニック 大塚和歌子；山本郡八峰町 八峰町営歯科診療所 大江若葉；横手市 ささき歯科医院 佐々木徹；横手市 小川歯科医院 小川欽也；横手市 高橋歯科医院 高橋陽一；大館市 小笠原歯科医院 小笠原正卓；大館市 ながはしデンタルクリニック 長橋泰次；大館市 佐藤歯科桂城診療所 佐藤正文；由利本荘市 五味デンタルクリニック 五味明雄；由利本荘市 あいば歯科クリニック 相庭慎太郎；にかほ市 すずき歯科医院 鈴木直之；大仙市 こまい歯科医院 駒井茂；大仙市 高橋歯科医院 高橋武道；仙北郡美郷町 富永歯科医院 富永義樹；雄勝郡羽後町 志水歯科医院 勝部朝之；雄勝郡羽後町 にしもないながさわ歯科医院 長澤大；湯沢市 湯沢歯科クリニック 高橋克彦；南秋田郡五城目町 わしや歯科医院 鷺谷一晴；潟上市 石井歯科クリニック 石井秀彦；男鹿市 小西歯科医院 小西一峰；鹿角市 昆歯科医院 昆博巳；鹿角市 あんどう歯科医院 安藤克之；鹿角市 八幡歯科医院 八幡真司；横手市 赤沢歯科医院 赤沢茂樹；横手市 十文字歯科クリニック 佐藤元信；横手市 松野歯科医院 松野才

## 【山形県】

山形市 峯田歯科医院 峯田雅裕；山形市 小林歯科医院 小林伸之；山形市 さなだ歯科クリニック 眞田幸英；山形市 坂田歯科医院 坂田謙；山形市 沼木大沼歯科医院 大沼典男；山形市 タクヤデンタルクリニック 佐々木琢哉；山形市 大沼歯科医院 大沼智之；上市市 ごとう歯科医院 後藤顕一；東村山郡中山町 しぶや歯科医院 澁谷昌；天童市 柴崎歯科 井若順子；寒河江市 国井デンタルクリニック 国井亮太郎；西村山郡河北町 ひなデンタルクリニック 鈴木守雄；東根市 あべ歯科医院 阿部正宏；東根市 佐藤歯科医院ラ・フランスオフィス 佐藤勝史；最上郡真室川町 真室歯科医院 真室司；最上郡金山町 しばた歯科医院 柴田康之；鶴岡市 五十嵐歯科医院 五十嵐靖；鶴岡市 サトウシカ 中村公俊；鶴岡市 長岡歯科クリニック 長岡真一；鶴岡市 さいとう歯科医院 齋藤知也；酒田市 佐々木歯科医院 佐々木正晃；酒田市 新橋歯科医院 菅原博幸；酒田市 五十嵐歯科医院 五十嵐亮；米沢市 村山歯科医院 村山敏明；米沢市 米沢ファミリー歯科・矯正歯科 大峽潤；米沢市 レインボー歯科医院 安藤栄吾；南陽市 佐藤歯科クリニック 佐藤幸晴；南陽市 いとう歯科クリニック 伊藤純一；長井市 村上歯科クリニック 村上聡；長井市 松下

歯科医院 松下賢

## 【福島県】

伊達市 ファミリー歯科クリニック 田原充；福島市 けやき歯科医院 内藤秀明；二本松市 伊藤歯科医院 伊藤修一；二本松市 ほんだ歯科クリニック 本田祐樹；郡山市 高原歯科クリニック 高原一雄；郡山市 安積保養園附属あさかホスピタル 半澤淳一；郡山市 脳神経疾患研究所附属南東北医療クリニック 渡部光弘；須賀川市 森宿歯科医院 佐藤克典；須賀川市 松井歯科医院 松井孝俊；須賀川市 ライフ デンタル オフィス 本内秀明；白河市 まるやま歯科医院 丸山武彦；西白河郡泉崎村 本柳歯科医院 本柳智樹；石川郡平田村 中井歯科医院 中井重彰；東白川郡棚倉町 中島歯科クリニック 中島徹；田村郡三春町 小山歯科医院 小山伸一；田村郡三春町 桜ヶ丘歯科クリニック 廣橋聡；いわき市 スズキ歯科 鈴木崇夫；いわき市 鈴木歯科小児歯科医院 鈴木広幸；いわき市 マノメデンタルクリニック 馬目雅徳；相馬市 大井歯科医院 大井通彰；相馬市 菅野歯科医院 菅野裕司；南相馬市 すずむ歯科医院 佐藤進；福島市 こわた歯科医院 木幡瑞秋；いわき市 にしはら歯科クリニック 西原一成；会津若松市 おんだ歯科医院 恩田圭基；南会津郡南会津町 なかむら歯科医院 中村文彦；喜多方市 さいとう歯科クリニック 齋藤公英；喜多方市 福田歯科医院 福田洋治

## 【茨城県】

杉田歯科医院 杉田裕一；つくば市 つるみ歯科医院 鶴見尚史；笠間市 かさま歯科 今湊良証；神栖市 和歯科医院 安藤和成；かすみがうら市 あいざわ歯科医院 會澤臣；常総市 中妻歯科医院 白澤光二；猿島郡境町 なかい歯科クリニック 中井巳智代；水戸市 米川歯科医院 米川久；久慈郡大子町 すずき歯科医院 鈴木正美；土浦市 海老原歯科医院 海老原康晴；つくば市 吉田歯科クリニック 吉田勝幸；結城郡八千代町 ひまわり歯科医院 小田島卓也；日立市 北見歯科医院 北見英理；鉾田市 柳沢歯科医院 柳沢秀樹；常陸太田市 寺門歯科医院 寺門史郎；水戸市 フカヤ歯科クリニック 深谷聖；笠間市 太田歯科医院 太田一三；かすみがうら市 ひかり歯科医院 土屋雄一；結城市 かいだ歯科医院 戒田敏之；古河市 みなみ歯科医院 佐藤淑朗

## 【栃木県】

芳賀郡益子町 宮下歯科医院 宮下均；小山市 田村歯科医院 田村一夫；小山市 角田歯科医院 角田國義；鹿沼市 川入歯科医院 瓦井昭二；栃木市 入野歯科医院 入野光市；真岡市 関歯科医院 関謙一；宇都宮市 川津歯科医院 川津博亨；日光市 こばやし歯科医院 小林幸雄；矢板市 印南歯科医院 印南等；宇都宮市 箱島歯科医院 箱島光一；足利市 真尾歯科医院 真尾達哉；那須烏山市 石川歯科医院 石川秀忠；栃木市 植原歯科医院 植原雅章；宇都宮市 大野歯科医院 大野克夫；那須塩原市 矢島歯科医院 矢島俊助；佐野市 塩野谷歯科医院 塩野谷敏裕；宇都宮市 加々美歯科医院 加々美隆；足利市 鶴貝歯科医院 鶴貝隆男；宇都宮市 長谷川歯科医院 長谷川英一；宇都宮市 いがらし歯科医院 五十嵐三彦；鹿沼市 星デンタルクリニック 星雅朗；日光市 吉原歯科医院 矯正歯科 吉原英明；栃木市 小林歯科医院 小林克則；下野市 おさの歯科医院 小佐野みゆき；佐野市 おおしま歯科医院 大島基嗣；足利市 かたばみ歯科医院 方波見正則；真岡市 しぶや歯科クリニック 渋谷光子；塩谷郡塩谷町 斎藤歯科医院 斎藤邦浩；那須塩原市 渡邊歯科医院 渡邊政雄；那須烏山市 岡林歯科医院 岡林昌彦

## 【群馬県】

前橋市 つつみ歯科医院 堤弘明；前橋市 須田歯科医院 村上芳弘；高崎市 城南大橋歯科クリニック 児島伸也；高

崎市 もんや歯科クリニック 紋谷光徳； 桐生市 飯野歯科医院 飯野隆司； 伊勢崎市 えんぜる歯科クリニック 飯島広； 伊勢崎市 矢島歯科クリニック 矢島訓好； 多野郡神流町 神流町歯科診療所 谷越康洋； 藤岡市 ほりぐち歯科医院 堀口浩一； 甘楽郡甘楽町 ふくしま町歯科クリニック 齊藤修一； 富岡市 黒沢歯科クリニック 黒澤良介； 安中市 かばさわ歯科医院 樺沢一洋； 安中市 井上歯科医院 井上太郎； 吾妻郡中之条町 齋木歯科医院 齋木一也； 吾妻郡嬭恋村 びさいじデンタルクリニック 美才治大輔； 沼田市 パール歯科クリニック 割田礼子； 利根郡みなかみ町 ファミリー歯科医院 佐藤ひろみ； 館林市 とみた歯科 富田直也； 館林市 あいば歯科 合場光男； 伊勢崎市 神戸歯科医院 神戸千恵； 沼田市 浅沼歯科医院 浅沼美香； 佐波郡玉村町 アイリデンタルクリニック 田村京美； みどり市 松本歯科医院 松本堅志郎； 高崎市 脇田デンタルクリニック 脇田智晴； 前橋市 なかざと歯科医院 中里隆之

## 【埼玉県】

三郷市 深井歯科医院 深井稜博； 川口市 三木歯科医院 三木昭代； 深谷市 藤野歯科医院 藤野悦男； 東松山市 すがぬま歯科医院 菅沼慎一郎； 富士見市 社団大渡歯科 大渡廣信； 吉川市 戸張歯科クリニック 戸張英男； 新座市 でうら歯科医院 出浦恵子； さいたま市大宮区 岸本歯科医院 岸本康三； 熊谷市 小沼歯科医院 小沼孝行； 川口市 金谷歯科クリニック 金谷日出夫； 行田市 大澤歯科医院 大澤健祐； 春日部市 まさえ歯科クリニック 河田正江； 本庄市 竹内歯科医院 竹内靖； 三郷市 小林歯科医院 小林智明； 飯能市 大野デンタルクリニック 大野康； 所沢市 さくら歯科 北原俊彦； 越谷市 河野歯科医院 河野隆之； 秩父市 倉林歯科クリニック 倉利明； 川越市 望月歯科医院 望月司； さいたま市浦和区 小宮山歯科医院 小宮山和正； 上尾市 まさみ歯科医院 榎本昌己； 朝霞市 朝霞歯科医院 田中入； さいたま市浦和区 奥村歯科医院 奥村元彦； 羽生市 萩原歯科医院 萩原勝雄； 朝霞市 川端歯科医院 川端啓義； 本庄市 中林歯科 中林靖雄； 幸手市 みつば歯科エムズタウン幸手 丸山真司； 春日部市 石田歯科クリニック 石田礼子； 春日部市 とうま歯科医院 当間裕

## 【千葉県】

千葉市中央区 愛保歯科医院 宍倉邦明； 千葉市若葉区 松浦歯科医院 松浦基一； 千葉市若葉区 池田歯科医院 池田秀男； 千葉市稲毛区 小代歯科医院 小代基昭； 千葉市中央区 浜野歯科 浜野勝巳； 千葉市美浜区 秋山歯科医院 秋山行弘； 千葉市中央区 阿左見歯科医院 阿左見葉子； 千葉市中央区 新井歯科クリニック 新井康仁； 習志野市 齊藤歯科医院 齋藤英生； 習志野市 マモル歯科医院 齋藤守； 習志野市 わたなべ歯科医院 渡邊洋次； 鎌ヶ谷市 木下歯科医院 木下善隆； 船橋市 くちかた歯科医院 朽方直人； 船橋市 小宮歯科医院 小宮あゆみ； 船橋市 くぼき歯科クリニック 久保木由紀也； 市川市 杉山デンタルクリニック 杉山茂夫； 市川市 あいしん歯科クリニック 竹川文弘； 野田市 渡辺デンタルクリニック 渡邊昭； 富里市 内田歯科医院 内田啓二； 八街市 木俣歯科医院 木俣茂； 佐倉市 栗原歯科医院 栗原正彦； 四街道市 松田歯科医院 松田一郎； 市川市 K歯科クリニック 小林則之； 千葉市稲毛区 馬場歯科医院 馬場俊郎； 東金市 勝田歯科医院 勝田康晴； 茂原市 秋場歯科医院 秋場透； 長生郡長南町 西歯科医院 毛取健至； 君津市 あきら歯科クリニック 高橋晃； 館山市 やまわき歯科医院 山脇健史； 柏市 大河原歯科クリニック 大河原伸浩

## 【東京都】

調布市 澤歯科医院 澤悦夫； 港区 立花デンタルクリニック 立花智子； 立川市 山本歯科医院 山本秀樹； 港区 長井歯科診療所 長井博昭； 文京区 山口歯科医院 山口学； 葛飾区 原田歯科医院 原田昇； 調布市 山根歯科医院 山根秀樹； 墨田区 おかやす歯科医院 岡安輝明； 目黒区 石原歯科クリニック 石原智彦； 中央区 歯科渋井クリニック

渋井賢太郎；文京区 平井歯科医院 平井基之；杉並区 ハタテ歯科医院 羽立賢二；世田谷区 岩間歯科室 岩間渉；多摩市 新井歯科医院 新井真澄；日野市 高品歯科医院 高品和哉；立川市 中村歯科医院 中村伸；足立区 高野歯科医院 高野直久

## 【神奈川県】

横浜市中区 有馬歯科医院 有馬敬二；横浜西区 戸部歯科医院 杉浦洋二；横浜南区 ナガタ歯科 吉田直人；横浜港南区 田川歯科医院 田川攻；横浜磯子区 齊藤歯科医院 齋藤元昭；横浜金沢区 おおむろ歯科医院 大室博正；横浜市保土ヶ谷区 保土ヶ谷小柳歯科クリニック 小柳弘男；横浜市旭区 永田歯科医院 永田勝彦；横浜市戸塚区 八巻歯科医院 山口里恵；横浜市神奈川区 佐々木歯科 佐々木康一；横浜市港北区 おきくら歯科医院 沖倉喜彰；横浜市緑区 サン歯科医院 岡田春夫；横浜市青葉区 アーバン・プラザ歯科藤尾 藤尾昭；横浜市都筑区 堀元歯科医院 堀元隆司；横浜市鶴見区 獅子ヶ谷歯科医院 鮎澤敬介；川崎市川崎区 井田歯科医院 井田満夫；横須賀市 佐久間歯科医院 佐久間博一；三浦郡葉山町 堀内歯科医院 堀内章；鎌倉市 モモイ歯科医院 百衣啓至；藤沢市 鈴木デンタルクリニック 鈴木聡行；大和市 齊藤歯科クリニック 齊藤憲尚；高座郡寒川町 神部歯科医院 神部哲哉；平塚市 増井歯科医院 増井峰夫；小田原市 柏木歯科医院 柏木勢；厚木市 馬場歯科医院 馬場賢輔；海老名市 チェリー歯科医院 山川晃司；相模原市南区 井上歯科医院 井上俊彦；座間市 白風歯科 小林弘幸；秦野市 さとう歯科医院 佐藤満；足柄上郡大井町 檜山歯科医院 檜山義彦

## 【新潟県】

長岡市 五十嵐歯科医院 五十嵐治；新潟市中央区 松川歯科医院 松川公敏；新発田市 片山歯科医院 片山修；新潟市西蒲区 松崎歯科医院 松崎正樹；柏崎市 井比歯科医院 井比陽；長岡市 山下歯科医院 山下智；燕市 亀倉歯科医院 亀倉陽一；新発田市 稲富歯科医院 稲富道知；新潟市中央区 荒井歯科医院 荒井節男；新潟市中央区 宇佐美歯科医院 宇佐美祐一；加茂市 永井こども歯科医院 永井正志；新潟市西蒲区 さとう歯科医院 佐藤圭一；長岡市 萱中歯科医院 萱中智幸；上越市 佐藤歯科医院 佐藤哲也；新発田市 木戸歯科医院 木戸寿明；小千谷市 佐藤歯科医院 佐藤眞；燕市 高桑歯科医院 高桑雅宣；新潟市中央区 野村歯科医院 野村隆；新潟市東区 なかきど歯科 小川有；佐渡市 渡部歯科医院 渡部守；上越市 加藤歯科クリニック 加藤拓；柏崎市 犬井歯科クリニック 犬井正；長岡市 永井歯科医院 永井正紀；燕市 デンタルクリニックツチヤ 土屋信人；胎内市 有松歯科医院 有松美紀子；新潟市江南区 倉嶋歯科クリニック 倉嶋敏明；柏崎市 山川歯科医院 山川尚人；長岡市 山田歯科医院 山田浩之；三条市 川田歯科・矯正歯科医院 川田毅；新発田市 山崎歯科医院 山崎太亮

## 【富山県】

高岡市 山下歯科クリニック 山下洋之；黒部市 朝日歯科クリニック 朝日丈晴；射水市 岩井歯科医院 岩井健治；富山市 うえだ歯科クリニック 上田和孝；魚津市 奥川歯科医院 奥川裕司；富山市 いなみ歯科クリニック 井波和孝；高岡市 宮田歯科医院 宮田就弘；砺波市 藤の丘歯科医院 藤岡祐紀乃；富山市 吉田歯科医院 吉田尚史；魚津市 谷川歯科医院 谷川文紹；富山市 原田歯科医院 原田修成；南砺市 得能歯科医院 得能昭夫；高岡市 畑歯科医院 畑直宏；富山市 中沼歯科クリニック 中沼邦欣；高岡市 わたなべ歯科医院 渡辺満；高岡市 石多歯科医院 石多謙一；黒部市 清田歯科医院 清田築；富山市 水越歯科医院 水越弘；富山市 本村歯科医院 本村浩；富山市 あさくら歯科医院 朝倉慎一郎；砺波市 田守歯科クリニック 田守徳樹；射水市 わたなべ歯科クリニック 渡辺光生；滑川市 やご歯科医院 野吾昌宏；中新川郡上市町 山本歯科医院 山本尚靖；黒部市 前田歯科クリニック 前田美智

之；富山市 岡本歯科医院 岡本英之；高岡市 桜馬場内科歯科医院 佐伯亮太；砺波市 エントランス歯科 小坂井満；富山市 大城歯科医院 鈴木寧；富山市 柳町岡崎歯科医院 岡崎考亮

## 【石川県】

野々市市 江尻歯科医院 江尻重文；金沢市 わだ歯科クリニック 和田紀久；小松市 山本歯科医院 山本一善；金沢市 たち歯科医院 館恒徳；小松市 あまいわ歯科医院 中谷武治；金沢市 ませ歯科医院 馬瀬慶一朗；羽咋市 なおき歯科クリニック 西多直規；金沢市 山本歯科医院 山本巖；小松市 もとむら歯科医院 本村欣也；加賀市 土田歯科医院 土田清人；能美市 山上歯科医院 山上伸一；かほく市 ふたみ歯科医院 二見隆行；白山市 山島台グリーン歯科 横川一郎；七尾市 かぶと歯科医院 甲春夫；羽咋郡宝達志水町 立浦歯科医院 立浦秀丸；輪島市 矢間デンタルクリニック 矢間秀樹；輪島市 いわい歯科クリニック 岩井徳；珠洲市 たかせ歯科医院 高瀬真二；金沢市 小林歯科医院 小林憲一；金沢市 長田歯科医院 長田淳；白山市 たきもと歯科医院 滝本興一；能美郡川北町 村上歯科クリニック 村上圭司；輪島市 松原歯科医院 松原完也；金沢市 さいとう歯科クリニック 齊藤功一；金沢市 くら歯科クリニック 倉広之；金沢市 みのり歯科医院 川原千佳；金沢市 つばさ歯科医院 古瀬大治

## 【福井県】

越前市 山本歯科医院 山本有一郎；大野市 印牧歯科医院 印牧康祐；福井市 近藤歯科医院 近藤貢；あわら市 新家歯科医院 新家信行；吉田郡永平寺町 青木歯科 青木俊昌；敦賀市 たかはし歯科 高橋均；坂井市 城戸歯科医院 城戸雅和；福井市 森本歯科医院 森本一良；福井市 おおのや歯科医院 大野屋雅寛；越前市 宮本歯科クリニック 宮本孝司

## 【山梨県】

甲府市 富士見歯科医院 一瀬秀文；笛吹市 三森歯科 三森幹夫；甲州市 吉田歯科医院 吉田英二；甲府市 しむら歯科 志村隆司；南巨摩郡南部町 桐戸歯科医院 桐戸宏彰；中巨摩郡昭和町 うちだ歯科クリニック 内田喜仁；大月市 佐藤歯科クリニック 佐藤昇；富士吉田市 永島歯科医院 永島元；甲斐市 中込歯科医院 中込和雄；韮崎市 金山歯科医院 金山昇；甲府市 池谷歯科医院 池谷剛；大月市 小泉歯科医院 小泉直也；甲府市 笠井歯科医院 笠井隆司；南都留郡鳴沢村 安富歯科医院 安富和宏；甲府市 花形歯科医院 花形哲夫；笛吹市 境川歯科診療所 古屋修；山梨市 はやかわ歯科医院 早川輝；甲府市 ふじたに歯科医院 藤谷崇人；南巨摩郡富士川町 さの歯科医院 佐野猛；中央市 アートタウン歯科クリニック 今村哲士；都留市 カムカム歯科医院 渡辺正哉；南アルプス市 さくら歯科クリニック 塩谷進；南アルプス市 大森歯科医院 大森一令；北杜市 しみず歯科医院 清水嘉基；甲府市 あいざわ歯科クリニック 相澤八大；甲府市 由井歯科医院 由井悟；西八代郡市川三郷町 アイボリー歯科医院 安居尚美

## 【長野県】

伊那市 池上歯科医院 池上秀樹；松本市 高宮中央歯科 大久保達人；茅野市 清水歯科医院 清水芳幸；中野市 古田歯科医院 古田義博；安曇野市 佐野歯科クリニック 佐野文秀；小諸市 浅川歯科医院 浅川充；長野市 小西歯科医院 小西信浩；上田市 下村歯科医院 下村定資；飯田市 いずみ歯科クリニック 熊谷泉；南佐久郡小海町 にいつ歯科医院 新津恒太；長野市 中村歯科医院 中村勇一；上水内郡飯綱町 田村歯科医院 安野幸成；飯山市 横田歯科医院 横田純；須坂市 板倉歯科医院 板倉正義；中野市 すばる歯科クリニック 古田充博；長野市 柳澤歯科医院 柳澤純；千曲市 前山歯科医院 前山安彦；上田市 ア歯科診療所 大石浩三；小諸市 関歯科クリニック 関博



文；佐久市 木次大介歯科医院 木次大介；松本市 川村歯科クリニック 川村茂樹；木曾郡木曾町 開田高原歯科診療所 安田浩一；塩尻市 伊沢歯科医院 伊沢正彦；安曇野市 アルプス歯科クリニック 堀内隆雄；北安曇郡池田町 竹内歯科医院 竹内宗彦；下伊那郡高森町 しぶさか歯科クリニック 澁坂崇；伊那市 鈴木歯科医院 鈴木弘也；岡谷市 ララ歯科医院 林潤太郎；諏訪市 平林歯科医院 平林右子；茅野市 浅井歯科医院 浅井伸二郎

## 【岐阜県】

美濃加茂市 松村歯科医院 松村康正；大垣市 片野小児歯科 片野雅文；各務原市 小林歯科医院 小林正典；郡上市 俊歯科医院 松本俊廣；不破郡垂井町 にしわき歯科 西脇孝彦；揖斐郡池田町 しまむら歯科クリニック 島村憲優；可児市 西可児歯科医院 野村岳嗣；本巣市 もんじゅ歯科 長瀬好和；岐阜市 河合歯科医院 小川真奈；瑞浪市 ホワイト歯科・矯正歯科 佐々木貴浩；羽島市 はま歯科医院 濱昌代；岐阜市 中村歯科医院 中村雅彦；大垣市 なかの歯科医院 児玉圭二；恵那市 佐々木歯科 佐々木晶浩；岐阜市 本荘歯科医院 萩谷勲信；瑞穂市 サンシャイン M&D クリニック 毛利謙三；可児市 やまむら歯科 山村善治；下呂市 青島歯科医院 青島史尚；土岐市 阿部歯科医院 阿部馨三；大垣市 北村歯科医院 北村浩之；多治見市 ひめ歯科クリニック 伊藤三徳；山県市 おくだ歯科クリニック 奥田孝；高山市 おおのま歯科クリニック 大埜間勉；安八郡安八町 しらき歯科クリニック 白木完治；美濃加茂市 加藤歯科医院 加藤雄一；本巣郡北方町 五明歯科クリニック 五明岳彦；岐阜市 竹村歯科医院 竹村安史；揖斐郡池田町 羽田歯科医院 羽田和彦；美濃加茂市 酒向歯科医院 酒向秀明

## 【静岡県】

牧之原市 山本歯科医院 山本繁；裾野市 スマイル歯科医院 勝又嘉治；沼津市 町田歯科クリニック 町田太郎；静岡市葵区 わかば歯科クリニック 小木曾行恭；牧之原市 辻歯科医院 辻克典；掛川市 横井歯科医院 横井雅；浜松市北区 森歯科医院 森俊大；湖西市 山村歯科医院 山村孝夫；伊豆の国市 西島歯科クリニック 西島宗宏；沼津市 池田歯科医院 池田康男；島田市 とも歯科医院 太田良智武；浜松市東区 朝比奈歯科医院 朝比奈尚之；三島市 高木歯科医院 高木靖夫；静岡市清水区 河野歯科医院 河野重記；静岡市葵区 いいやま歯科 飯山啓太郎；焼津市 永田歯科医院 永田喜彦；御前崎市 さくらい歯科医院 櫻井剛史；磐田市 宇於崎歯科医院 宇於崎隆；浜松市中区 龍口歯科医院 龍口幹雄；浜松市南区 えとう歯科 衛藤耕太郎；沼津市 中島歯科医院 中島徹；富士市 近藤歯科医院 近藤正明；静岡市清水区 太陽歯科 小林弘幸；榛原郡吉田町 赤堀歯科医院 赤堀仁則；掛川市 はかまだ歯科上内田診療所 袴田和彦；浜松市南区 たけだ歯科 武田成久

## 【愛知県】

岡崎市 須賀歯科医院 須賀均；名古屋市中村区 内堀歯科医院 内堀典保；北名古屋市 佐藤歯科医院 佐藤理之；名古屋市昭和区 なかにし歯科医院 中西康裕；春日井市 渡辺歯科医院 渡邊俊之；碧南市 衣浦歯科医院 鈴木健三；名古屋市昭和区 スギムラファミリー歯科 梶村豊彦；春日井市 小川歯科クリニック 小川直孝；豊川市 あんとうデントタルクリニック 安東基善；名古屋市熱田区 歯科辻岡医院 辻岡義人；東海市 水野歯科 水野泰弘；名古屋市守山区 あさひ歯科 中村剛久；名古屋市港区 白井歯科医院 長谷部雅志；名古屋市中区 河合歯科医院 河合正；刈谷市 宮田歯科医院 宮田泰；半田市 杉浦歯科医院 杉浦隆彦；名古屋市緑区 本多ファミリー歯科 本多豊彦；小牧市 ビュー歯科クリニック 竹内友康；名古屋市天白区 やざわ歯科 矢澤隆宏；名古屋市緑区 うえのだ歯科 上野田英行；名古屋市千種区 いしはら歯科クリニック 石原道郎；田原市 花井歯科医院 花井伸浩；愛西市 宮村歯科医院 宮村秀樹；清須市 フカオ歯科医院 深尾裕和；瀬戸市 青木歯科医院 青木靖；豊橋市 あさひな歯科 朝比奈義明

### 【三重県】

桑名市 星見いとう歯科 伊藤寿志；桑名市 ヒルカワ歯科 蛭川幸史；桑名市 永田歯科 永田卓也；四日市市 成田歯科 成田直樹；四日市市 歯科診療所ひまわり 井上博；四日市市 石塚いとう歯科 伊東学；四日市市 野崎歯科医院 佐野乃里江；鈴鹿市 ゆたか歯科 長谷川豊；鈴鹿市 伊東歯科医院 伊東信介；亀山市 久保田歯科クリニック 久保田幸伸；津市 中村歯科 中村仁大；津市 ふくもり歯科 福森哲也；津市 桑名歯科医院 桑名良尚；津市 なかとう矯正歯科 中藤健；松阪市 ゆあ歯科クリニック 西村充功；松阪市 いとう歯科クリニック 伊藤法彦；松阪市 浜瀬歯科室 浜瀬太郎；多気郡多気町 くろい歯科クリニック 黒井建志；伊勢市 田所歯科 田所泰；伊勢市 右京歯科 右京博巳；伊勢市 富田歯科医院 富田薫；志摩市 はね歯科医院 羽根司人；志摩市 中西歯科医院 中西至徳；北牟婁郡紀北町 中井歯科医院 中井孝佳；北牟婁郡紀北町 八原歯科医院 八原康好；伊賀市 服部歯科医院 服部明伸；伊賀市 内田歯科医院 内田準子

### 【滋賀県】

守山市 モリタ歯科医院 森田潤；東近江市 おおにし歯科クリニック 大西啓之；大津市 田村歯科医院 田村正治；大津市 松井歯科医院 松井泰成；栗東市 大槻歯科医院 大槻芳夫；野洲市 坂本歯科医院 坂本耕造；甲賀市 真岡歯科医院 真岡淳之；東近江市 おがわ東歯科 小川益弘；東近江市 加藤歯科医院 加藤順子；彦根市 安澤歯科 小泉診療所 安澤吉亮；彦根市 つつみ歯科 堤正彦；長浜市 澤歯科医院 澤秀樹；高島市 マキノ歯科医院 安本忠司；甲賀市 木村歯科クリニック 木村和弥；大津市 尾松第二歯科 尾松青爾；大津市 尾松歯科石山診療所 尾松純；大津市 あしだ歯科医院 蘆田博明；野洲市 はしもと歯科医院 橋本昌治；草津市 山本歯科クリニック 山本博一；栗東市 おざき歯科医院 尾崎健太郎；草津市 つかだ歯科医院 東田寿夫；甲賀市 西田歯科医院 西田武仁；甲賀市 西田歯科クリニック 西田尚武；愛知郡愛荘町 北村歯科医院 北村圭司；近江八幡市 フジ歯科クリニック 藤関陽平；彦根市 たきい歯科医院 瀧井喜博；彦根市 やまだファミリー歯科 山田賢；米原市 きたむら歯科 北村鉄也；長浜市 坂本歯科医院 坂本信樹；高島市 まつだ内科歯科クリニック 松田直哉

### 【京都府】

京都市上京区 水野歯科医院 水野昭彦；京都市伏見区 安岡歯科医院 安岡良介；京都市北区 溝渕歯科医院 溝渕健一；福知山市 山崎歯科医院 山崎陽司；京都市上京区 中川歯科診療所 中川徹；京都市上京区 松尾歯科医院 松尾亮；長岡京市 内藤歯科医院 内藤雅文；京都市東山区 佐藤歯科医院 佐藤雅之；京都市山科区 三井歯科医院 三井博晶；長岡京市 岩佐歯科医院 岩佐勝也；城陽市 坂本歯科医院 坂本嘉彦；京都市南区 横田歯科医院 横田誠；京都市山科区 宮本歯科医院 宮本保幸；京都市下京区 平野歯科医院 平野裕之；亀岡市 内藤歯科医院 内藤春生；京都市上京区 歯科正木医院 正木文浩；京都市左京区 葉山歯科医院 葉山義則；京都市中京区 たけざわ歯科医院 竹澤保政；舞鶴市 小川歯科医院 小川喜生；城陽市 おくむら歯科医院 奥村義紀；京都市上京区 やまもと歯科 山本賢彦；京都市中京区 安田歯科医院 安田久理人；亀岡市 天野歯科医院 天野浩；京都市南区 上田歯科医院 上田賢；京都市下京区 下村歯科医院 下村太郎；京都市伏見区 マナブ歯科医院 袋布学；相楽郡 精華町 おざき歯科医院 小笹喜彦；京都市北区 きしもと歯科医院 岸本知弘

## 【大阪府】

東大阪市 木田歯科医院 木田友信；大阪市福島区 片岡歯科医院 片岡宏之；東大阪市 堤歯科・小児歯科 堤佳代子；羽曳野市 タケダ歯科 竹田幸弘；大東市 キダ歯科医院 木田眞敏；大阪市中央区 河村歯科医院 河村達也；枚方市 辻坂歯科医院 辻坂智矢；大阪市鶴見区 吉岡歯科医院 吉岡慎郎；堺市中央区 やまがみ歯科 山上博史；大阪市此花区 小池歯科医院 小池宏忠；阪南市 まさと歯科医院 若野正人；東大阪市 寺澤デンタルクリニック 寺澤一男；大阪市福島区 ヒロデンタルクリニック 石田裕將；大阪市此花区 なぎさ歯科医院 久保周敬；大阪市旭区 巽歯科医院 巽久宜；大阪市城東区 中川歯科医院 中川貴司；吹田市 上橋歯科医院 上橋芳雄；高槻市 真下歯科診療所 真下尚人；寝屋川市 高橋歯科医院 高橋達行；東大阪市 西川歯科医院 西川眞二；東大阪市 下池歯科医院 下池敏之；大阪狭山市 田中歯科医院 田中孝治；岸和田市 木村歯科医院 木村正也

## 【兵庫県】

神戸市長田区 末瀬歯科医院 末瀬裕一；神戸市須磨区 清水歯科医院 清水一彦；神戸市中央区 三代歯科医院 三代知史；神戸市兵庫区 なかたに歯科クリニック 中谷昌弘；姫路市 神田歯科クリニック 神田貢；神戸市北区 西尾歯科クリニック 西尾嘉高；神戸市灘区 むさし歯科医院 武藏泰弘；神戸市東灘区 梅村歯科医院 梅村智；姫路市 段歯科医院 段充；尼崎市 菅原歯科クリニック 菅原正之；神戸市須磨区 崎山歯科医院 崎山裕行；神戸市長田区 松田歯科医院 松田義弘；神戸市西区 だいこく歯科医院 大黒博司；宝塚市 やまおか歯科医院 山岡集一；明石市 山川歯科医院 山川達也；西脇市 村上歯科医院 村上昌央；加古川市 中野デンタルクリニック 中野訓夫；姫路市 松井・中村歯科医院 松井大範；赤穂郡上郡町 すがはら歯科クリニック 菅原聡；丹波市 佐竹歯科医院 佐竹茂樹；養父市 養父市国保大屋歯科診療 砂治国隆；豊岡市 中村歯科クリニック 中村利央；淡路市 平井歯科医院 平井裕治

## 【奈良県】

大和高田市 土居歯科医院 土居正英；御所市 増田歯科医院 増田信一；生駒市 松中歯科医院 松中保；奈良市 東浦歯科医院 東浦宏守；御所市 上田歯科医院 上田晴三；奈良市 杉山歯科医院 杉山友一；山辺郡山添村 藤井歯科医院 藤井康伯；大和郡山市 槌谷歯科医院 槌谷正徳；橿原市 花岡歯科橿原ニュータウン診療所 花岡靖浩；大和郡山市 竹井歯科医院 竹井秀樹；香芝市 岡本歯科医院 岡本吉彦；橿原市 醍醐よしかわ歯科 吉川健司；奈良市 森本歯科医院 森本一弘；大和郡山市 もりおか歯科 森岡貞光；天理市 堀川歯科医院 堀川正司；磯城郡川西町 たつみ歯科医院 辰巳佳正；橿原市 あおき歯科クリニック 青木功一郎；大和高田市 えんどう歯科クリニック 遠藤武弘；御所市 ささき歯科医院 佐々木一郎；五條市 田園歯科クリニック 中山義久；宇陀市 おきな歯科 沖中玲甫；吉野郡大淀町 おおかわ歯科 大川浩司；奈良市 かず歯科口腔外科クリニック 大儀和彦；大和郡山市 かわた歯科クリニック 川田芳樹；生駒郡平群町 小向井歯科クリニック 小向井英記；生駒市 山本歯科クリニック 山本漢九；天理市 吉岡歯科医院 吉岡弘直；磯城郡田原本町 木虎歯科 木虎孝文；橿原市 せいじ歯科医院 吉田精司；吉野郡大淀町 今元歯科 今元龍造

## 【和歌山県】

和歌山市 仲河歯科医院 仲河義仁；和歌山市 南海歯科 高誠；和歌山市 青島歯科医院 青島潔；和歌山市 あなはら歯科クリニック 穴原伸晃；和歌山市 井関歯科医院 井関慶；和歌山市 くすの木デンタルクリニック 谷口省吾；海南市 あっそ歯科クリニック 山田貢司；海南市 井内歯科医院 井内洋；海南市 溝端歯科医院 溝端将泰；岩出市

たかぎ歯科医院 高木健次；紀の川市 山中歯科医院 山中茂史；岩出市 おち歯科医院 越智章夫；紀の川市 岡本  
歯科医院 岡本圭司；橋本市 つちだ歯科医院 土田雅久；橋本市 村上歯科医院 村上浩孝；橋本市 落合デンタル  
オフィス 落合茂弘；橋本市 堀畑歯科医院 堀畑幸則；有田市 嶋田歯科医院 嶋田崇；有田市 石垣歯科医院 石垣  
博之；有田郡有田川町 瀧川歯科医院 瀧川英樹；御坊市 木村歯科医院 木村稔；日高郡美浜町 五木田美浜町歯  
科医院 五木田恒明；田辺市 田辺歯科 坂本守孝；西牟婁郡上富田町 中井歯科医院 中井聖；田辺市 おか歯科  
医院 岡泰大；田辺市 まさご歯科口腔外科クリニック 真砂洋；東牟婁郡那智勝浦町 間所歯科医院 間所邦人；東牟  
婁郡那智勝浦町 もみの木歯科 本野久；新宮市 さかぐち歯科医院 阪口光央；東牟婁郡串本町 日高歯科医院 日  
高治

## 【鳥取県】

鳥取市 しみず歯科クリニック 清水達哉；鳥取市 なわだ歯科医院 縄田昌彦；鳥取市 いながき歯科医院 伊奈垣学；  
鳥取市 池田歯科医院 池田実央；鳥取市 ナカムラ歯科医院 中村裕志；鳥取市 大草歯科医院 大草了；鳥取市  
おおもり歯科クリニック 大森智弘；八頭郡八頭町 岸本歯科医院 岸本匡史；鳥取市 こはま歯科医院 小濱裕幸；鳥  
取市 今宮歯科クリニック 今宮幸樹；鳥取市 吉田歯科医院 吉田渉；鳥取市 さとう歯科クリニック 佐藤亮；倉吉市  
花池デンタルクリニック 花池泰徳；東伯郡琴浦町 くにたけ歯科クリニック 國竹洋輔；倉吉市 くまの歯科医院 熊野秀  
子；東伯郡北栄町 仲歯科医院 仲秀典；倉吉市 森本歯科医院 森本英嗣；倉吉市 パープル歯科クリニック 桑名慎  
太郎；米子市 植木歯科医院 植木泰久；米子市 隅田歯科医院 隅田秀樹；米子市 りつ歯科医院 平林律；米子市  
米子デンタルクリニック 齋藤正博；米子市 あさくら歯科医院 朝倉章順；米子市 いけぐち歯科クリニック 池口直子；  
境港市 さかい歯科クリニック 酒井博淳；米子市 岡歯科医院 岡佐登志；米子市 新納歯科大崎医院 新納晋次郎；  
米子市 林原歯科クリニック 林原哲之；米子市 木山歯科医院 木山力哉；米子市 ナガタ歯科 永田耕蔵

## 【島根県】

雲南市 青木歯科医院 青木誠；松江市 青戸歯科医院 青戸弘陽；松江市 あさひな歯科 朝比奈圭；松江市 八束  
歯科クリニック 足立健次；松江市 あま歯科クリニック 尼ヶ崎知也；大田市 あおば歯科医院 石田十悟；出雲市 岩崎歯  
科医院 岩崎陽；浜田市 大山歯科医院 大山恒夫；益田市 おむら歯科医院 小村尚徳；松江市 鹿島歯科診療所  
影山直樹；松江市 野波歯科診療所 景山隆治；浜田市 梶原歯科医院 梶原光史；益田市 ことぶき歯科医院 齋藤  
寿章；出雲市 佐和歯科医院 佐和泉美；松江市 末森歯科医院 末森一彦；松江市 多田歯科医院 多田宏；出雲  
市 あい歯科クリニック 田部眞治；邑智郡邑南町 富永歯科医院 富永一道；松江市 のつ歯科 野津慶太；出雲市  
原歯科医院 原伸；松江市 ひとみ歯科 人見康正；松江市 松本歯科・矯正歯科医院 松本健太郎；出雲市 みやま  
つ歯科クリニック 宮松伸也；浜田市 かずあきデンタルクリニック 山根一聡；安来市 吉田歯科医院 吉田達彦

## 【広島県】

広島市南区 イースト歯科クリニック 上田裕次；広島市中区 ア歯科広島東 G 小松診療所 小松大造；広島市東区 能  
美歯科医院 能美和基；広島市西区 もりもと歯科クリニック 森本慎樹；広島市安佐北区 かまやま歯科 釜山憲二；広  
島市安佐南区 たけだ歯科医院 武田泰三；呉市 のりこ歯科医院 武田典子；呉市 小早川歯科医院 谷本澄江；三  
原市 うらさき歯科 裏崎英之；三原市 河田歯科医院 河田眞樹；尾道市 福岡歯科医院 福岡賢二；福山市 きたこが  
歯科医院 北古賀修；福山市 びんご歯科クリニック 西谷満；福山市 よしだ歯科 吉田知生；大竹市 これなが歯科医  
院 是永佳成；尾道市 酒井歯科医院 酒井清文；広島市佐伯区 中林歯科クリニック 中林浩樹；廿日市市 ふじた歯

科 藤田裕樹；山県郡安芸太田町 戸河内廣安歯科医院 廣安敬之；江田島市 やまさき歯科医院 山崎一義；東広島市 佐竹田歯科医院 佐竹田久；東広島市 はもう歯科クリニック 羽毛克彦；竹原市 三好歯科医院 三好敏朗；世羅郡世羅町 平岡歯科医院 平岡秀樹；府中市 フジモト歯科 藤本俊介；神石郡神石高原町 秋山歯科医院 秋山敬三；安芸高田市 山崎歯科医院 山崎信義；三次市 まつお歯科医院 松尾友太郎；庄原市 横山歯科医院 横山勝

## 【山口県】

岩国市 ひろなか歯科医院 弘中良人；岩国市 藤生歯科センター 脇田雅人；岩国市 岡田歯科医院 岡田和博；柳井市 神原歯科医院 藤井今日子；柳井市 上田歯科医院 上田真三；熊毛郡上関町 上関町歯科診療所 山野涉；下松市 下村歯科 下村明生；周南市 水津歯科医院 水津航；周南市 おもかわ歯科医院 表川実哉；周南市 こやま歯科医院 小山茂幸；山口市 市川歯科小児歯科 市川洋一郎；山口市 いのうえデンタルクリニック 井上徹；山口市 MKデンタルオフィス 前川光太郎；山口市 たなべ歯科 田邊竜太；山口市 ハーモニー歯科こども歯科 金藤寿；山口市 やすもと歯科医院 安元重実；宇部市 すみかわ歯科医院 澄川知輝；宇部市 文京台デンタルクリニック 梶井泰樹；宇部市 藤田歯科医院 藤田和久；美祢市 みのだ歯科医院 實能田尚；萩市 松隈歯科医院 松隈敬；山口市 おおた歯科医院 大田紀文；長門市 西村歯科医院 西村和美；下関市 中川歯科医院 中川操；下関市 新藤歯科医院 新藤直治；下関市 木下歯科医院 木下義之；下関市 新藤歯科医院 新藤洋；下関市 阿久津歯科医院 阿久津雅；下関市 クズヤマ歯科 葛山司；下関市 いのうえ歯科勝谷 井上雅之

## 【徳島県】

徳島市 白神歯科医院 白神直之；徳島市 石本歯科医院 石本卓司；徳島市 川島病院 歯科・歯科口腔外科 川島友一郎；徳島市 早雲歯科医院 早雲講二；徳島市 東山歯科医院 東山祐陽；徳島市 やまさき歯科医院 山崎敏雄；徳島市 山口歯科クリニック 山口貴功；板野郡北島町 齋賀歯科医院 齋賀洋二；徳島市 横山歯科クリニック 横山正秋；鳴門市 秋田歯科医院 秋田豊仁；鳴門市 小川歯科医院 小川和宏；鳴門市 日下歯科婦人科医院 日下淳；鳴門市 中森歯科医院 中森義昭；小松島市 木下歯科医院 木下直人；小松島市 しもむら歯科医院 下村学；阿南市 岡本歯科 岡本好史；阿南市 島田歯科医院 島田啓次；阿南市 マツモト歯科医院 松本侯；那賀郡那賀町 村田歯科医院相生診療所 村田昌弘；阿波市 阿部歯科医院 阿部昭人；徳島市 齋賀歯科医院 齋賀明彦；板野郡板野町 ひろせ歯科医院 廣瀬斉也；阿波市 こんどう歯科クリニック 近藤宏治；阿波市 へいしま歯科ファミリークリニック 平島佳典；吉野川市 杉山歯科医院 杉山忍；吉野川市 飛梅歯科医院 飛梅悟；美馬市 ハローデンタルクリニック 上原康助；美馬郡つるぎ町 笠原歯科クリニック 笠原信治；三好市 いい歯科 伊井廣；三好市 たおか歯科クリニック 田岡計久

## 【香川県】

さぬき市 安部歯科医院 安部嘉門；観音寺市 あらき歯科クリニック 荒木哲也；高松市 いちはら歯科クリニック 市原雅也；高松市 岩田歯科医院 岩田哲郎；高松市 かさいデンタルクリニック 笠井真一；高松市 すまいる歯科・矯正歯科 金岡和博；丸亀市 岸本歯科医院 岸本慶；丸亀市 キタ歯科医院 喜田正品；木田郡三木町 桑村歯科医院 桑村肇；さぬき市 小西歯科医院 小西法文；高松市 こばやし歯科・小児歯科クリニック 小林弘茂；丸亀市 近藤歯科医院 近藤正孝；高松市 渋谷歯科医院 渋谷敦人；丸亀市 末森元歯科医院 末森元；高松市 佃 歯科医院 佃卓；観音寺市 とよしま歯科医院 豊嶋洋一；高松市 中山歯科医院 中山盛幹；高松市 裕歯科クリニック 西原裕；高松市 林歯科医院 林秀樹；坂出市 樋口歯科医院 樋口豊；綾歌郡綾川町 ふくい歯科医院 福井隆夫；観音寺市 藤村歯

科医院 藤村英二；坂出市 宮崎歯科医院 宮崎芳樹；高松市 もりぐち歯科クリニック 森口善夫；高松市 山内歯科医院 山内宏茂

### 【愛媛県】

伊予市 伊予市国保中山歯科診療所 高橋徳昭；今治市 山内歯科医院 山内誓；四国中央市 高橋歯科 高橋洋一；宇和島市 ライオン歯科 三原宏之；松山市 武田歯科医院 武田能成；松山市 アップル歯科医院 山科学；松山市 まこと歯科クリニック 今井真；松山市 佐古歯科医院 佐古弘文；四国中央市 石川歯科医院 石川晋；今治市 日吉歯科医院 越智宣之；越智郡上島町 岩城歯科診療所 村上始；宇和島市 岡森歯科医院 岡森光生；松山市 フェニックス歯科 井上洋；新居浜市 吉津歯科医院 吉津宏；今治市 藤澤歯科医院 藤澤雅人；松山市 西田歯科診療所 西田圭；松山市 野村歯科 野村泰慎；北宇和郡鬼北町 佐々木歯科医院 佐々木誠；新居浜市 宇野歯科医院 宇野義治；松山市 太山寺歯科医院 山田昌樹；大洲市 有馬歯科医院 有馬徹；松山市 三瀬歯科医院 三瀬雄次郎；松山市 サトウ歯科医院 佐藤大輔；松山市 永井歯科医院 永井一生

### 【高知県】

高知市 織田歯科医院 織田英正；高知市 窪歯科 窪盛偉；高岡郡越知町 大黒歯科医院 大黒裕文；高知市 沖歯科診療所 沖義一；高知市 のむら歯科 野村圭介；高知市 武井歯科医院 武井博志；高知市 六泉寺歯科 松岡俊夫；高知市 岡本歯科 岡本康生；宿毛市 前田歯科矯正歯科 前田芳久；香南市 池田歯科クリニック 池田隆志；南国市 西村歯科医院 西村重泰；高知市 野本歯科診療所 野本英一；高岡郡日高村 日高歯科 濱田卓也；高知市 いのべ歯科医院 伊野部哲也；高知市 岡本歯科診療所 市原三千子；高知市 岩田歯科医院 岩田耕三；須崎市 高橋歯科医院 高橋宏治；安芸郡安田町 みやた歯科 宮田定俊；南国市 寺村歯科 寺村久由；高知市 たおか歯科 田岡太郎；高岡郡津野町 高橋歯科診療所 高橋正樹；高知市 野田歯科医院 野田拓聖；高知市 おかだ歯科クリニック 岡田寿夫；高知市 公文歯科診療所 公文義浩；南国市 米田歯科 米田和典；高知市 前田歯科医院 前田恵利子；四万十市 池本歯科医院 池本清夫；四万十市 幸徳歯科 山本明；幡多郡黒潮町 安光歯科医院 安光勇人

### 【福岡県】

北九州市小倉北区 ナカノ歯科医院 中野宏俊；北九州市小倉北区 藤崎歯科医院 藤崎隆生；北九州市門司区 井尾歯科医院 井尾尚；田川郡添田町 五嶋歯科医院 五嶋淑雄；朝倉市 今井歯科医院 今井富実生；鞍手郡小竹町 野田歯科医院 野田大三；福岡市中央区 福田歯科医院 福田真一郎；古賀市 たけした歯科医院 竹下文隆；福岡市中央区 西田歯科クリニック 西田圭一；福岡市東区 とりお歯科医院 鳥尾紀詔；柳川市 えり歯科医院 江里能成；春日市 藤田歯科クリニック 藤田和宏；北九州市若松区 金丸歯科医院 山口祐典；豊前市 わたなべ歯科クリニック 渡邊知則；福岡市早良区 飯田デンタルオフィス 飯田康雄；糸島市 はんだ歯科医院 半田正；八女市 おおくま歯科医院 大熊一徳；北九州市八幡西区 田代歯科医院 田代芳之；京都市みやこ町 よしなが歯科医院 吉永隆一；粕屋郡久山町 フジトデンタルクリニック 藤戸孝章；福岡市東区 パンダ小児歯科医院 劉中憲；久留米市 長沢歯科医院 長澤利章；北九州市若松区 藤井歯科医院 藤井雅洋；直方市 みずほ内科・歯科クリニック 川端貴美子；福岡市東区 坂本歯科医院 坂本文比古；糸島市 小島歯科医院 小島健作；久留米市 大石歯科クリニック 大石真大；北九州市戸畑区 田中歯科医院 田中徹

## 【佐賀県】

佐賀市 ふるかわ歯科・小児歯科医院 古川直樹；鳥栖市 隈本歯科医院 隈本太郎；唐津市 おき歯科医院 沖宜親；伊万里市 ますもとけんこう歯科 舩元康浩；佐賀市 はら歯科医院 原秀幸；佐賀市 いちのせ歯科・小児歯科医院 一瀬暢宏；神埼市 泉福歯科医院 泉福浩志；小城市 おわしデンタルクリニック 尾鷲俊行；武雄市 中尾歯科医院 中尾弘志；伊万里市 麻生歯科医院 麻生朋江；西松浦郡有田町 やまの歯科医院 山野貴弘；神埼郡吉野ヶ里町 目達原歯科医院 岡義久；神埼市 こばやし歯科医院 小林善郎；杵島郡江北町 小柳歯科医院 小柳進祐；武雄市 のだ歯科医院 野田正純；小城市 副島歯科医院 副島渉；小城市 はらだ歯科医院 原田雄一；鳥栖市 とおやま歯科医院 遠山聖；鳥栖市 アルファ歯科・矯正歯科クリニック のき田隆資；佐賀市 武富歯科医院 武富啓起；佐賀市 野口歯科医院 野口忠裕；佐賀市 服部歯科医院 服部武彦；佐賀市 酒井歯科医院 酒井正男；佐賀市 ふじわら歯科クリニック 藤原和由；鹿島市 ひだまり歯科医院 古庄龍央；嬉野市 寺尾歯科医院 寺尾隆治；唐津市 おおた歯科医院 大田剛；唐津市 大浦歯科医院 大浦一典

## 【長崎県】

佐世保市 山下歯科医院 山下泰裕；西彼杵郡時津町 おくむら歯科 奥村朋治；長崎市 もとき歯科クリニック 中村幹；諫早市 おくの歯科医院 奥野勝也；大村市 またの歯科医院 俣野正仁；佐世保市 はちや歯科 八谷成紀；西海市 いちのせ歯科医院 一瀬宏明；西彼杵郡長与町 かずのり歯科 中村和則；佐世保市 鳥羽歯科医院 鳥羽健；島原市 松本歯科医院 松本賢二；諫早市 デンタルクリニックフジワラ 藤原浩；諫早市 ふじた歯科 藤田浩一；松浦市 末竹歯科医院 末竹和彦；長崎市 よしだ歯科 吉田敏；西彼杵郡時津町 えがしら歯科医院 江頭聡；長崎市 たら歯科 多良龍男；長崎市 ふじ歯科診療所 藤宣好；諫早市 奥村歯科診療所 奥村晃；大村市 吉原歯科医院 吉原徹

## 【熊本県】

宇土市 浦田歯科医院 浦田健二；熊本市北区 こじま歯科医院 小島博文；天草市 中嶋歯科医院 中嶋敬介；下益城郡美里町 渡辺歯科医院 渡辺賢治；阿蘇郡南阿蘇村 田上歯科医院 田上大輔；宇土市 八木歯科医院 八木義博；熊本市東区 牛島歯科医院 牛島隆；玉名郡南関町 大林医科歯科診療所 大林裕明；熊本市東区 かとう歯科医院 加藤久雄；天草市 松本歯科医院 松本信久；熊本市中央区 椿歯科クリニック 椿誠；合志市 伊藤歯科医院 伊藤明彦；熊本市南区 かわせ歯科クリニック 川瀬博美；荒尾市 蔵本歯科医院 蔵本茂禎；八代市 みやもと歯科医院 宮本名留彦；水俣市 伊藤歯科医院 伊藤延隆；山鹿市 河原歯科医院 河原正明；阿蘇市 宇治歯科医院 宇治信博

## 【大分県】

佐伯市 脇田歯科医院 脇田晴彦；大分市 富士見歯科クリニック 柴崎明彦；大分市 木村歯科医院 木村哲也；別府市 伊東歯科医院 伊東毅；大分市 ベル歯科クリニック 藤本洋士；大分市 せぐち歯科医院 瀬口清文；大分市 くだう歯科 工藤信哉；速見郡日出町 河野歯科医院 河野俊貴；中津市 ながの歯科医院 長野敏朗；大分市 佐賀関診療所歯科 仲野貴明；日田市 桑野歯科医院 桑野浩一郎；津久見市 増村歯科医院 増村隆夫；大分市 古賀歯科医院 古賀聖規；宇佐市 歯科久恒医院 久恒敦司；大分市 藤原歯科医院 藤原真一；別府市 谷口歯科医院 谷口之規；豊後高田市 松成歯科医院 松成康男；別府市 爲末歯科クリニック 爲末顕；臼杵市 陶山歯科医院 陶山直昭；大分市 ひまわり歯科医院 檀上隆昭；大分市 たにがわ歯科 谷川参聖；大分市 かず歯科 馬場一彰；別府市 ガーデン歯科クリニック 高橋喜巳；大分市 はしもと歯科医院 橋本謙二；大分市 おの歯科医院 小野晴彦；大分市

はしもと歯科医院 橋本貴紀；豊後大野市 矢野歯科クリニック 矢野英次；佐伯市 長田歯科クリニック 長田嘉文；杵築市 歯科原田医院 原田裕教；由布市 歯科吉村医院 吉村研治

## 【宮崎県】

宮崎市 河崎歯科医院 河崎邦夫；日南市 おなが歯科医院 翁長武一郎；東諸県郡国富町 花田歯科医院 花田剛典；宮崎市 ねい歯科医院 根井俊輔；日向市 ほり歯科医院 堀健介；宮崎市 佐野歯科 佐野裕一；延岡市 さかもと歯科・歯科口腔外科医院 阪元文裕；宮崎市 谷山歯科医院 谷山隆一郎；宮崎市 そえじま矯正歯科 副島和久；延岡市 北浦歯科医院 林正太郎；西都市 かわの歯科 河野保彦；小林市 あしの歯科医院 芦野晴一郎；日南市 河野歯科医院 河野恭明；日南市 大手門歯科クリニック 清水慎二郎；宮崎市 矯正・小児ひまわり歯科 柿崎陽介；延岡市 かい歯科クリニック 甲斐史朗；児湯郡高鍋町 ひまわり歯科診療所 原田明文；えびの市 京町歯科医院 白尾康広；日向市 尾池歯科医院 尾池康暢；西臼杵郡日之影町 かい歯科クリニック 甲斐律夫；宮崎市 はまだ歯科医院 濱田真人；日南市 安部歯科医院 安部喜郎；西諸県郡高原町 益山歯科医院 児玉芳邦；日向市 大王谷長友歯科 長友秀澄

## 【鹿児島県】

日置市 えご歯科医院 江籠三浩；鹿児島市 かなめ歯科医院 要光；鹿児島市 くぼ歯科クリニック 久保博紀；鹿児島市 サカエ歯科医院 栄千登美；南さつま市 医療法人 崎元歯科医院 崎元誠；鹿児島市 さだむら歯科医院 貞村淳一郎；鹿児島市 谷山さとう歯科 佐藤隆太郎；薩摩川内市 林かずひろ歯科クリニック 林和廣；鹿児島市 中央歯科医院 篠原勝久；薩摩川内市 せぐち歯科クリニック 瀬口康弘；曾於市 せと歯科医院 瀬戸大基；鹿児島市 瀬戸歯科クリニック 瀬戸康博；鹿児島市 たちばなき歯科医院 橋木裕；伊佐市 ちゅうまん歯科 中馬雅彦；鹿屋市 とおや治歯科クリニック 遠矢治；鹿児島市 谷山ファミリー歯科クリニック 永田紳吾；始良市 中山歯科医院 中山清貴；鹿児島市 ながやまデンタルクリニック 永山雅大；西之表市 ならはら歯科クリニック 檜原弘晃；鹿児島市 西園歯科 西園直幸；鹿児島市 のぼり歯科医院 登正太郎；出水市 はしぐち歯科クリニック 橋口勝美；日置市 はぜもと歯科医院 樋元健彦；指宿市 浜田歯科医院 濱田静樹；大島郡瀬戸内町 まちだ歯科 町田慶太；鹿児島市 カム歯科クリニック 松久保正二；枕崎市 ふぁみりー歯科 山下福嘉；鹿児島市 よつもと歯科医院 四元幸治

## 【沖縄県】

那覇市 さつき歯科クリニック 金城光也；那覇市 屋宜歯科医院 屋宜優；那覇市 山城歯科医院 山城正裕；那覇市 高良歯科医院 高良政憲；うるま市 パーク歯科 津嘉山一；うるま市 野原歯科医院 野原昭彦；那覇市 くばがわ歯科医院 加藤真由美；那覇市 ふるげん歯科医院 古堅譲；名護市 くまがい歯科クリニック 熊谷徹；中頭郡嘉手納町 みずがま歯科医院 国吉綾子；宜野湾市 ラッキー・デンタルランド歯科クリニック 福里剛；那覇市 きらきらデンタルクリニック 井上博文；那覇市 エム・エム歯科クリニック 宮國義樹；沖縄市 ハート歯科 濟藤孝；糸満市 まえざと歯科 上原泰通；沖縄市 とけし歯科クリニック 渡慶次彰；うるま市 あおば歯科クリニック 赤地一史；中頭郡読谷村 新崎歯科 新崎隆；那覇市 那覇まかび歯科 勝連義之；浦添市 ティダの杜歯科 長嶺忍



# 添付資料

## 調査票

### 1. 歯科医院質問票（歯科医院調査）

#### (1) ベースライン（2014年度調査）

### 歯科医院質問票

記入日 平成26年 月 日

貴歯科医院名 \_\_\_\_\_

#### Q1：貴歯科医院の所在地、連絡先をご記入ください

所在地：〒		
都・道	市・区	区
府・県	郡	町・村
電話番号：_____		
E-mail：_____		

#### Q2：貴歯科医院の院長先生の性別（○印は1つ）

1. 男性	2. 女性
-------	-------

#### Q3：貴歯科医院の院長先生の年齢をご記入ください

_____	歳
-------	---

#### Q4：貴歯科医院の標榜科名のうち、該当するもの全てに○をつけてください

（あてはまるもの全てに○印）

1. 歯科	2. 小児歯科	3. 矯正歯科	4. 歯科口腔外科
-------	---------	---------	-----------

#### Q5：貴歯科医院の診療台（ユニット）数と歯科衛生士専用歯科ユニット台数をご記入ください

所有ユニット台数	台
（このうち歯科衛生士専用歯科ユニット台数）	台

Q6：本アンケートを記入した日の初診患者数と再診患者数をご記入ください。そのうち、外国人患者の人数もご記入ください

① 初診患者数	名（うち外国人患者数_____名）
② 再診患者数	名（うち外国人患者数_____名）

【外国人患者とは、日本に住んでいるうちに医療が必要となった外国人、または日本を訪れた際（観光やビジネス等）に、医療が必要となった外国人のこと】

Q7：貴院のスタッフ数を常勤と非常勤別にご記入ください。

（内訳の中でスタッフがいない場合は「0名」とご記入ください）

	常勤	非常勤	
	実人数	実人数	常勤換算
歯科医師（ご自身も含めて）	名	名	名
歯科衛生士	名	名	名
歯科技工士	名	名	名
歯科助手	名	名	名
その他	名	名	名

※非常勤従事者数は常勤換算（下表を参照）をお願いします。

<p>【常勤換算例】 貴院で週5日間診療している場合</p> <p>週5日終日勤務の場合 : <math>5 / 5 \times 1 = 1</math>人</p> <p>週1日終日勤務の場合 : <math>1 / 5 \times 1 = 0.2</math>人</p> <p>週5日半日勤務の場合 : <math>5 / 5 \times 0.5 = 0.5</math>人</p>
---

Q8：過去1か月で次に示す歯科予防処置を実施しましたか（項目ごとに○印は1つ）

	1 実施した	2 実施していない
① フッ化物歯面塗布	1	2
② フッ化物洗口	1	2
③ シーラント	1	2
④ 歯周病等の予防管理	1	2
⑤ うち1年以上の継続管理	1	2

Q9：過去1か月で定期健診を実施しましたか。(○印は1つ)

- |            |                |
|------------|----------------|
| 1. 実施した    | → Q9-1をお答えください |
| 2. 実施していない | → Q10へお進みください  |

**【Q9で「1. 実施した」と回答した方にお尋ねします】**

Q9-1：定期健診時に行っている処置や指導について、成人に対しては各項目でどの程度行っていますか（項目ごとに○印は1つ）

		1 毎回 必ず行う	2 ある程度 行う	3 あまり 行わない	4 全く 行わない
口腔診査	歯（う蝕など）	1	2	3	4
	歯周	1	2	3	4
歯石除去	歯肉縁上	1	2	3	4
	歯肉縁下	1	2	3	4
歯面清掃		1	2	3	4
フッ化物歯面塗布		1	2	3	4
フッ化物洗口の指導		1	2	3	4
歯科保健指導（歯みがき指導等）		1	2	3	4
食事指導		1	2	3	4
禁煙指導		1	2	3	4
その他（ ）		1	2	3	4

Q10：過去1か月で歯科保健指導を実施しましたか。(○印は1つ)

- |            |                 |
|------------|-----------------|
| 1. 実施した    | → Q10-1をお答えください |
| 2. 実施していない | → 質問はこれで終了です    |

**【Q10で「1. 実施した」と回答した方にお尋ねします】**

Q10-1：歯科保健指導にかかる1回あたりの時間は、1人の患者について平均するとどのくらいの時間をかけていますか。大体のところで結構です（○印は1つ）

- |            |          |            |
|------------|----------|------------|
| 1. 5分未満    | 2. 5分～9分 | 3. 10分～19分 |
| 4. 20分～29分 | 5. 30分以上 | 6. 分からない   |

ご協力ありがとうございました。  
最後に書き忘れがないかご確認ください。

## 歯科医院質問票

記入日 令和元年 月 日

貴歯科医院名 \_\_\_\_\_

Q : 過去 1 か月で定期健診を実施しましたか。(○印は 1 つ)

1. 実施した → Q-1 をお答えください  
 2. 実施していない → 質問はこれで終了です

### 【Qで「1. 実施した」と回答した方にお尋ねします】

Q-1 : 成人と高齢者に対して、定期健診時に下記に示す処置や指導をどの程度行っていますか (項目ごとに○印は 1 つ)

		1 毎回 必ず行う	2 ある程度 行う	3 あまり 行わない	4 全く 行わない
口腔診査	歯 (う蝕など)	1	2	3	4
	歯周	1	2	3	4
歯石除去	歯肉縁上	1	2	3	4
	歯肉縁下	1	2	3	4
歯面清掃		1	2	3	4
フッ化物歯面塗布		1	2	3	4
フッ化物洗口の指導		1	2	3	4
歯科保健指導 (歯みがき指導等)		1	2	3	4
食事指導		1	2	3	4
禁煙指導		1	2	3	4
その他 ( )		1	2	3	4

Q-2 : 高齢者に対して、定期健診時に下記に示す処置や指導をどの程度行っていますか (項目ごとに○印は 1 つ)

	1 毎回 必ず行う	2 ある程度 行う	3 あまり 行わない	4 全く 行わない
根面う蝕の予防処置 (フッ化物歯面塗布を含む)	1	2	3	4
義歯の清掃指導	1	2	3	4
口腔乾燥に対する保健指導	1	2	3	4
摂食嚥下指導	1	2	3	4
低栄養改善のための栄養指導	1	2	3	4

その他 ( )	1	2	3	4
---------	---	---	---	---

2. 歯科患者質問票（歯科患者調査）： ベースライン（2014 年度調査）

歯科医院記入欄	
患者様の ID 番号 _____	患者様の管理番号 _____
（調査対象一覧表の左側にある二桁の番号）	（調査対象一覧表にある任意の管理番号）

公益財団法人 8020 推進財団 平成 26 年度調査研究事業  
「歯科医療による健康増進効果に関する調査研究」

## 歯と口と健康の質問紙

この質問紙は、診療に活用するとともに、公益財団法人 8020 推進財団による、「歯科医療による健康増進効果に関する調査研究」に活用させていただきます。研究の詳細は別紙をご覧ください。ご同意いただける場合は、「研究参加への同意書」欄に必要事項をご記入の上、質問紙にご回答をお願いいたします。

ご協力いただいた方には、心ばかりの謝礼品をご用意させていただいております。  
なお、本質問紙のご回答の中に、歯科医院に知られたくない情報がある場合には、本日または次回ご来院時に、封筒に糊付けの上ご提出ください。

<b>研究参加への同意書</b>	
記入日 平成 26 年 _____ 月 _____ 日	
(ふりがな)	
お名前 _____ 様	性別 男性 女性 _____
ご年齢 _____ 歳	生年月日 明・大・昭・平 _____ 年 _____ 月 _____ 日
ご住所 〒 _____	
_____	

次の健康や行動に関するQ1～Q25の質問について選択またはご記入をお願いします。

**Q1-1：あなたの歯や歯ぐきの健康状態はいかがですか（○は1つ）**

1. よい	2. まあよい	3. ふつう	4. あまりよくない	5. よくない
-------	---------	--------	------------	---------

**Q1-2：現在、ご自分の歯や口の状態で気になることはありますか。**

該当するもの全てに○をつけてください（あてはまるもの全てに○印）

1. 噛み具合	2. 外観	3. 発話	4. 口臭
5. 痛み（選んでください → 歯・歯ぐき・舌・その他）	6. 義歯の具合が悪い		
7. 飲み込みにくい	8. 口の渇き	9. 歯科治療が中断している	
10. あごの関節	11. 歯並び	12. その他	13. 特に問題はない

**Q2-1：全体的にみて、あなたの健康状態はいかがですか（○は1つ）**

1. よい	2. まあよい	3. ふつう	4. あまりよくない	5. よくない
-------	---------	--------	------------	---------

**Q2-2：現在、次のような症状がありますか。**

該当するもの全てに○をつけてください（あてはまるもの全てに○印）

1. 肩の痛み	2. 腰痛	3. ひじや手の痛み	4. 足の痛み	5. 神経痛
6. 耳鳴り	7. 難聴	8. 目のかすみ	9. 不眠症	
10. その他（症状：				11. 特にない

**Q2-3：病気についてお尋ねします。**

①現在、次のいずれかの病気で治療を受けていますか（あてはまるもの全てに○印）

1. 糖尿病	2. 脳卒中	3. 心臓病	4. がん	5. 肺炎
6. 高血圧症	7. 高脂血症	8. 肥満症	9. 認知症	
10. 慢性閉塞性肺疾患（COPD）	11. その他（主な病名：			)
12. 特に病気はない				

②現在治療を受けていないが過去にかかったことがある病気はありますか

（あてはまるもの全てに○印）

1. 糖尿病	2. 脳卒中	3. 心臓病	4. がん	5. 肺炎
6. 高血圧症	7. 高脂血症	8. 肥満症	9. 認知症	
10. 慢性閉塞性肺疾患（COPD）	12. その他（主な病名：			)
13. その他（主な病名：				14. 特に病気はない

③現在治療を受けていないが健診で指摘されたことがある病気はありますか

（あてはまるもの全てに○印）

1. 糖尿病	2. 脳卒中	3. 心臓病	4. がん	5. 肺炎
6. 高血圧症	7. 高脂血症	8. 肥満症	9. 認知症	
10. 慢性閉塞性肺疾患（COPD）	11. その他（主な病名：			)
12. 特に病気はない	13. 健診を受けていないのでわからない			

**Q2-4：介護認定を受けていますか。**

申請中の方は、現在の認定状況でお答えください（○は1つ）

- |           |         |         |         |         |
|-----------|---------|---------|---------|---------|
| 1. 受けていない | 2. 要支援1 | 3. 要支援2 |         |         |
| 4. 要介護1   | 5. 要介護2 | 6. 要介護3 | 7. 要介護4 | 8. 要介護5 |

**Q2-5：過去1年間で「歯や歯ぐき」が原因で仕事に支障をきたしたことがありましたか（○は1つ）**

- |       |           |            |          |
|-------|-----------|------------|----------|
| 1. ない | 2. たまにあった | 3. ときどきあった | 4. よくあった |
|-------|-----------|------------|----------|

**Q2-6：過去1年間で「歯や歯ぐき」が原因でよく眠れなかったことがありましたか（○は1つ）**

- |       |           |            |          |
|-------|-----------|------------|----------|
| 1. ない | 2. たまにあった | 3. ときどきあった | 4. よくあった |
|-------|-----------|------------|----------|

**Q3-1：ご自分の歯は何本ありますか。**

かぶせた歯（金歯・銀歯）、さし歯、根だけ残っている歯も本数に含めます。歯はすべてあれば28本～32本あります（親しらずに個人差が最大4本あります）

本
---

**Q3-2：入れ歯の使用についてお聞きします。**

① 部分入れ歯を使っていますか（あてはまるもの全てに○印）

- |         |         |            |
|---------|---------|------------|
| 1. 上のあご | 2. 下のあご | 3. 利用していない |
|---------|---------|------------|

② 全部入れ歯を使っていますか（あてはまるもの全てに○印）

- |         |         |            |
|---------|---------|------------|
| 1. 上のあご | 2. 下のあご | 3. 利用していない |
|---------|---------|------------|

**Q4：自分の歯または入れ歯で左右の奥歯をしっかりと噛みしめられますか（○は1つ）**

- |            |            |           |
|------------|------------|-----------|
| 1. 左右両方かめる | 2. 片方だけかめる | 3. 両方かめない |
|------------|------------|-----------|

**Q5：歯をみがくと血がでますか（○は1つ）**

- |        |       |        |
|--------|-------|--------|
| 1. いつも | 2. 時々 | 3. いいえ |
|--------|-------|--------|

**Q6：歯ぐきが腫れてブヨブヨしますか（○は1つ）**

- |        |       |        |
|--------|-------|--------|
| 1. いつも | 2. 時々 | 3. いいえ |
|--------|-------|--------|

**Q7：冷たいものや熱いものが歯にしみますか（○は1つ）**

- |        |       |        |
|--------|-------|--------|
| 1. いつも | 2. 時々 | 3. いいえ |
|--------|-------|--------|

**Q8：かかりつけの歯科医院がありますか（○は1つ）**

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|



Q9：仕事が忙しかったり休めず、なかなか歯科医院に行けないことがありますか（○は1つ）

1. はい 2. いいえ

Q10：家族や周囲の人々は、日頃歯の健康に関心がありますか（○は1つ）

1. はい 2. どちらともいえない 3. いいえ

Q11：自分の歯には自信があったり、人からほめられたことがありますか（○は1つ）

1. はい 2. どちらともいえない 3. いいえ

Q12：普段、職場や外出先でも歯を磨きますか（○は1つ）

1. 毎回 2. 時々 3. いいえ

Q13：間食（甘い食べ物や飲み物）をしますか（○は1つ）

1. 毎日 2. 時々 3. いいえ

Q14：生活習慣を教えてください。

① たばこ（○は1つ）

1. 吸っている 2. 過去に吸っていたがやめた 3. 吸ったことはない

② お酒（○は1つ）

1. 毎日飲む 2. 週1回以上飲む 3. 週1回未満  
4. 飲むのをやめた 5. ほとんど飲まない（飲めない）

③ 運動習慣（○は1つ）

1. 毎日 2. 週数回 3. 月数回 4. 月1回未満

④ 野菜摂取（○は1つ）

1. 毎日2回以上食べる 2. 毎日1回以上 3. 週数回 4. 週1回未満

Q15-1：どのくらい歯をみがきますか（○は1つ）

1. 毎日3回以上 2. 毎日2回 3. 毎日1回 4. 週数回未満 5. みがかない

Q15-2：夜、寝る前に歯をみがきますか（○は1つ）

1. 毎日 2. 時々 3. いいえ

**Q15-3 : 歯をみがく時に歯磨剤（歯みがき剤）を使っていますか（○は1つ）**

1. フッ素入り歯磨剤を使っている
2. フッ素が入っていない歯磨剤を使っている
3. フッ素が入っているか不明だが、歯磨剤を使っている
4. 歯磨剤を使っていない

**Q16 : 歯間ブラシまたはフロス（糸ようじ）を使っていますか。（○は1つ）**

1. 毎日
2. 時々
3. いいえ

**Q17 : ゆっくりよく噛んで食事をしますか。（○は1つ）**

1. 毎日
2. 時々
3. いいえ

**Q18 : 今回の歯科受診についてお尋ねます。受診理由は何ですか。（○は1つ）**

1. 治療のため
2. 定期健診のため
3. 治療および定期健診

**Q19 : これまでの歯科受診についてお尋ねします。過去に歯科医院を受診しましたか。（○は1つ）**

1. はい → Q19-1、Q19-2をお答えください
2. いいえ → Q20へお進みください

**【Q19で「1. はい」と回答した方にお尋ねします】**

**Q19-1 : 最後に歯科医院を受診したのはいつ頃ですか（○は1つ）**

1. 3か月以内
2. 半年以内
3. 1年以内
4. 2年以内
5. 3年以内
6. 5年以内
7. 5年以上前

**Q19-2 : 歯科医院を受診した理由は何ですか（○は1つ）**

1. 治療のため → Q20へお進みください
2. 定期健診のため → Q19-3をお答えください
3. 治療および定期健診 → Q19-3をお答えください

**【Q19-2で「2. 定期健診のため」、「3. 治療および定期健診」と回答した方にお尋ねします】**

**Q19-3 : 定期健診の頻度はどのくらいですか（○は1つ）**

1. 6か月以内に1回
2. 1年以内に1回
3. 2~3年に1回
4. それ以外

**Q20 : これまでに歯科医院等で歯みがき指導を受けたことはありますか。（○は1つ）**

1. はい
2. いいえ

Q21：日常生活や職場で困った時に、相談したり助けてくれる人はいますか。

該当するものを全て選んでください（あてはまるもの全てに○印）

- |                    |        |          |         |
|--------------------|--------|----------|---------|
| 1. 家族              | 2. 友人  | 3. 職場の同僚 | 4. 近所の人 |
| 5. 趣味やボランティアなどの会の人 | 6. その他 | 7. いない   |         |

Q22-1：あなたは現在、働いていますか。（○は1つ）

- |           |                       |
|-----------|-----------------------|
| 1. 働いている  | → Q22-2、Q22-3をお答えください |
| 2. 働いていない | → Q23へお進みください         |

【Q22-1で「1. 働いている」と回答した方にお尋ねします】

Q22-2：職業は以下のどれにあてはまりますか（○は1つ）

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 1. 経営者・役員         | 2. 常時雇用の従業者（管理職）  |
| 3. 常時雇用の従業者（一般職）  | 4. 臨時雇い・パート・アルバイト |
| 5. 派遣社員・契約社員・嘱託社員 | 6. 自営業主・自由業主      |
| 7. その他（           | ）                 |

Q22-3：仕事の種類は大きくわけて次のどれに当てはまりますか（○は1つ）

- |                |           |               |
|----------------|-----------|---------------|
| 1. 専門・技術系の仕事   | 2. 管理的職業  | 3. 事務・営業系の職業  |
| 4. 販売・サービス系の職業 | 5. 保安系の職業 | 6. 労務系・作業系の職業 |
| 7. 農林漁業        | 8. その他（   | ）             |

**社会経済的な要因が健康を損なうという研究報告がみられるようになっていきます。下記の質問は、全ての人が健康を維持していくための貴重なデータとなるものです。できるだけお答えください。**

Q23：現在のあなたのご家庭の経済状況について、平均的家庭を「中」とした場合、当てはまるものの番号に1つ○を付けてください。主観・ご自分の判断で結構です（○は1つ）

- |      |        |      |        |      |
|------|--------|------|--------|------|
| 1. 上 | 2. 中の上 | 3. 中 | 4. 中の下 | 5. 下 |
|------|--------|------|--------|------|

Q24：学校に通われた年数は何年ですか（小学校入学から数えてください）（○は1つ）

- |         |           |           |          |
|---------|-----------|-----------|----------|
| 1. 9年以下 | 2. 10～12年 | 3. 13～15年 | 4. 16年以上 |
|---------|-----------|-----------|----------|

Q25：最後に身長と体重をお知らせください。正確にわからない場合は、おおよそで結構です。

身長	cm
----	----

体重	kg
----	----

ご協力ありがとうございました。  
最後に氏名などの書き忘れがないかご確認ください。

3. 歯科健診票（歯科患者調査）

歯科健診票

健診日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

患者様のID番号 \_\_\_\_\_ (調査対象一覧表の左側にある二桁の番号)

患者様の管理番号 \_\_\_\_\_ (調査対象一覧表にある任意の管理番号)

(ふりがな)

患者様お名前 \_\_\_\_\_

生年月日：明・大・昭・平 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 性別（男性・女性） \_\_\_\_\_

【現在歯・喪失歯の状況】

	18	17	16	15	14	13	12	11		21	22	23	24	25	26	27	28	
右																		左
	48	47	46	45	44	43	42	41		31	32	33	34	35	36	37	38	

／：健全な歯	C：未処置歯	IF：インレー，アンレー
K：クラウン	R：レジン充填，セメント充填	A：アマルガム充填
P：ブリッジのポンティック	D：全部床義歯，部分床義歯	IM：インプラント
△：欠損（補綴なし）	×：先欠，未萌出智歯	

【歯肉の状況】

	18	17	16	15	14	13	12	11		21	22	23	24	25	26	27	28	
出血	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>		<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
PD	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>		<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
AL	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>		<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
	48	47	46	45	44	43	42	41		31	32	33	34	35	36	37	38	

出血：なし=0，あり=1，測定不可能=M，歯が喪失=X  
 歯周ポケット（PD）：各歯の最大歯周ポケット深さ（mm）を記入，測定不可能=M，歯が喪失=X  
 アタッチメントロス（AL）：各歯の最大アタッチメントロス（mm）を記入，  
 測定不可能=M，歯が喪失=X

#### 4. 一般地域住民質問票

公益財団法人 8020 推進財団 平成 27 年度調査研究事業  
「一般地域住民を対象とした歯科医療による健康増進効果に関する調査研究」

### 歯と口と健康の質問紙

謹啓 皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

公益財団法人 8020 推進財団では、「歯科医療による健康増進効果に関する調査研究」を平成 26 年度から実施しており、この度の「一般地域住民を対象とした歯科医療による健康増進効果に関する調査研究」では、「歯と口と健康の質問紙」調査を地域の住民の方を対象に実施することになりました。

この研究は、皆様の歯の治療の受診状況や口腔・全身の健康状態の関係を明らかにすることを目的とし、日本歯科医学会の研究倫理審査委員会の承認を得て実施しております。

ご多用のところ、誠に恐縮ではございますが、何卒ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

謹白

平成 27 年 10 月 30 日

研究責任者 公益財団法人 8020 推進財団

専務理事 深井稜博

#### ○8020 推進財団とは

本財団は、国民の積極的な健康づくりに寄与することを目的に、80 歳になっても自分の歯を 20 本以上保とうという運動「8020 (ハチマルニイマル) 運動」を国民運動として発展させていくために活動しており、今年度標記調査研究を実施いたします。

#### 1. 調査の対象

このアンケートは、日本にお住まいの 20 歳から 79 歳の住民 5,000 名の方を対象に歯と口の健康状況について実施するもので、住民基本台帳より無作為に皆様方を抽出させていただきました。なお、住民基本台帳より得られた情報は調査終了後に速やかに破棄致します。

#### 2. 調査の所要時間とアンケートへの参加等

このアンケートにお答えいただく所要時間は、およそ 15 分間です。

このアンケート用紙にご回答の上、平成 27 年 12 月 15 日 (火曜日)までに同封の返信用封筒に入れてご投函ください。

なお、この調査は平成 28 年以降、取りまとめを行う予定としております。

#### 3. 調査の謝礼

心ばかりの謝礼品を同封させていただきましたのでご笑納ください。

#### 4. 個人情報の取り扱い

このアンケート用紙には、あなた個人を特定する情報（お名前やご住所など）をお答えいただく質問はございません。また、このアンケートの回答は、統計処理を実施することを目的としておりますが、回答した場合も、回答していない場合でも不利益は生じません。また、このアンケートは無記名にて実施し、皆様方個人を特定できないため、アンケート回答後に個々の調査内容の撤回はできません。

●調査へのご協力について以下の点についてご確認をお願いいたします。

※該当箇所にレ点をお願いいたします。

・調査への参加について

調査の参加に協力（同意）します

調査の参加に協力（同意）しません

記入日 平成27年 月 日

性別 男性 女性

ご年齢 歳

本調査の方法及び計画等につきましては以下にお問い合わせください。

公益財団法人8020推進財団

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-20 歯科医師会館内

TEL : 03-3512-8020 FAX : 03-3511-7088

次の健康や行動に関するQ1～Q25の質問について選択またはご記入をお願いします。

**Q1-1：あなたの歯や歯ぐきの健康状態はいかがですか（○は1つ）**

1. よい	2. まあよい	3. ふつう	4. あまりよくない	5. よくない
-------	---------	--------	------------	---------

**Q1-2：現在、ご自分の歯や口の状態で気になることはありますか。**

該当するもの全てに○をつけてください（あてはまるもの全てに○印）

1. 噛み具合	2. 外観	3. 発話	4. 口臭
5. 痛み（選んでください → 歯・歯ぐき・舌・その他）	6. 義歯の具合が悪い		
7. 飲み込みにくい	8. 口の渇き	9. 歯科治療が中断している	
10. あごの関節	11. 歯並び	12. その他	13. 特に問題はない

**Q2-1：全体的にみて、あなたの健康状態はいかがですか（○は1つ）**

1. よい	2. まあよい	3. ふつう	4. あまりよくない	5. よくない
-------	---------	--------	------------	---------

**Q2-2：現在、次のような症状がありますか。**

該当するもの全てに○をつけてください（あてはまるもの全てに○印）

1. 肩の痛み	2. 腰痛	3. ひじや手の痛み	4. 足の痛み	5. 神経痛
6. 耳鳴り	7. 難聴	8. 目のかすみ	9. 不眠症	
10. その他（症状：				11. 特にない

**Q2-3：病気についてお尋ねします。**

①現在、次のいずれかの病気で治療を受けていますか（あてはまるもの全てに○印）

1. 糖尿病	2. 脳卒中	3. 心臓病	4. がん	5. 肺炎
6. 高血圧症	7. 高脂血症	8. 肥満症	9. 認知症	
10. 慢性閉塞性肺疾患（COPD）	11. その他（主な病名：			)
12. 特に病気はない				

②現在治療を受けていないが過去にかかったことがある病気はありますか

（あてはまるもの全てに○印）

1. 糖尿病	2. 脳卒中	3. 心臓病	4. がん	5. 肺炎
6. 高血圧症	7. 高脂血症	8. 肥満症	9. 認知症	
10. 慢性閉塞性肺疾患（COPD）	12. その他（主な病名：			)
13. その他（主な病名：				14. 特に病気はない

③現在治療を受けていないが健診で指摘されたことがある病気はありますか

（あてはまるもの全てに○印）

1. 糖尿病	2. 脳卒中	3. 心臓病	4. がん	5. 肺炎
6. 高血圧症	7. 高脂血症	8. 肥満症	9. 認知症	
10. 慢性閉塞性肺疾患（COPD）	11. その他（主な病名：			)
12. 特に病気はない	13. 健診を受けていないのでわからない			

**Q2-4：介護認定を受けていますか。**

申請中の方は、現在の認定状況でお答えください（○は1つ）

- |           |         |         |         |         |
|-----------|---------|---------|---------|---------|
| 1. 受けていない | 2. 要支援1 | 3. 要支援2 |         |         |
| 4. 要介護1   | 5. 要介護2 | 6. 要介護3 | 7. 要介護4 | 8. 要介護5 |

**Q2-5：過去1年間で「歯や歯ぐき」が原因で仕事に支障をきたしたことがありましたか（○は1つ）**

- |       |           |            |          |
|-------|-----------|------------|----------|
| 1. ない | 2. たまにあった | 3. ときどきあった | 4. よくあった |
|-------|-----------|------------|----------|

**Q2-6：過去1年間で「歯や歯ぐき」が原因でよく眠れなかったことがありましたか（○は1つ）**

- |       |           |            |          |
|-------|-----------|------------|----------|
| 1. ない | 2. たまにあった | 3. ときどきあった | 4. よくあった |
|-------|-----------|------------|----------|

**Q3-1：ご自分の歯は何本ありますか。**

かぶせた歯（金歯・銀歯）、さし歯、根だけ残っている歯も本数に含めます。歯はすべてあれば28本～32本あります（親しらずに個人差が最大4本あります）

本
---

**Q3-2：入れ歯の使用についてお聞きします。**

① 部分入れ歯を使っていますか（あてはまるもの全てに○印）

- |         |         |            |
|---------|---------|------------|
| 1. 上のあご | 2. 下のあご | 3. 利用していない |
|---------|---------|------------|

② 全部入れ歯を使っていますか（あてはまるもの全てに○印）

- |         |         |            |
|---------|---------|------------|
| 1. 上のあご | 2. 下のあご | 3. 利用していない |
|---------|---------|------------|

**Q4：自分の歯または入れ歯で左右の奥歯をしっかりと噛みしめられますか（○は1つ）**

- |            |            |           |
|------------|------------|-----------|
| 1. 左右両方かめる | 2. 片方だけかめる | 3. 両方かめない |
|------------|------------|-----------|

**Q5：歯をみがくと血がでますか（○は1つ）**

- |        |       |        |
|--------|-------|--------|
| 1. いつも | 2. 時々 | 3. いいえ |
|--------|-------|--------|

**Q6：歯ぐきが腫れてブヨブヨしますか（○は1つ）**

- |        |       |        |
|--------|-------|--------|
| 1. いつも | 2. 時々 | 3. いいえ |
|--------|-------|--------|

**Q7：冷たいものや熱いものが歯にしみますか（○は1つ）**

- |        |       |        |
|--------|-------|--------|
| 1. いつも | 2. 時々 | 3. いいえ |
|--------|-------|--------|

**Q8：かかりつけの歯科医院がありますか（○は1つ）**

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|



Q9：仕事が忙しかったり休めず、なかなか歯科医院に行けないことがありますか（○は1つ）

1. はい                      2. いいえ

Q10：家族や周囲の人々は、日頃歯の健康に関心がありますか（○は1つ）

1. はい                      2. どちらともいえない                      3. いいえ

Q11：自分の歯には自信があったり、人からほめられたことがありますか（○は1つ）

1. はい                      2. どちらともいえない                      3. いいえ

Q12：普段、職場や外出先でも歯を磨きますか（○は1つ）

1. 毎回                      2. 時々                      3. いいえ

Q13：間食（甘い食べ物や飲み物）をしますか（○は1つ）

1. 毎日                      2. 時々                      3. いいえ

Q14：生活習慣を教えてください。

① たばこ（○は1つ）

1. 吸っている                      2. 過去に吸っていたがやめた                      3. 吸ったことはない

② お酒（○は1つ）

1. 毎日飲む                      2. 週1回以上飲む                      3. 週1回未満  
4. 飲むのをやめた                      5. ほとんど飲まない（飲めない）

③ 運動習慣（○は1つ）

1. 毎日                      2. 週数回                      3. 月数回                      4. 月1回未満

④ 野菜摂取（○は1つ）

1. 毎日2回以上食べる                      2. 毎日1回以上                      3. 週数回                      4. 週1回未満

Q15-1：どのくらい歯をみがきますか（○は1つ）

1. 毎日3回以上                      2. 毎日2回                      3. 毎日1回                      4. 週数回未満                      5. みがかない

Q15-2：夜、寝る前に歯をみがきますか（○は1つ）

1. 毎日                      2. 時々                      3. いいえ

**Q15-3 : 歯をみがく時に歯磨剤（歯みがき剤）を使っていますか（○は1つ）**

1. フッ素入り歯磨剤を使っている
2. フッ素が入っていない歯磨剤を使っている
3. フッ素が入っているか不明だが、歯磨剤を使っている
4. 歯磨剤を使っていない

**Q16 : 歯間ブラシまたはフロス（糸ようじ）を使っていますか。（○は1つ）**

1. 毎日
2. 時々
3. いいえ

**Q17 : ゆっくりよく噛んで食事をしますか。（○は1つ）**

1. 毎日
2. 時々
3. いいえ

**Q18 : これまでの歯科受診についてお尋ねします。過去に歯科医院を受診しましたか。（○は1つ）**

1. はい → Q19-1、Q19-2 をお答えください
2. いいえ → Q20 へお進みください

**【Q18で「1. はい」と回答した方にお尋ねします】**

**Q18-1 : 最後に歯科医院を受診したのはいつ頃ですか（○は1つ）**

1. 3か月以内
2. 半年以内
3. 1年以内
4. 2年以内
5. 3年以内
6. 5年以内
7. 5年以上前

**Q18-2 : 歯科医院を受診した理由は何ですか（○は1つ）**

1. 治療のため → Q20 へお進みください
2. 定期健診のため → Q19-3 をお答えください
3. 治療および定期健診 → Q19-3 をお答えください

**【Q18-2で「2. 定期健診のため」、「3. 治療および定期健診」と回答した方にお尋ねします】**

**Q18-3 : 定期健診の頻度はどのくらいですか（○は1つ）**

1. 6か月以内に1回
2. 1年以内に1回
3. 2~3年に1回
4. それ以外

**Q19 : これまでに歯科医院等で歯みがき指導を受けたことはありますか。（○は1つ）**

1. はい
2. いいえ

**Q20：日常生活や職場で困った時に、相談したり助けてくれる人はいますか。**

該当するものを全て選んでください（あてはまるもの全てに○印）

- |                    |        |          |         |
|--------------------|--------|----------|---------|
| 1. 家族              | 2. 友人  | 3. 職場の同僚 | 4. 近所の人 |
| 5. 趣味やボランティアなどの会の人 | 6. その他 | 7. いない   |         |

**Q21-1：あなたは現在、働いていますか。（○は1つ）**

- |           |                       |
|-----------|-----------------------|
| 1. 働いている  | → Q22-2、Q22-3をお答えください |
| 2. 働いていない | → Q23へお進みください         |

**【Q21-1で「1. 働いている」と回答した方にお尋ねします】**

**Q21-2：職業は以下のどれにあてはまりますか（○は1つ）**

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 1. 経営者・役員         | 2. 常時雇用の従業者（管理職）  |
| 3. 常時雇用の従業者（一般職）  | 4. 臨時雇い・パート・アルバイト |
| 5. 派遣社員・契約社員・嘱託社員 | 6. 自営業主・自由業主      |
| 7. その他（           | ）                 |

**Q21-3：仕事の種類は大きくわけて次のどれに当てはまりますか（○は1つ）**

- |                |           |               |
|----------------|-----------|---------------|
| 1. 専門・技術系の仕事   | 2. 管理的職業  | 3. 事務・営業系の職業  |
| 4. 販売・サービス系の職業 | 5. 保安系の職業 | 6. 労務系・作業系の職業 |
| 7. 農林漁業        | 8. その他（   | ）             |

**社会経済的な要因が健康を損なうという研究報告がみられるようになっていきます。下記の質問は、全ての人が健康を維持していくための貴重なデータとなるものです。できるだけお答えください。**

**Q22：現在のあなたのご家庭の経済状況について、平均的家庭を「中」とした場合、当てはまるものの番号に1つ○を付けてください。主観・ご自分の判断で結構です（○は1つ）**

- |      |        |      |        |      |
|------|--------|------|--------|------|
| 1. 上 | 2. 中の上 | 3. 中 | 4. 中の下 | 5. 下 |
|------|--------|------|--------|------|

**Q23：学校に通われた年数は何年ですか（小学校入学から数えてください）（○は1つ）**

- |         |           |           |          |
|---------|-----------|-----------|----------|
| 1. 9年以下 | 2. 10～12年 | 3. 13～15年 | 4. 16年以上 |
|---------|-----------|-----------|----------|

**Q24：最後に身長と体重をお知らせください。正確にわからない場合は、おおよそで結構です。**

身長

cm

体重

kg

ご協力ありがとうございました。  
最後に書き忘れがないかご確認ください。

2014年～2019年度調査研究事業  
「歯科医療による健康増進効果に関する調査研究」  
最終報告書  
2020年10月発行

公益財団法人 8020 推進財団  
東京都千代田区九段北 4-1-20 歯科医師会館内  
TEL：03-3512-8020